

I 政策分野別の考察について

27の政策分野ごとに5年間の生活実感と3年間の政策重要度の回答結果の推移などからその分野の時系列変化と全体の中での位置づけとして読み取れる事実や課題をまとめた。

<表の見方>

①生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	②政策 重要度	H25	H26	H27
	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%	〇〇%		〇〇%	〇〇%	〇〇%
③【考察】									
.....									
.....									
.....									

- ① 当該分野における生活実感の設問の肯定的回答（「そう思う」と「どちらかというと思う」を足し合わせたもの）の各年の値
- ② 当該分野における政策重要度の肯定的回答（「重要である」と「どちらかという重要である」を足し合わせたもの）の各年の値
- ③ 市全体と世代別・性別の観点を中心に、行政区別を一部含めて、当該分野の時系列変化や全体の中での位置づけ、課題等を記述

考察の中で言及した設問はグラフを掲載しているので、ご確認いただきたい。

1 環境

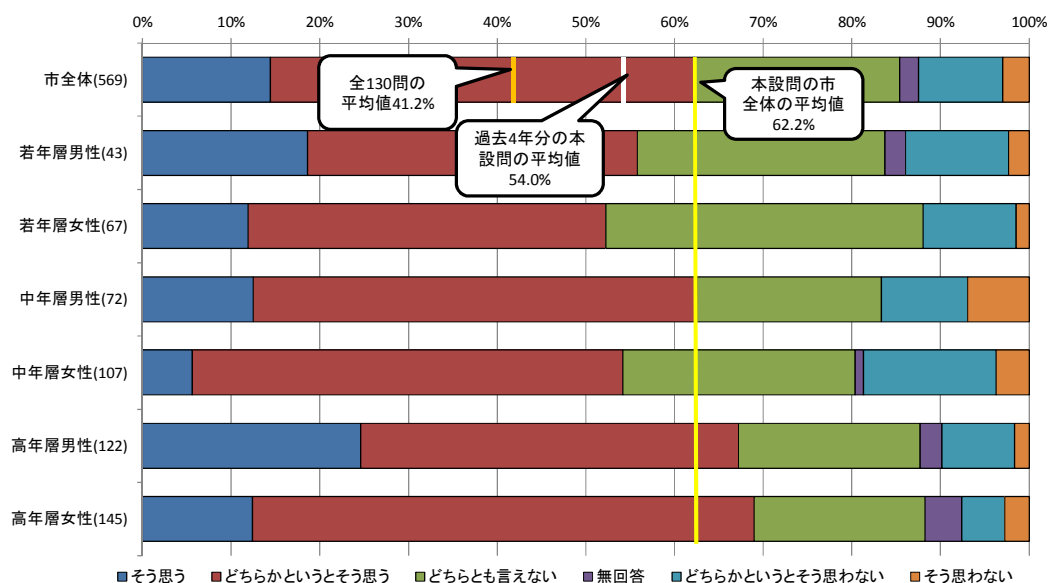
生活 実感	H23 50.3%	H24 46.9%	H25 50.9%	H26 50.1%	H27 50.8%	政策 重要度	H25 88.7%	H26 89.0%	H27 89.1%
----------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------	--------------	--------------	--------------

【考察】

- ・生活実感、政策重要度も例年と同様に高い順位（8位、4位）であった。
- ・設問2「「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。」と設問5「京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。」の生活実感は、ともに市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（54.0%→62.2%、25.2%→32.5%）。
- ・若年層は男女とも肯定的回答の割合がおおむね低かった。とりわけ設問3「省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。」の生活実感は若年層だけが大幅に低く、若年層をターゲットにした施策によって底上げを図ることができる可能性がある。
- ・政策重要度も、全体的に高い中で、若年層男性が最も低かった（81.0%）。

1 環境 生活実感（世代別・性別）

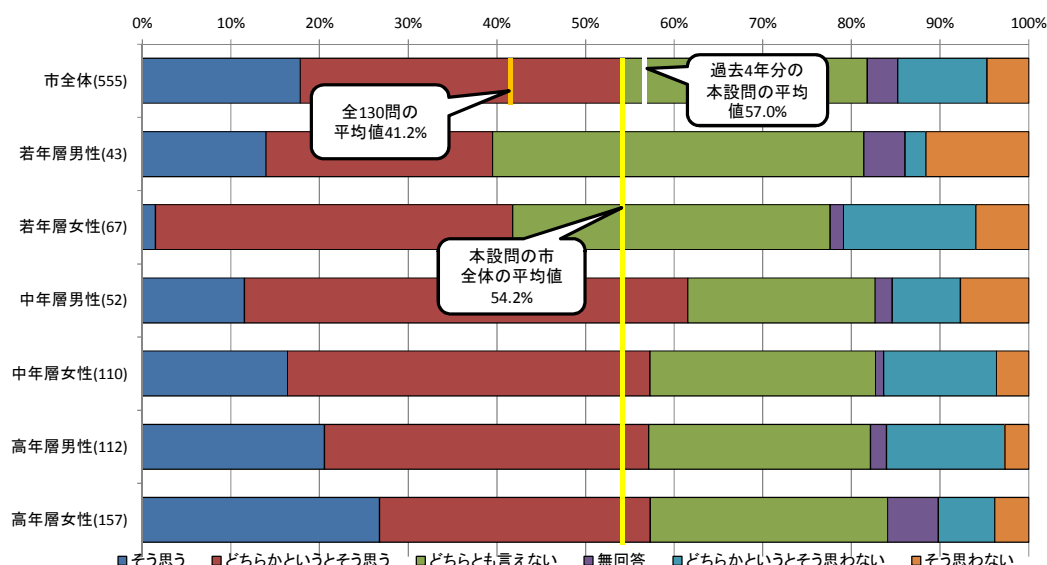
設問2：「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。



- ・設問2の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（54.0%→62.2%）。

1 環境 生活実感（世代別・性別）

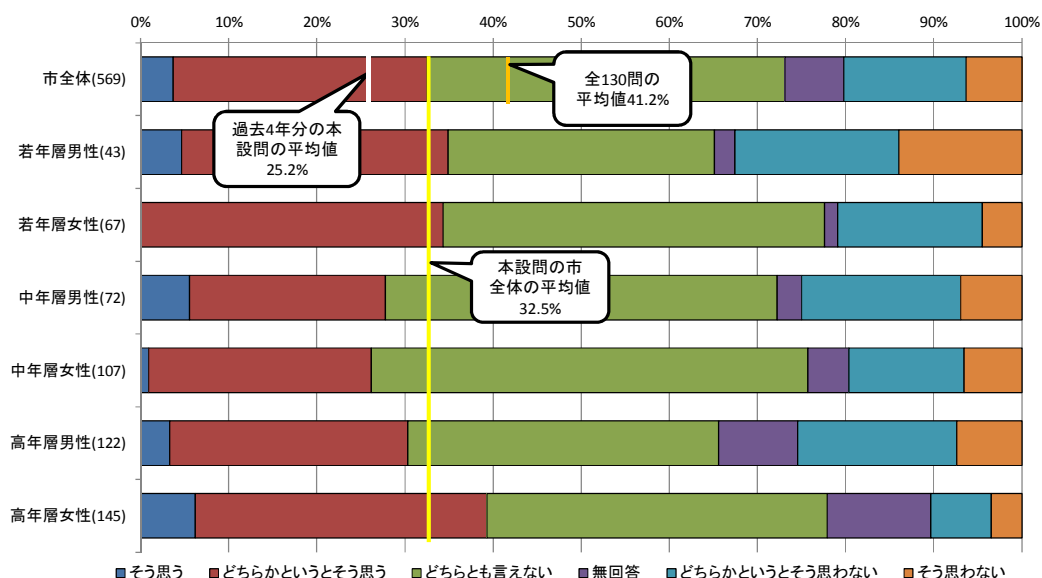
設問3：省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。



・設問3の生活実感は、若年層だけ肯定的回答の割合が大幅に低く、若年層をターゲットにした施策によって底上げを図ることができる可能性がある。

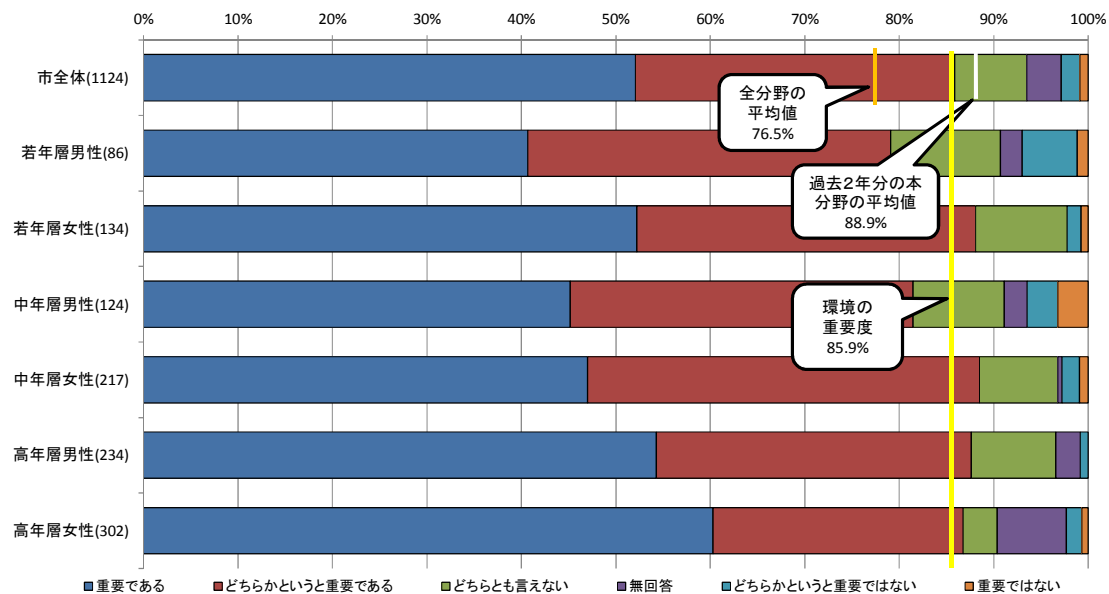
1 環境 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。



・設問5の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比較して肯定的回答の割合が大きく上昇した（25.2%→32.5%）。

1 環境 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度も、全体的に高い中で、若年層男性が最も低かった（81.0%）。

2 人権・男女共同参画

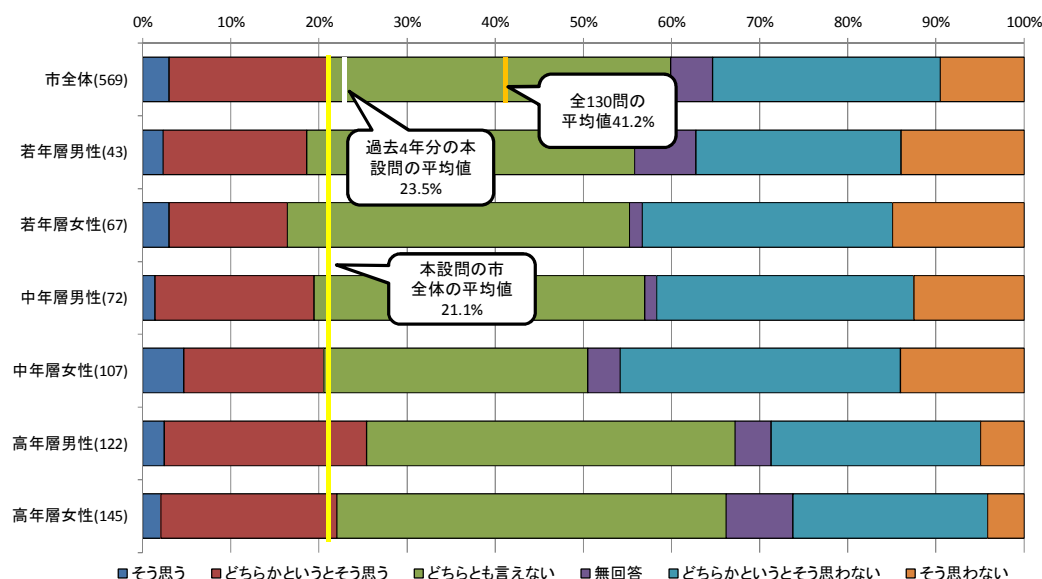
生活	H23	H24	H25	H26	H27	政策	H25	H26	H27
実感	23.5%	20.5%	23.1%	23.8%	23.7%	重要度	81.6%	82.8%	81.4%

【考察】

- ・生活実感の順位は低かった（24位）が、政策重要度は中位（14位）であった。
- ・市全体の生活実感の肯定的回答割合はすべての設問であまり変化がなかったが、設問3「女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。」が微減となっていることには注意を要する。
- ・設問4「女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。」は、これまでと同様に中年層女性の肯定的回答割合が20%にも満たないなど女性の生活実感が低い反面、中年層男性・高年層男性は肯定的回答割合が高く（30.8%、28.6%）、意識の差が見られる。

2 人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

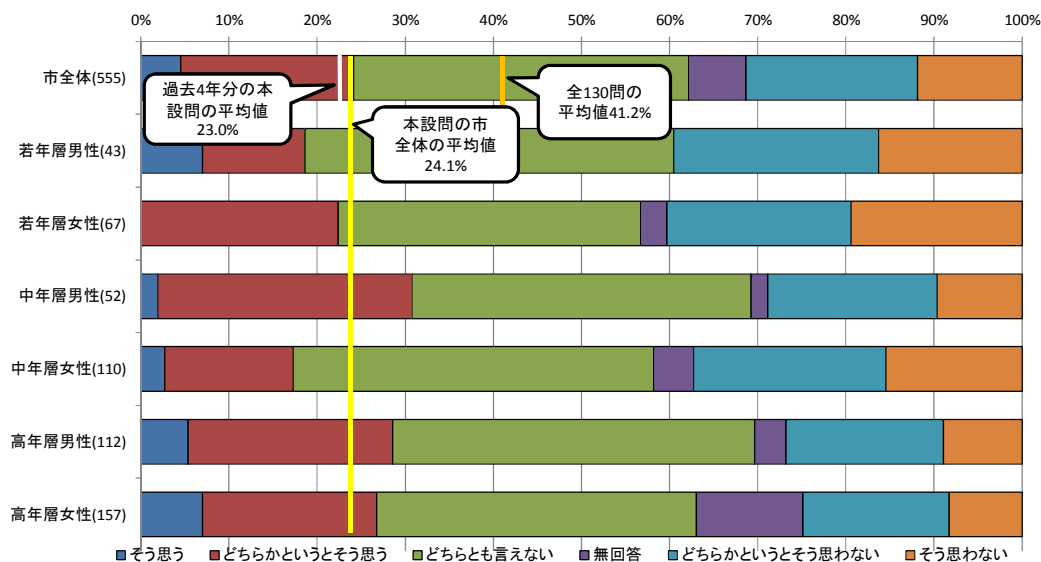
設問3：女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。



・設問3の生活実感が微減となっていることには注意を要する。

2 人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

設問4：女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。



・設問4は、これまでと同様に中年層女性の肯定的回答な割合が20%にも満たないなど女性の生活実感が低い反面、中年層男性・高年層男性は肯定的回答割合が高く（30.8%、28.6%）、意識の差が見られる。

3 青少年の成長と参加

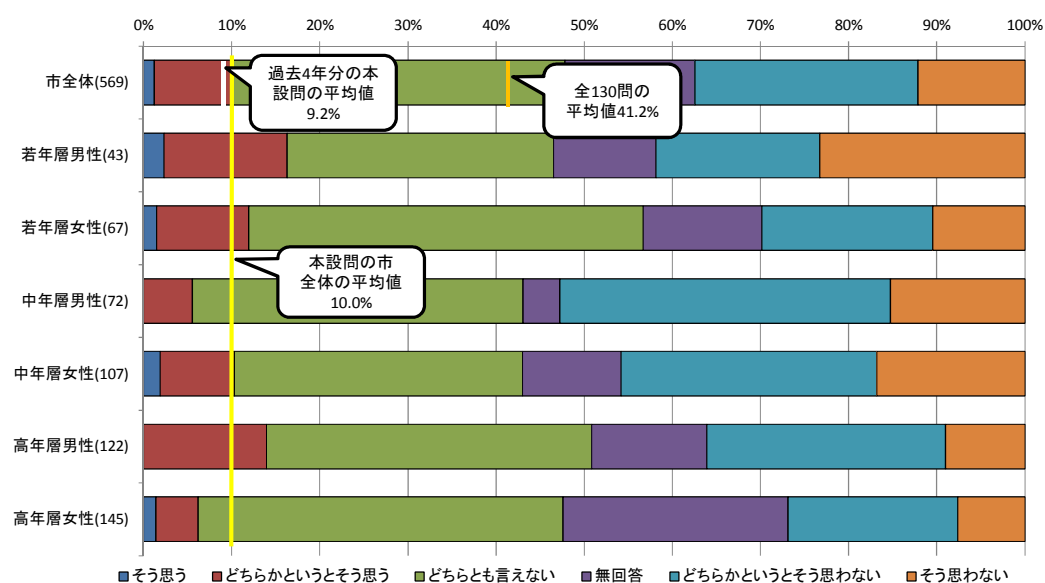
生活	H23	H24	H25	H26	H27	政策	H25	H26	H27
実感	12.5%	11.2%	13.2%	13.9%	13.0%	重要度	72.6%	81.4%	85.2%

【考察】

- ・この政策分野の生活実感は過去4年間の平均値と比較して、市全体でわずかに増加した（12.7%→13.0%）ものの、全分野での順位は最下位のままである。
- ・設問2「青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。」の生活実感で中年層男性が50%以上の否定的回答割合（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）だったのを筆頭に、設問3「青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。」で若年層男性も50%近い否定的回答割合を示したように、この分野は全体的に否定的回答割合が高かった。
- ・すべての設問の生活実感で「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が50%に近く、非常に高かったことも、この分野の特徴である。

3 青少年の成長と参加 生活実感（世代別・性別）

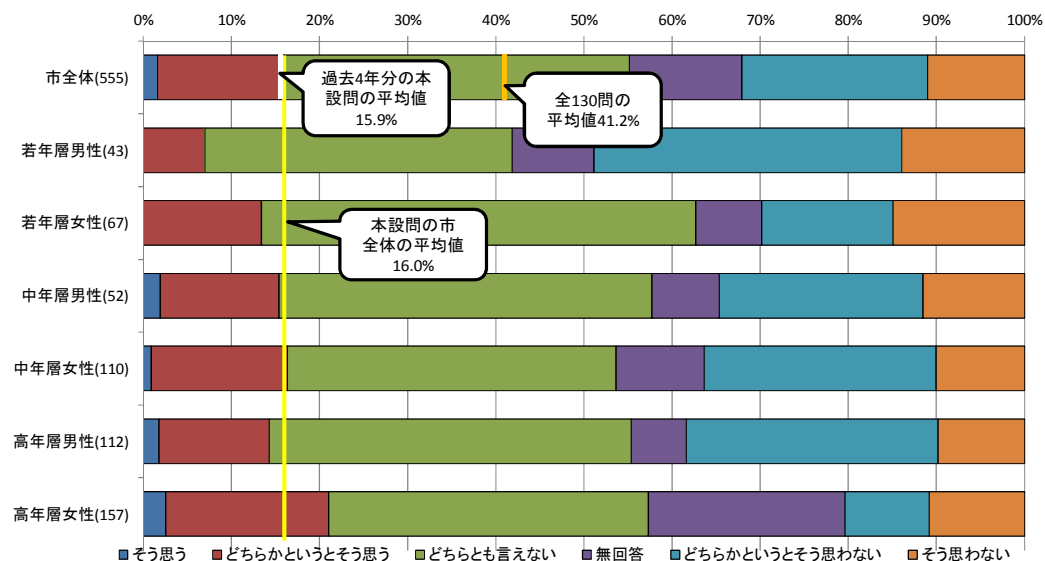
設問2：青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。



- ・設問2の生活実感は、中年層男性が50%以上の否定的回答割合（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）だった。

3 青少年の成長と参加 生活実感（世代別・性別）

設問3：青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。



・設問3の生活実感では、若年層男性が50%近い否定的回答割合を示した。

4 市民生活とコミュニティ

生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	36.9%	35.2%	38.2%	38.4%	38.6%		81.3%	79.1%	82.6%

【考察】

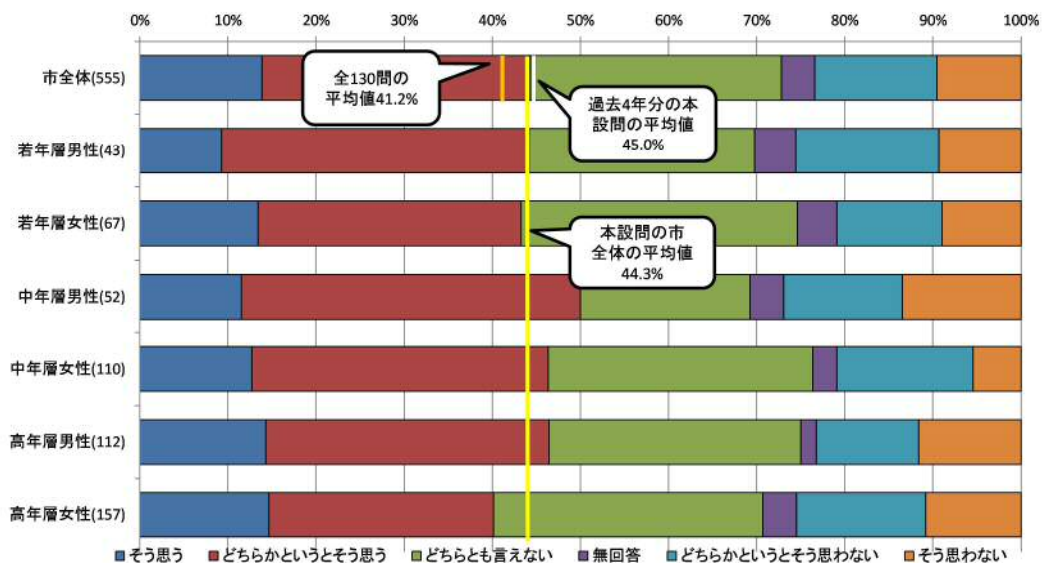
・生活実感の市全体の平均値を見ると、設問2「町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。」以外の項目は、過去4年と比較して肯定的回答割合が上昇している。

・設問3「地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。」の生活実感、各区のまちづくりカフェ事業といった市の積極的な取組もあって肯定的回答割合は伸びてきているものの、全130問の平均値（41.2%）よりも低い（31.9%）状況である。

・設問4「多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。」の生活実感、上の世代ほど肯定的回答割合が高く、またいずれの世代でも男性より女性のほうが肯定的回答の割合が高かった。政策分野3「青少年の成長と参加」や政策分野15「地域福祉」などの状況と重ねてみると、地域活動の担い手が高齢化している姿が垣間見える。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

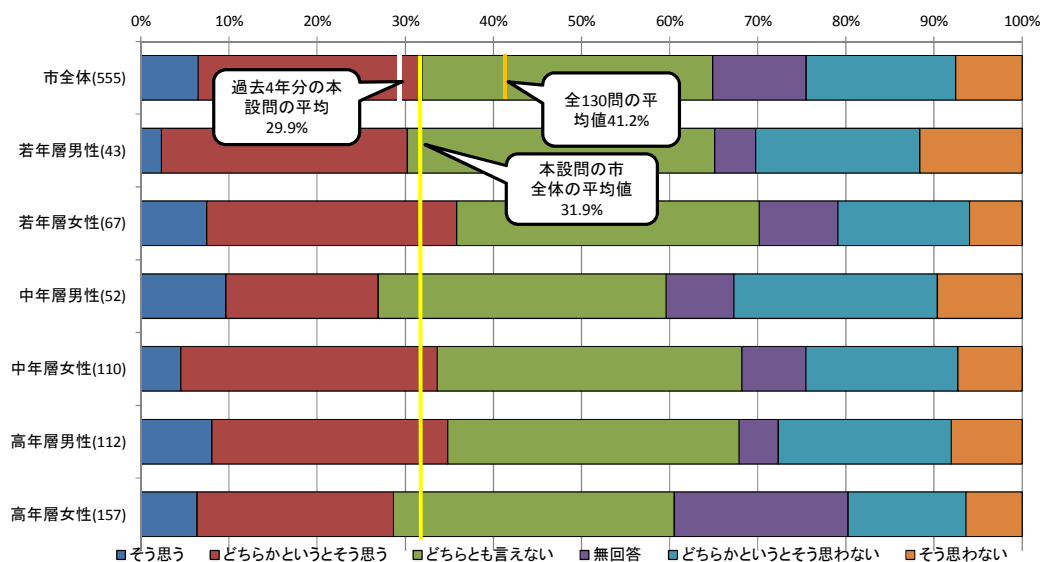
設問2：町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。



・設問2の生活実感は、この分野で唯一、過去4年間の平均値と比較して肯定的回答割合が低下した。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

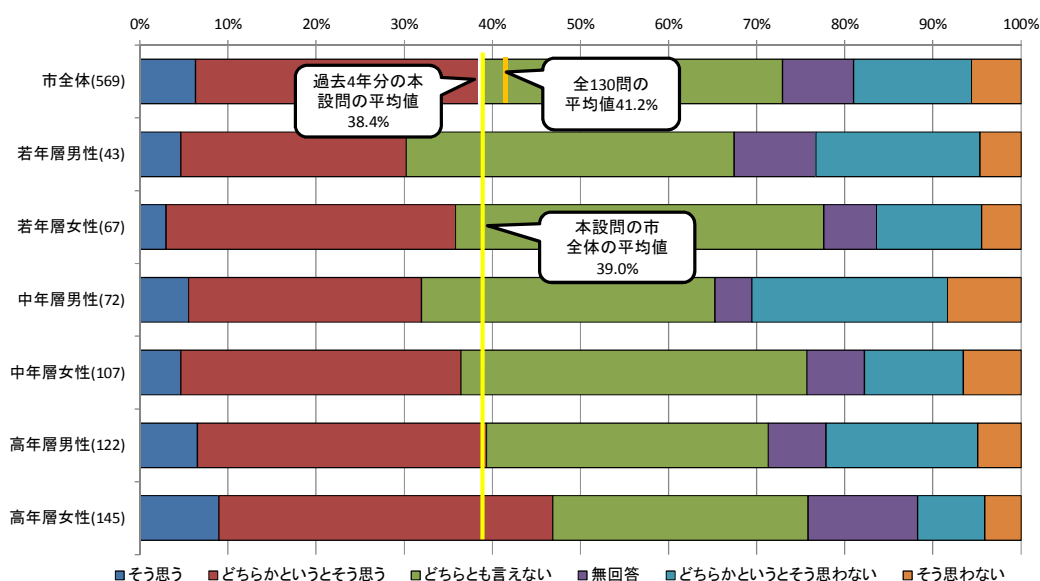
設問3：地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。



・設問3の生活実感は、各区のまちづくりカフェ事業といった市の積極的な取組もあって肯定的回答割合は伸びてきているものの、全130問の平均値（41.2%）よりも低い（31.9%）状況である。

4 市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

設問4：多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。



・設問4の生活実感は、上の世代ほど肯定的回答割合が高く、またいずれの世代でも男性より女性のほうが肯定的回答の割合が高かった。

5 市民生活の安全

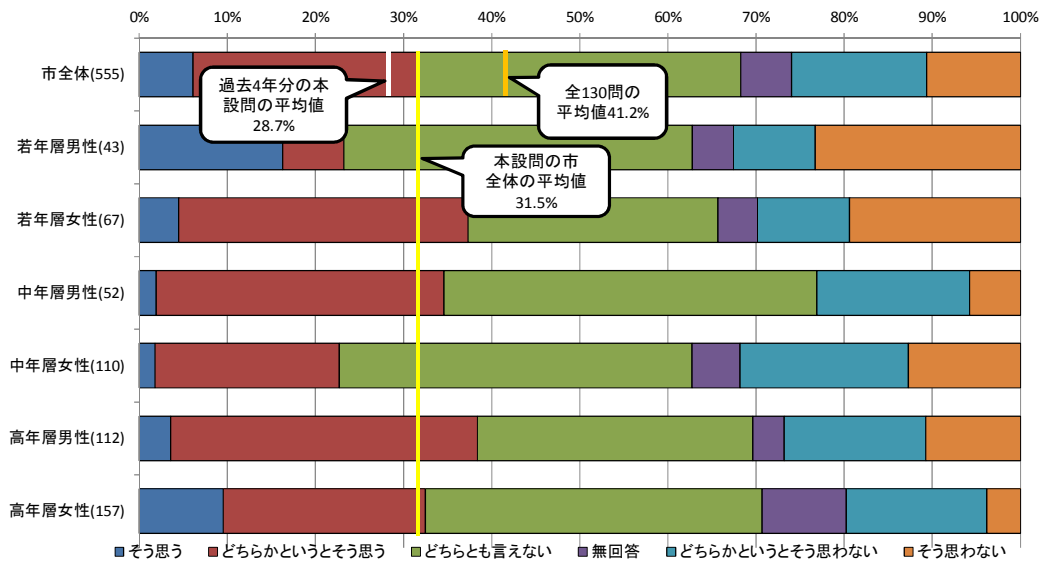
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	30.8%	27.0%	31.5%	30.3%	31.4%		88.7%	88.6%	90.1%

【考察】

- ・政策重要度の順位は高かった（3位）が、生活実感は低かった（20位）。
- ・設問1「犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。」と設問2「事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている」の生活実感は、若年層男性と中年層女性の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。
- ・設問3「悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。」の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かったが（20.4%）、その中でも特に中年層男性が低かった（12.5%）。
- ・設問4「消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は高年層が男女とも最も高く、上の世代ほど高いという結果が見られた。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

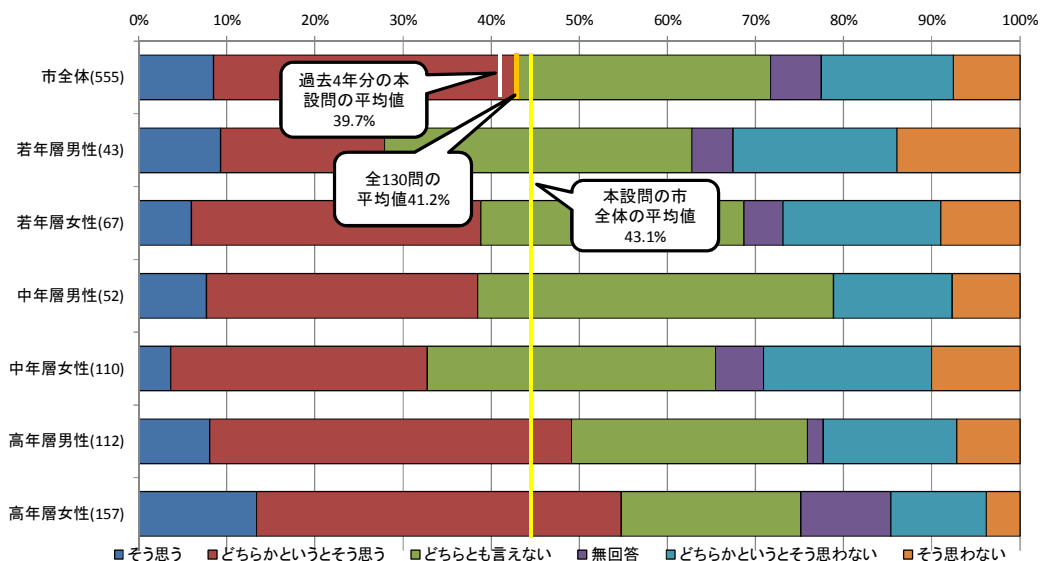
設問1：犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。



・設問1の生活実感は、若年層男性と中年層女性の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

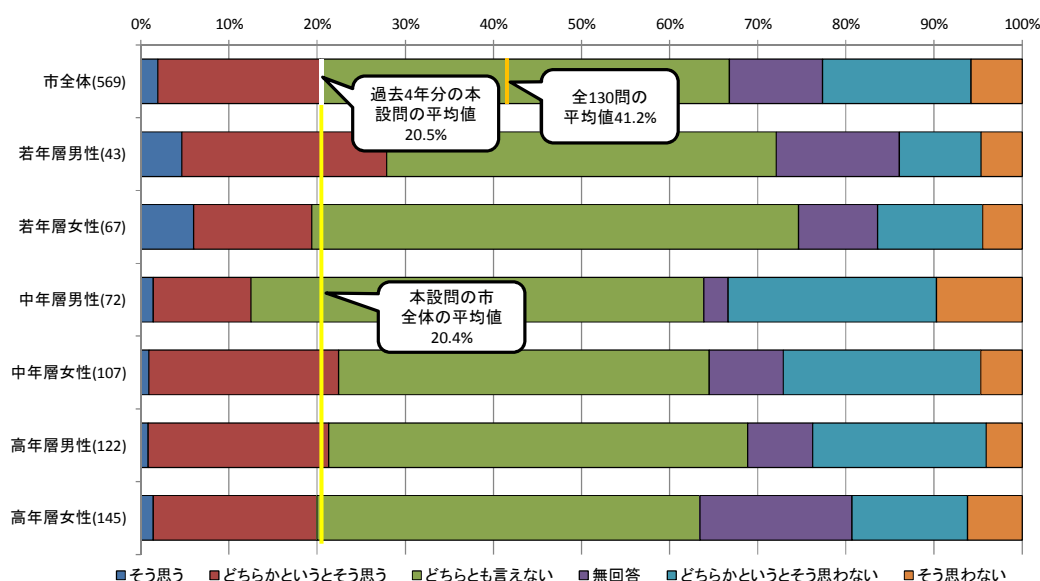
設問2：事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にらせるまちになっている。



・設問2の生活実感は、若年層男性と中年層女性の生活実感の肯定的回答割合が他の世代別・性別の回答割合と比べてやや低かった。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

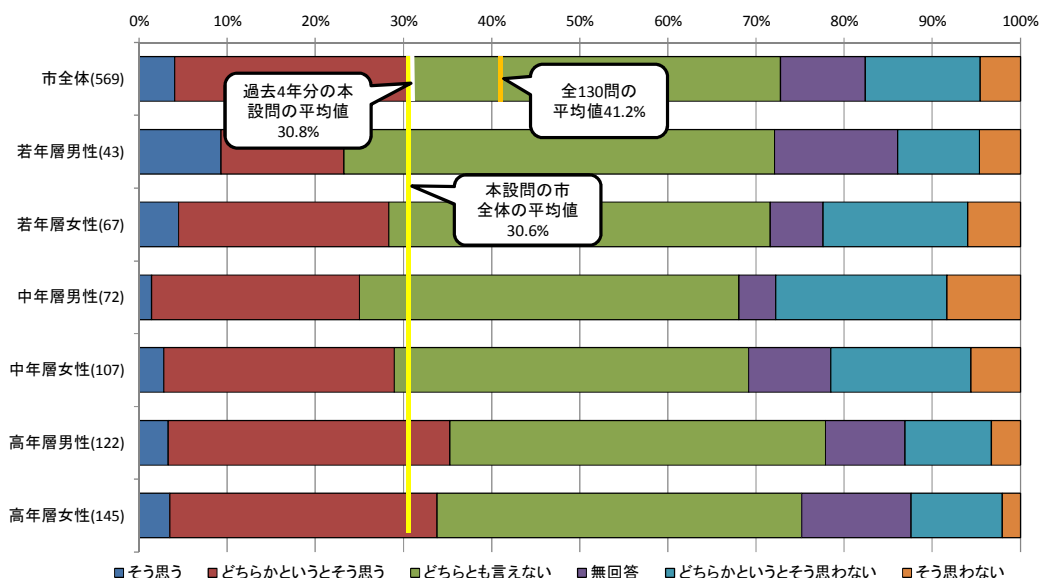
設問3：悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。



・設問3の生活実感は市全体で肯定的回答割合が低かったが（20.4%）、その中でも特に中年層男性が低かった（12.5%）。

5 市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

設問4：消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、高年層が男女とも最も高く、上の世代ほど高いという結果が見られた。

6 文化

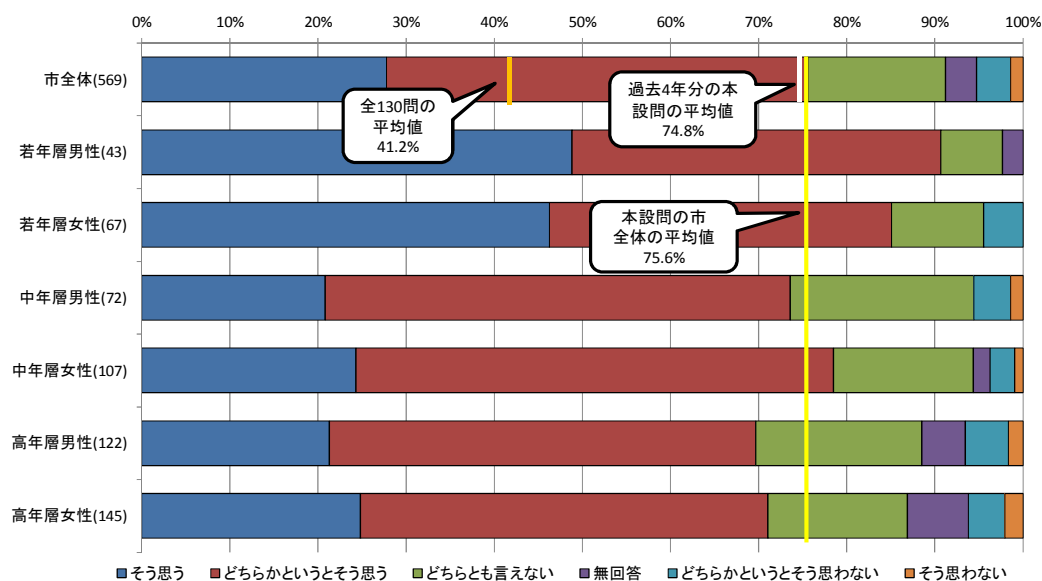
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	52.7%	53.5%	57.5%	57.1%	57.9%		77.1%	77.6%	78.7%

【考察】

- ・設問1「京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。」の生活実感の肯定的回答割合は、属性にかかわらず概ね高く（約75%）、中でも若年層の男女が高かった（90.7%、85.1%）。
- ・設問2「市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。」の生活実感、いずれの世代も男性より女性のほうが肯定的回答割合が高かった。
- ・設問3「文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の高さが突出している一方、上の世代ほど低くなっている。
- ・政策重要度は、若年層の男女で回答の差が大きい（80.2%、68.7%）ことが特徴である。

6 文化 生活実感（世代別・性別）

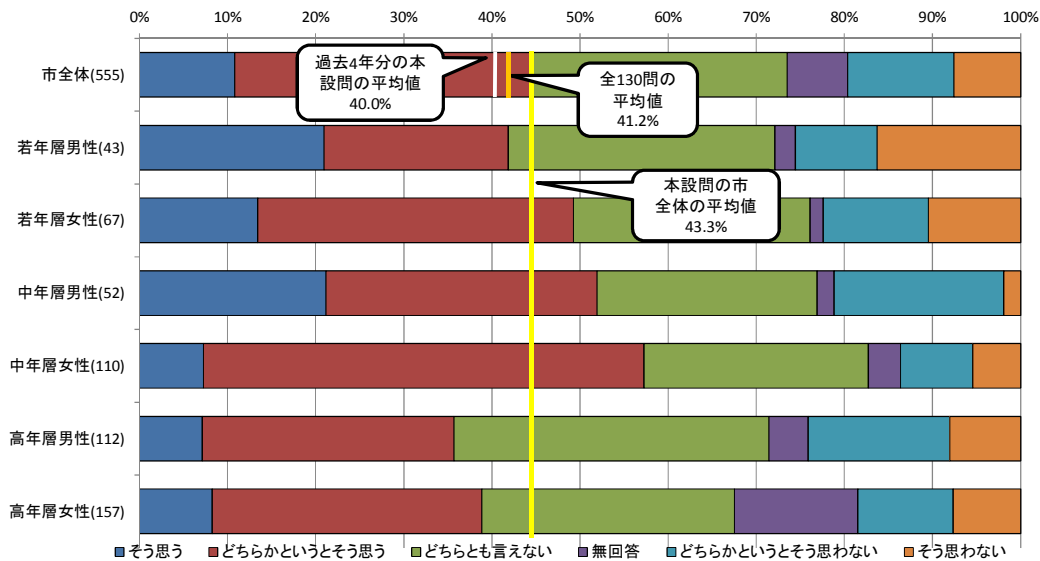
設問1：京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。



- ・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、属性にかかわらず概ね高く（約75%）、中でも若年層の男女が高かった（90.7%、85.1%）。

6 文化 生活実感（世代別・性別）

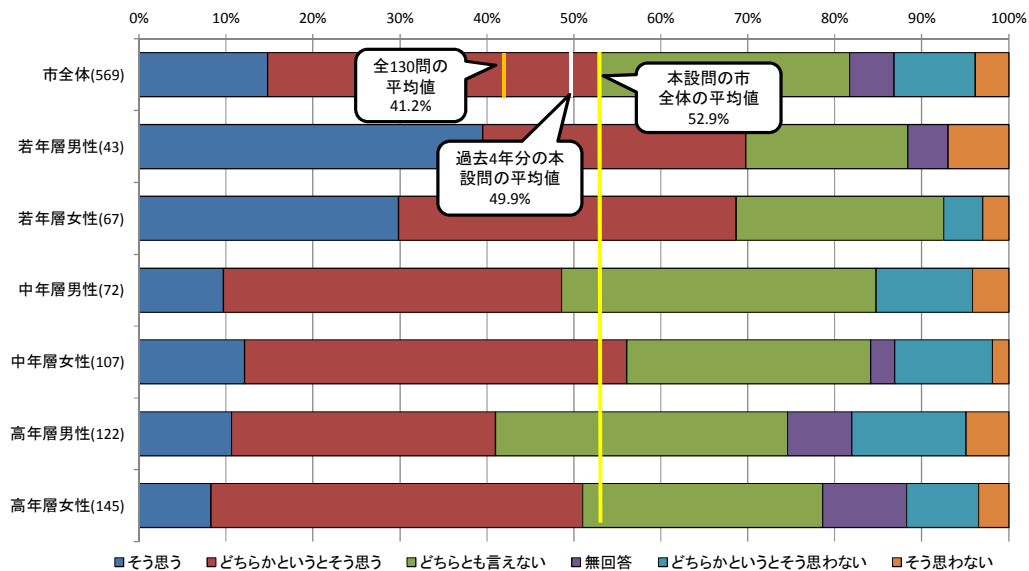
設問2：市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。



・設問2の生活実感は、いずれの世代も男性より女性のほうが肯定的回答割合が高かった。

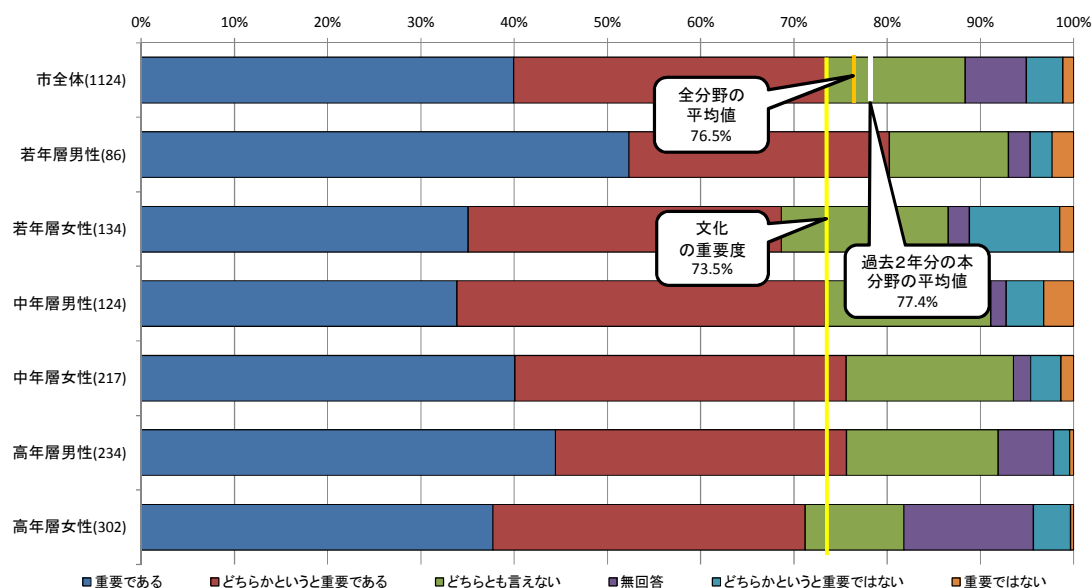
6 文化 生活実感（世代別・性別）

設問3：文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の高さが突出している一方、上の世代ほど低くなっている。

6 文化 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、若年層の男女で回答の差が大きい（80.2%、68.7%）ことが特徴である。

7 スポーツ

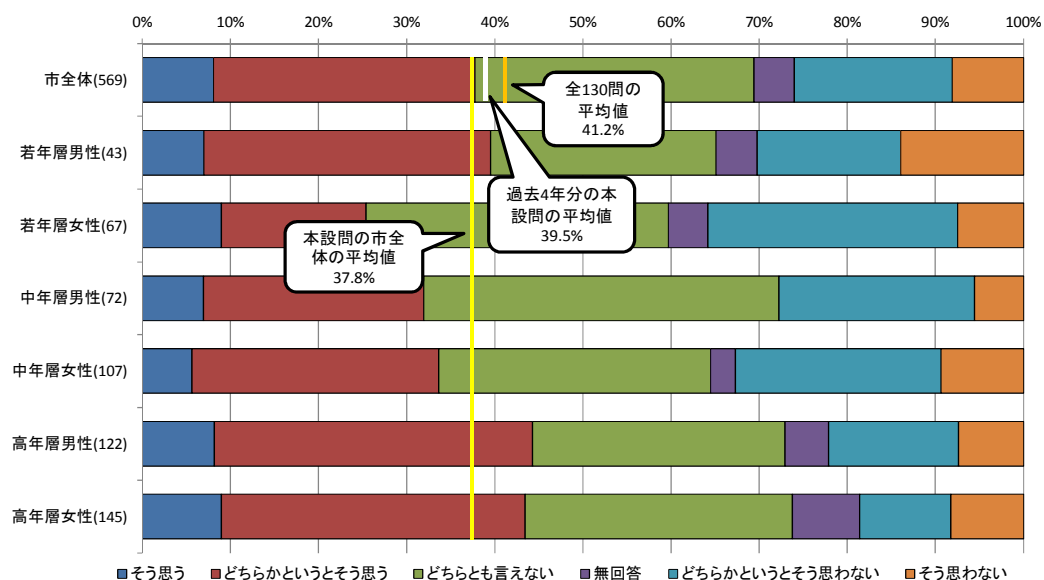
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	28.9%	28.2%	31.2%	30.5%	28.8%		63.9%	64.3%	65.2%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに順位が低く（22位、26位）、市として注力していくべき政策分野であるかどうかは一考を要するのではないかと。
- ・設問1「気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。」の生活実感は若年層女性の肯定的回答割合が低かった（25.4%。市全体は37.8%）。
- ・設問2「プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。」の生活実感は、肯定的回答割合が総じて低い（毎年16%程度）。
- ・設問3「スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。」の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（48.0%）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

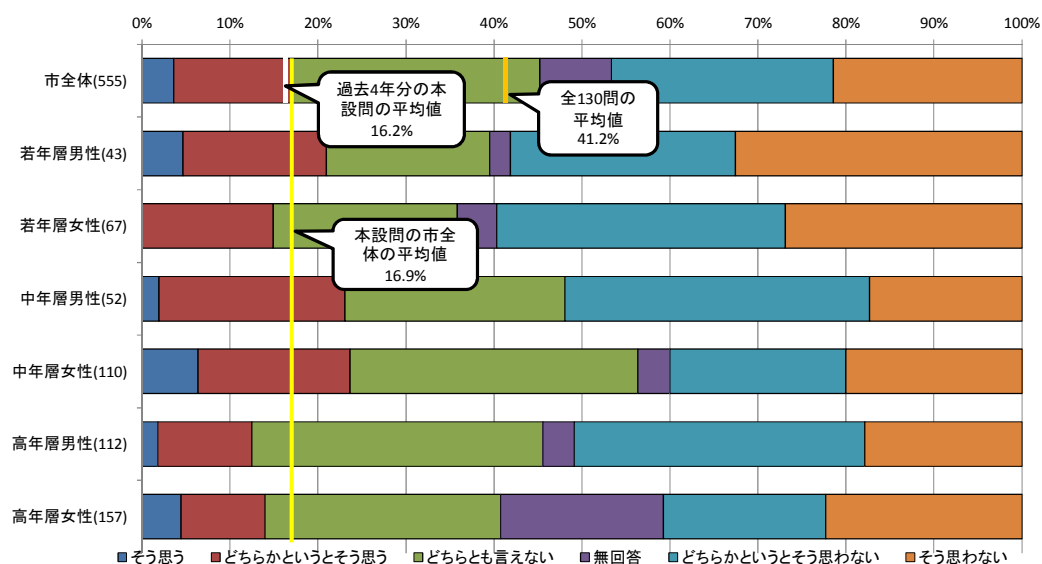
設問1：気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。



・設問1の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が低かった（25.4%。市全体は37.8%）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

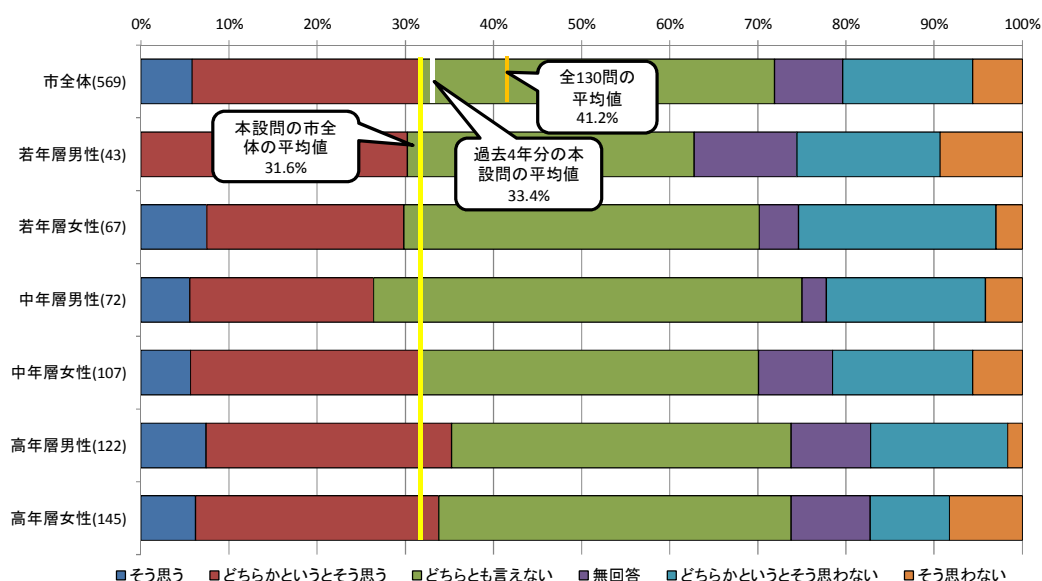
設問2：プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。



・設問2の生活実感は、肯定的回答割合が総じて低い（毎年16%程度）。

7 スポーツ 生活実感（世代別・性別）

設問3：スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひが増えている。



・設問3の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（48.0%）。

8 産業・商業

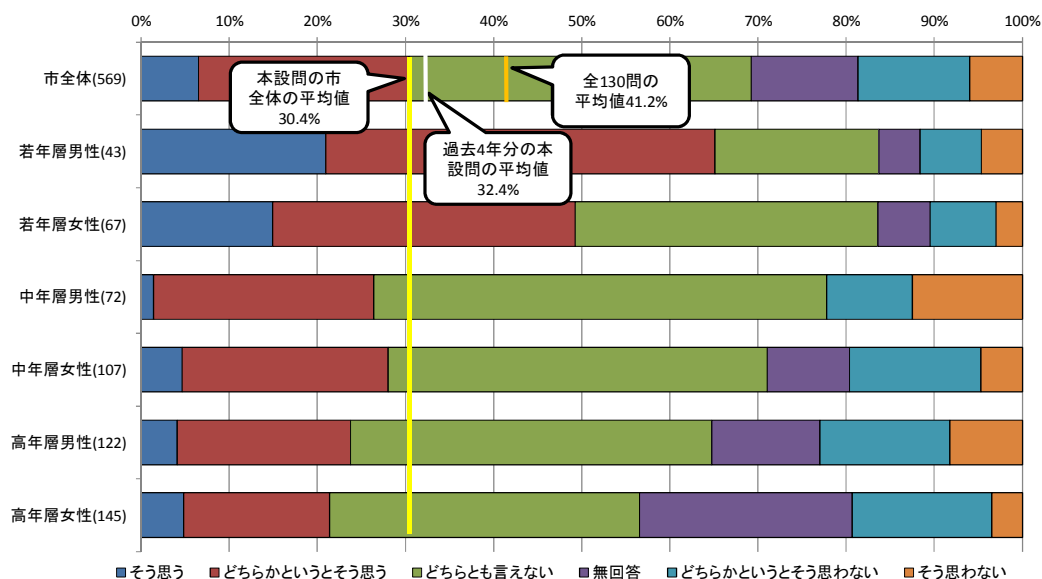
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	37.7%	34.7%	37.8%	38.4%	38.5%		70.6%	67.7%	73.1%

【考察】

- ・生活実感の順位は比較的高かった（11位）が、生活重要度は低かった（23位）。
- ・設問4「京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。」の生活実感、若年層男女の肯定的回答割合が高かった（65.1%、49.3%。市全体は30.4%）ものの、上の世代ほど低くなっている。行政区別でみると山科区の低さが突出している（8.1%）。
- ・設問5「働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。」の生活実感、市全体の肯定的回答の割合が低かった（11.8%）。その中では若年層男性の肯定的回答割合が高かった（27.9%）一方、中年層男性は著しく低く（2.8%）、否定的な回答割合も高い。勤労世帯の働き手の中心と思われる中年層男性の生活実感の低さから、労働環境や就職環境の厳しさが垣間見える。
- ・設問6「京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている」の生活実感の肯定的回答割合は、上記とは逆に中年層男性が高かった（55.8%）が、若年層男性が低かった（34.9%）。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

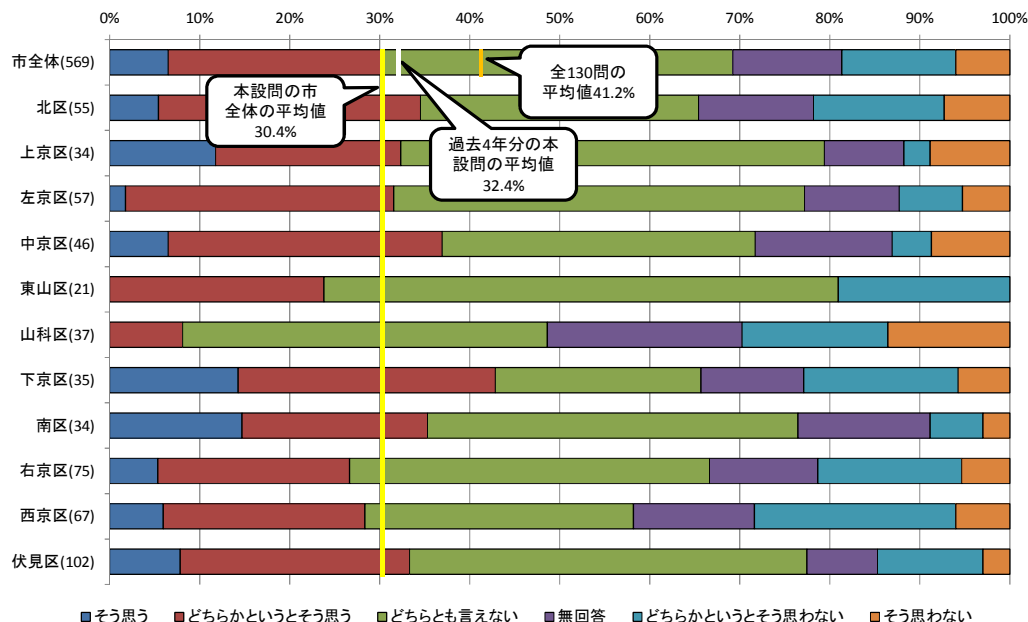
設問4：京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。



・設問4の生活実感は、若年層男女の肯定的回答割合が高かった（65.1%、49.3%。市全体は30.4%）ものの、上の世代ほど低くなっている。

8 産業・商業 生活実感（居住区別）

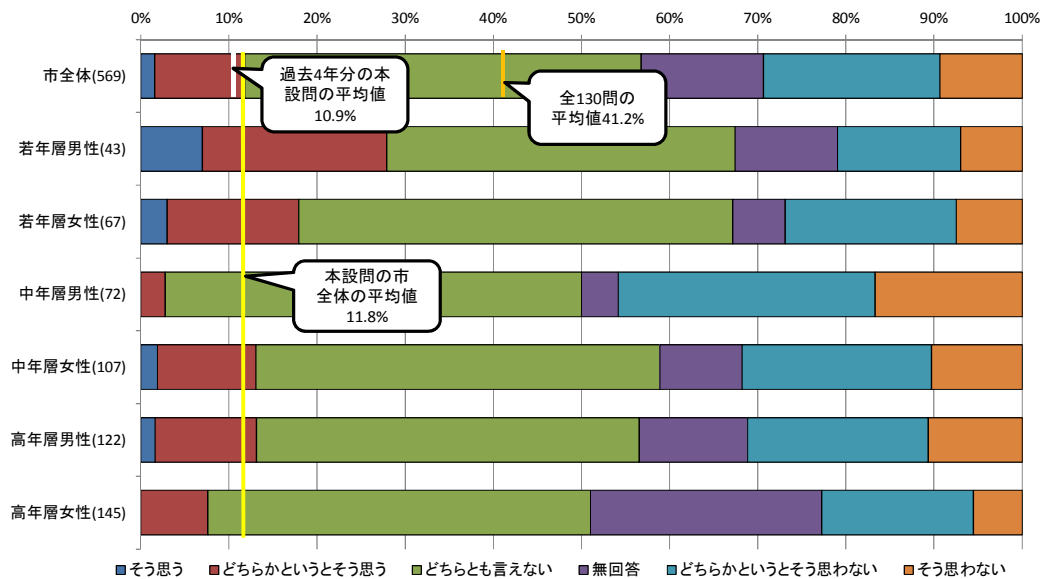
設問4：京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。



・設問4の生活実感は、行政区別でみると山科区の低さが突出している（8.1%）。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

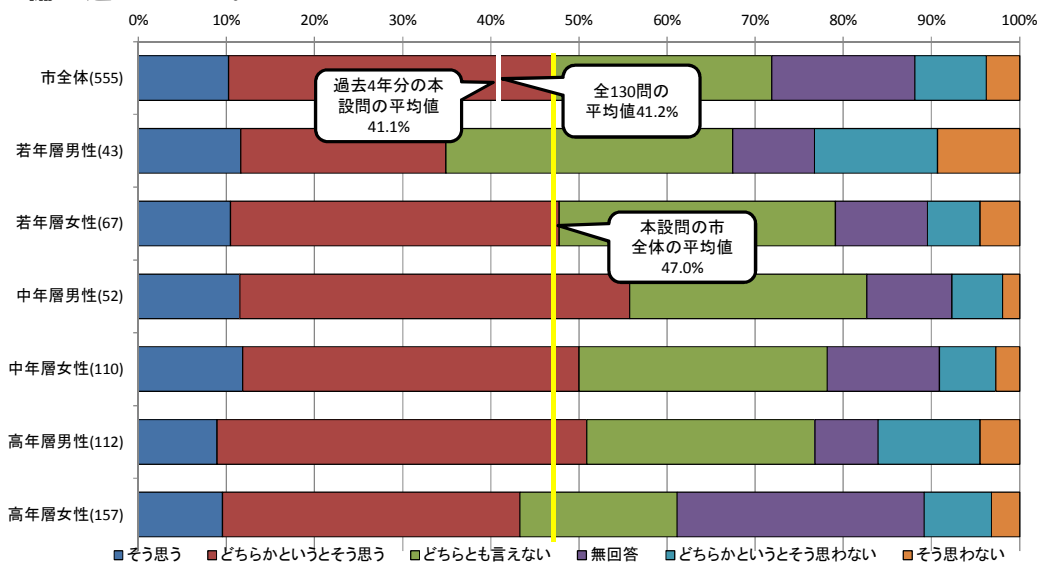
設問5：働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。



・設問5の生活実感は市全体の肯定的回答割合が低かった（11.8%）。その中で若年層男性の肯定的回答割合が高かった（27.9%）一方、中年層男性は著しく低く（2.8%）、否定的な回答割合も高い。勤労世帯の働き手の中心と思われる中年層男性の生活実感の低さから、労働環境や就職環境の厳しさが垣間見える。

8 産業・商業 生活実感（世代別・性別）

設問6：京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。



・設問6の生活実感は、中年層男性が高かった（55.8%）ことと対照的に、若年層男性が低かった（34.9%）。

9 観光

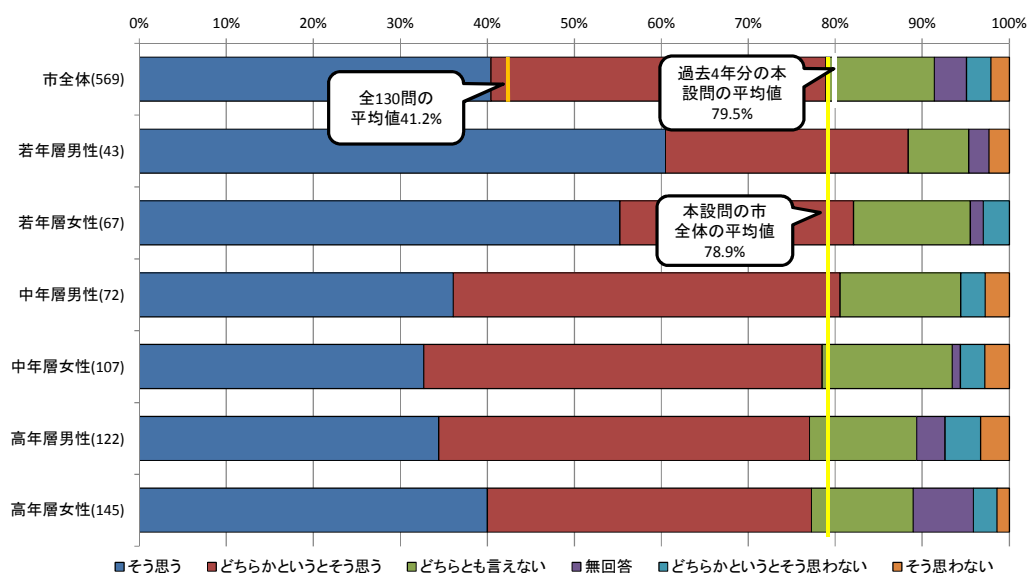
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	58.2%	56.0%	59.8%	61.2%	60.2%		77.7%	78.4%	79.0%

【考察】

- ・生活実感の順位は高かった（2位）が、政策重要度は比較的低かった（17位）。
- ・設問2「京都は、観光客にとって質の高い観光都市である」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が高かった（88.4%）が、設問3「京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる」は若年層男性の肯定的回答割合が低かった（44.2%）。
- ・設問4「京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。」の生活実感は、全130問の平均値と比べると肯定的回答割合が高い（50.8%）ものの、過去4年間の平均（56.1%）と比べると大きく低下しており、また多くの観光資源が存する東山区の肯定的回答割合は特に低かった（38.1%）。
- ・設問6「子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。」の生活実感は、どの世代でも女性より男性の肯定的回答割合が低かったが、特に高年層男性の肯定的回答割合が低かった（49.1%）。
- ・設問7「京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。」の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（約50%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

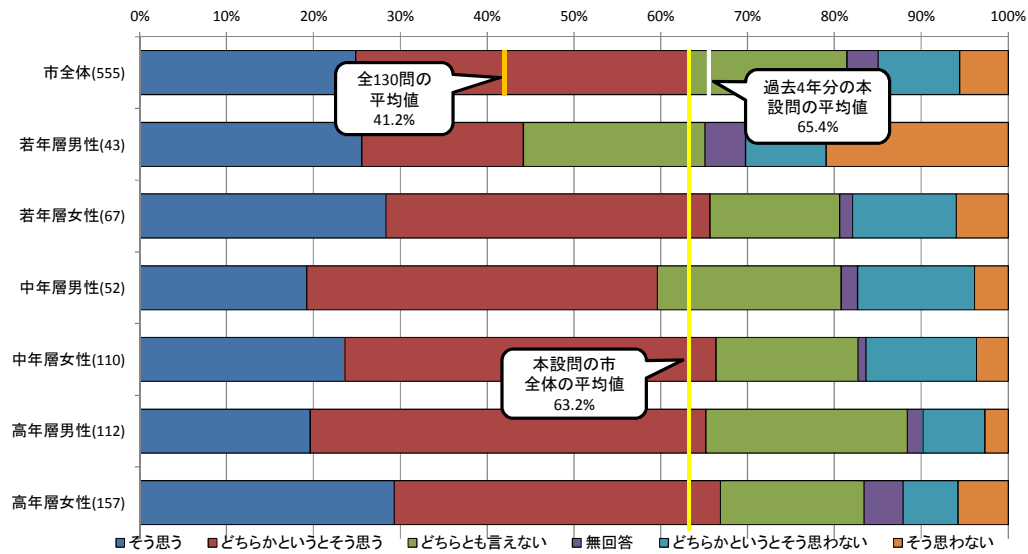
設問2：京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。



- ・設問2の生活実感、若年層男性の肯定的回答割合が高かった（88.4%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

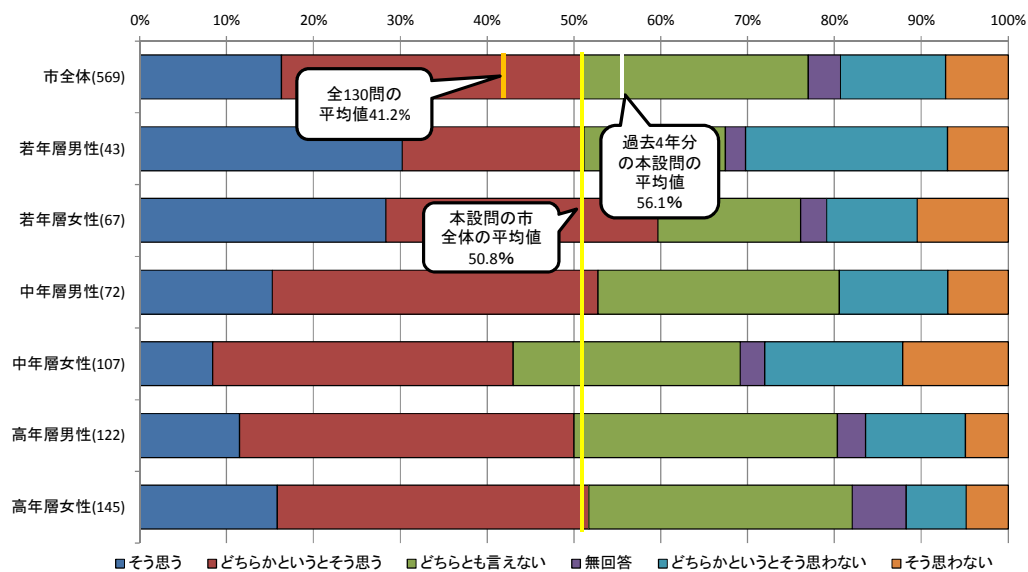
設問3：京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が低かった（44.2%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

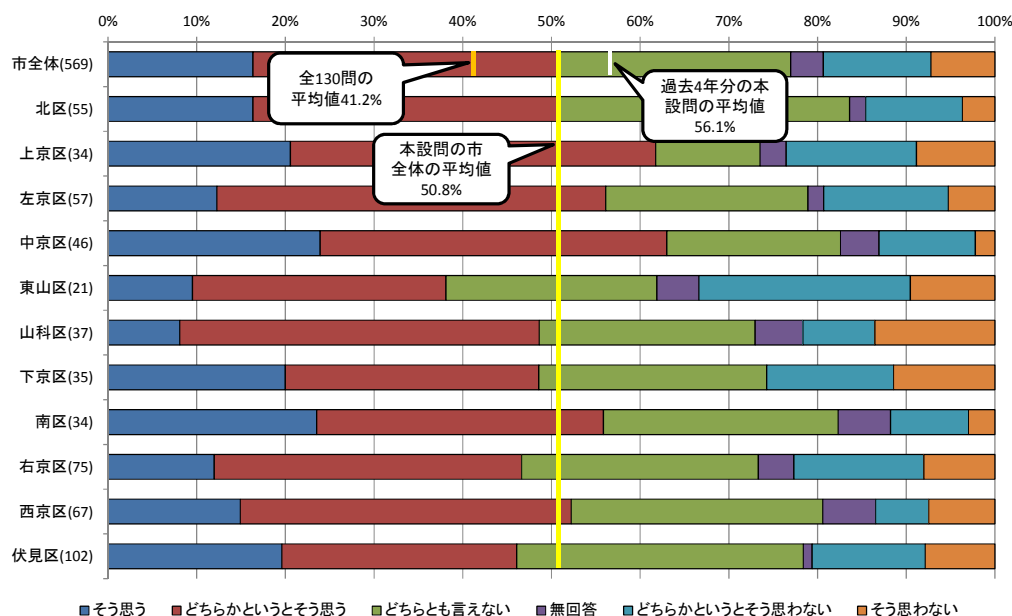
設問4：京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。



・設問4の生活実感は、全130問の平均値と比べると肯定的回答割合が高い（50.8%）ものの、過去4年間の平均（56.1%）と比べると大きく低下している。

9 観光 生活実感（居住区別）

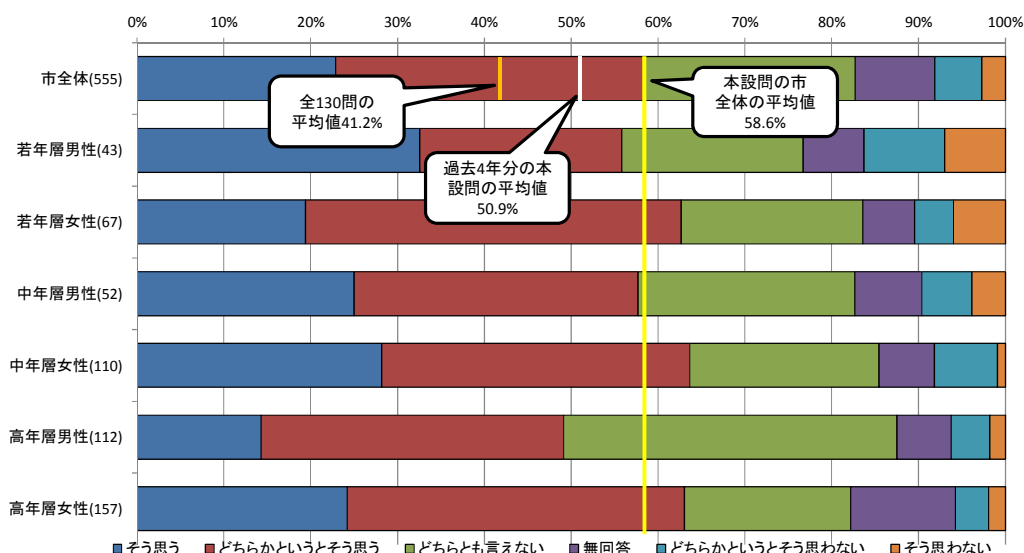
設問4：京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。



・設問4の生活実感は、多くの観光資源が存する東山区の肯定的回答割合が特に低かった（38.1%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

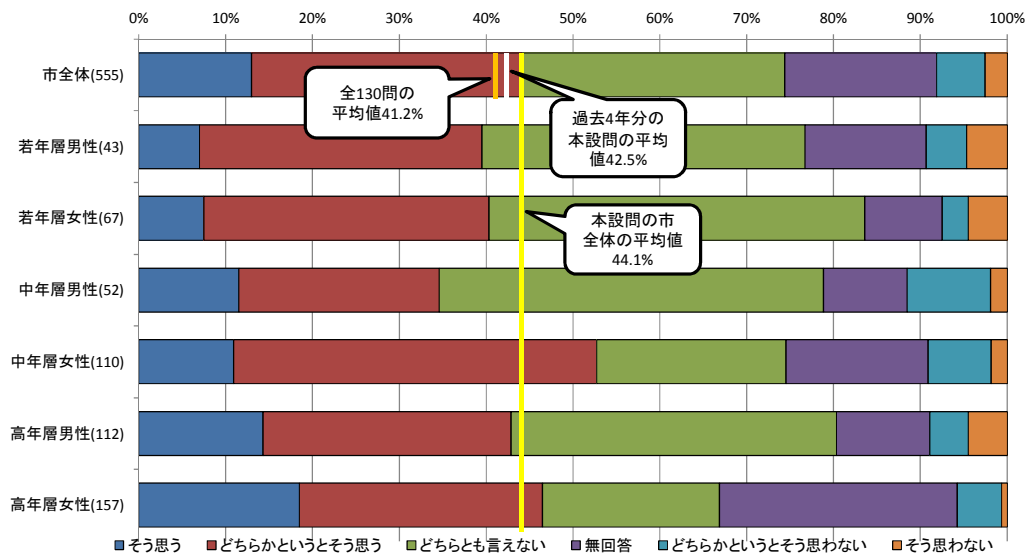
設問6：子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。



・設問6の生活実感は、どの世代でも女性より男性の肯定的回答割合が低かったが、特に高年層男性の肯定的回答割合が低かった（49.1%）。

9 観光 生活実感（世代別・性別）

設問7：京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE都市になってきている。



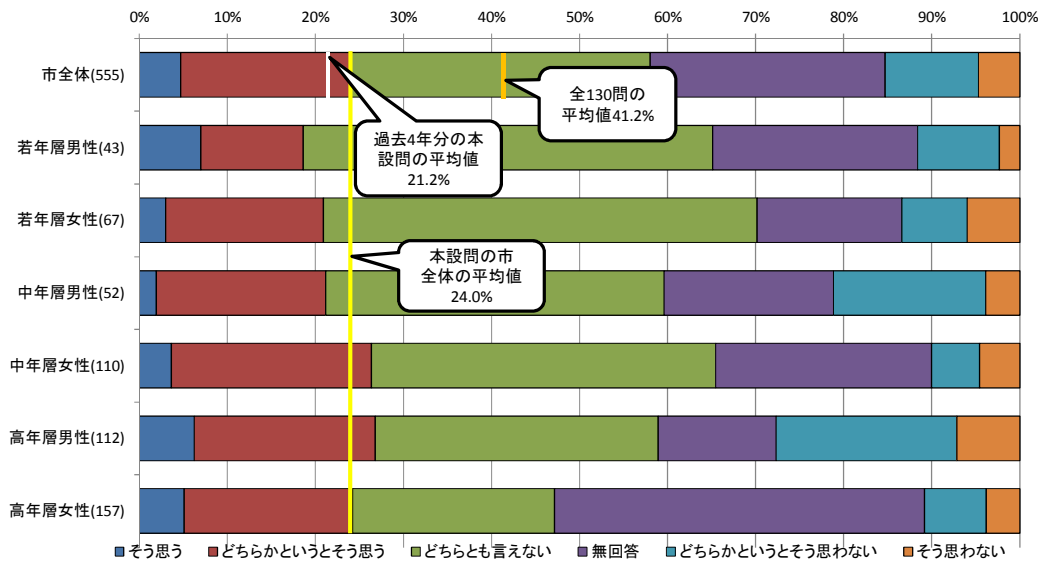
・設問7の生活実感は、「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合が高かった（約50％）。

10 農林業

生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	17.0%	12.0%	14.0%	14.4%	14.7%		70.5%	69.7%	71.9%
【考察】 - 生活実感、政策重要度ともに順位がきわめて低かった（26位、25位）。 - 生活実感は全体的に否定的回答割合が高いものの、設問2「京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。」は肯定的回答割合が比較的高かった（24.0％）ことが特徴である。 - 設問3「市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。」の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かった（13.0％）が、若年層の男女は比較的高かった（16.3％、20.9％）。 - 政策重要度は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（55.8％）。									

10 農林業 生活実感（世代別・性別）

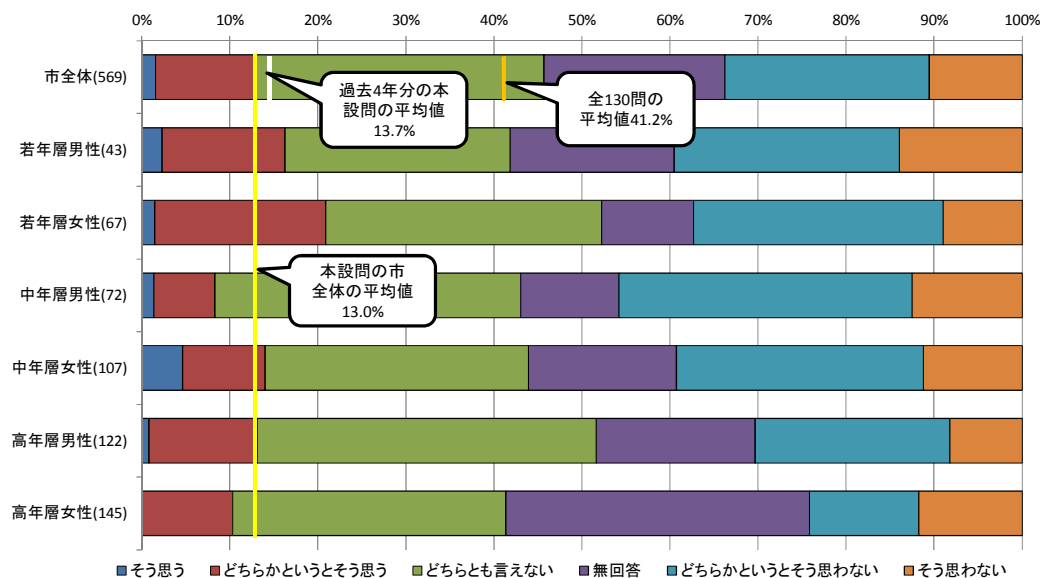
設問2：京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。



・設問2の生活実感は、肯定的回答割合が比較的高かった（24.0%）ことが特徴である。

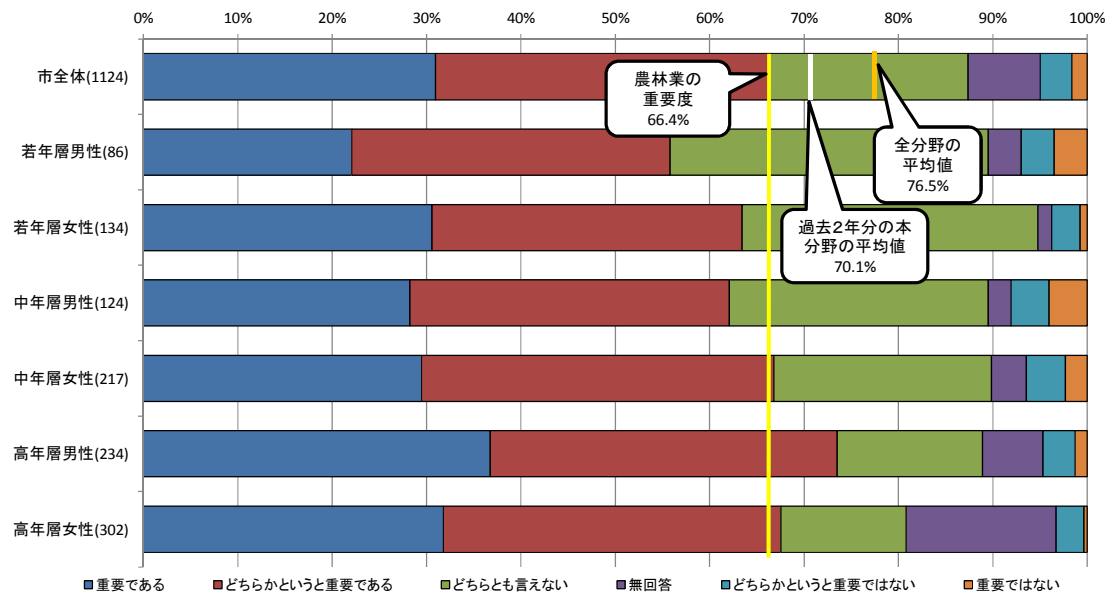
10 農林業 生活実感（世代別・性別）

設問3：市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。



・設問3の生活実感は、市全体で肯定的回答割合が低かった（13.0%）が、若年層の男女は比較的高かった（16.3%、20.9%）。

10 農林業 政策重要度（世代別・性別）



- ・政策重要度は、若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（55.8％）。

11 大学

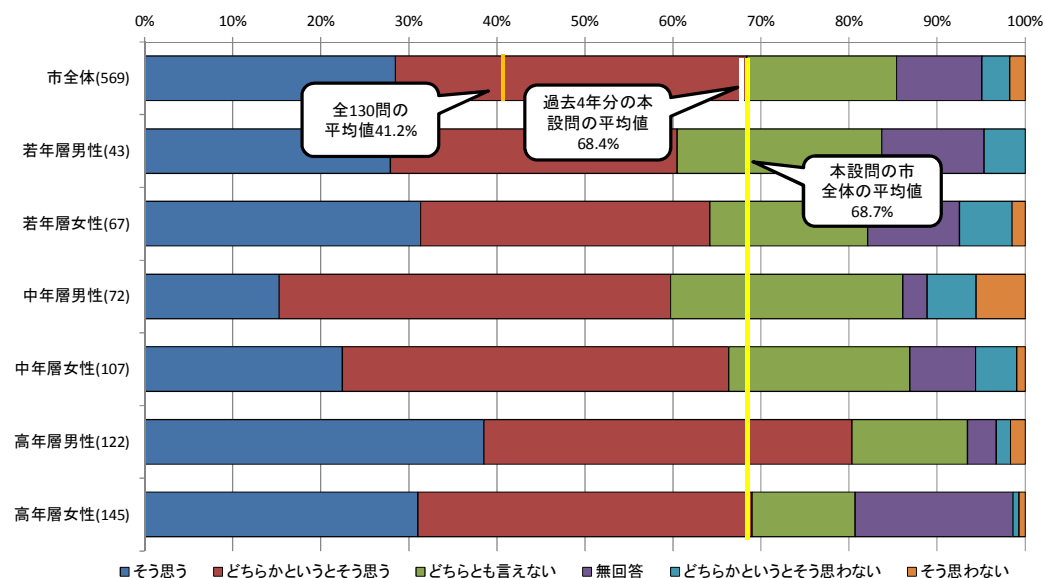
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	52.5%	50.9%	57.2%	55.8%	54.0%		63.1%	70.0%	72.4%

【考察】

- ・生活実感の順位は高かった（3位）が、政策重要度は低かった（24位）。
- ・設問3「京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。」の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（80.3％）。
- ・設問4「学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。」の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が高かった（44.8％）。
- ・設問5「大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。」の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が高かった（ともに約54％）が、勤労世代の中核を占めると考えられる中年層男性は逆に低かった（29.2％）。
- ・政策重要度は、いずれの世代においても女性より男性のほうが肯定的回答割合が高かった。

1 1 大学 生活実感（世代別・性別）

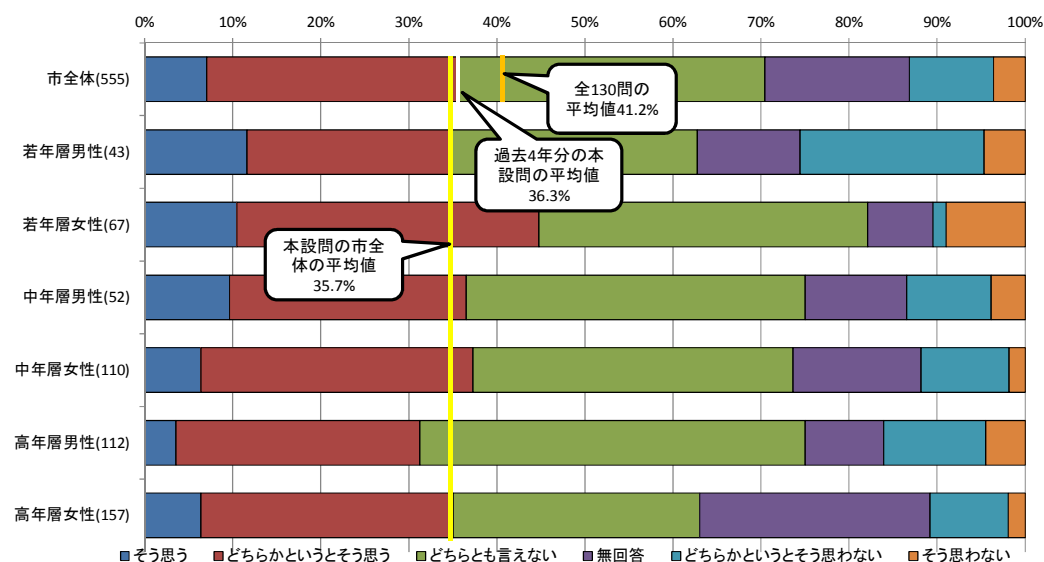
設問3：京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。



・設問3の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（80.3%）。

1 1 大学 生活実感（世代別・性別）

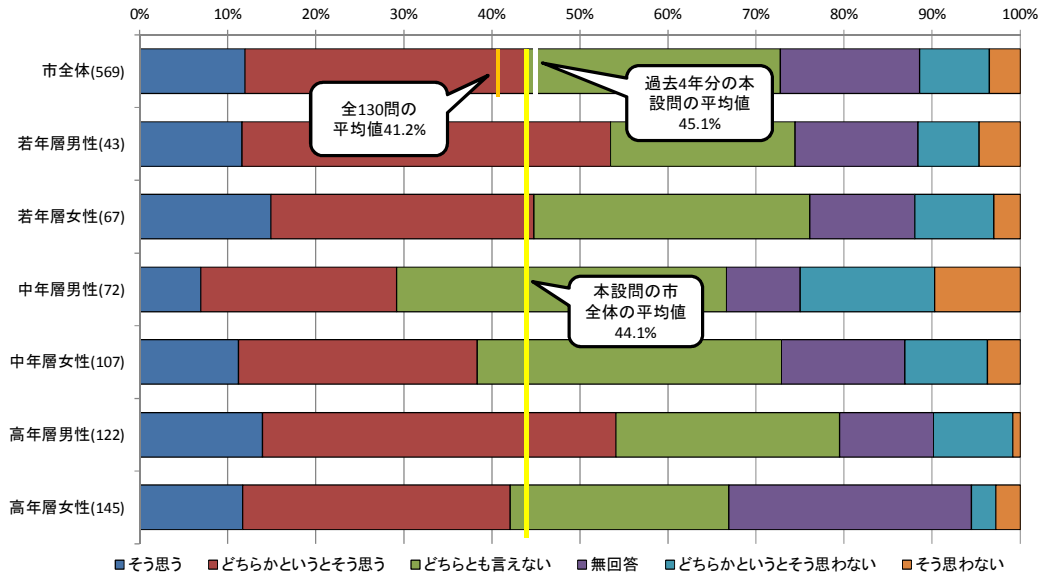
設問4：学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。



・設問4の生活実感は、若年層女性の肯定的回答割合が高かった（44.8%）。

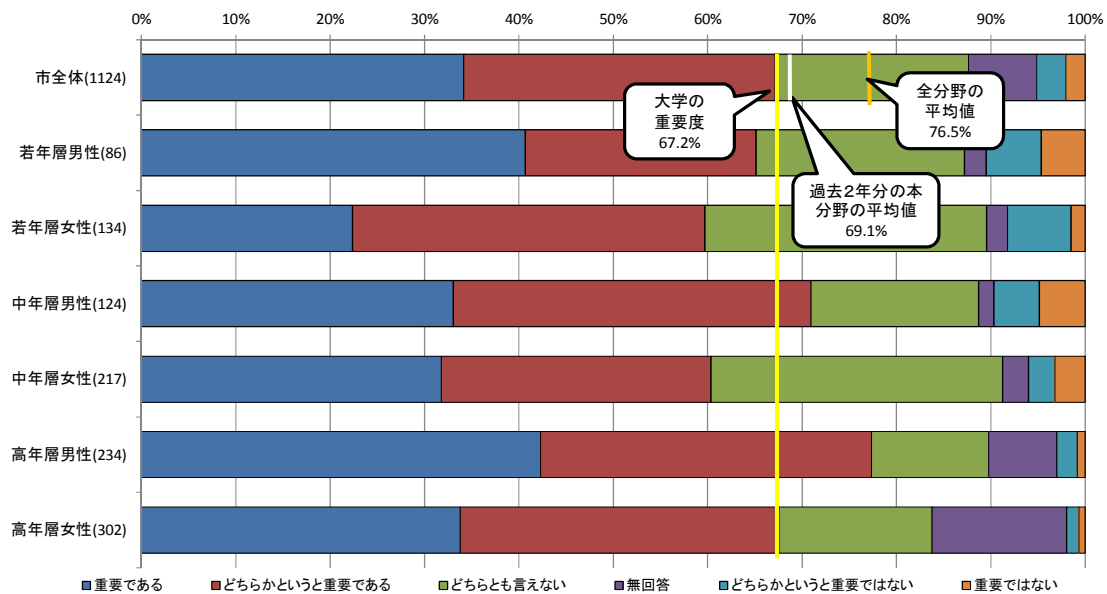
1 1 大学 生活実感（世代別・性別）

設問5：大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。



・設問5の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が高かった（ともに約54%）が、勤労世代の中核を占めると考えられる中年層男性は逆に低かった（29.2%）。

1 1 大学 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、いずれの世代においても女性より男性のほうが肯定的回答割合が高かった。

1 2 国際化

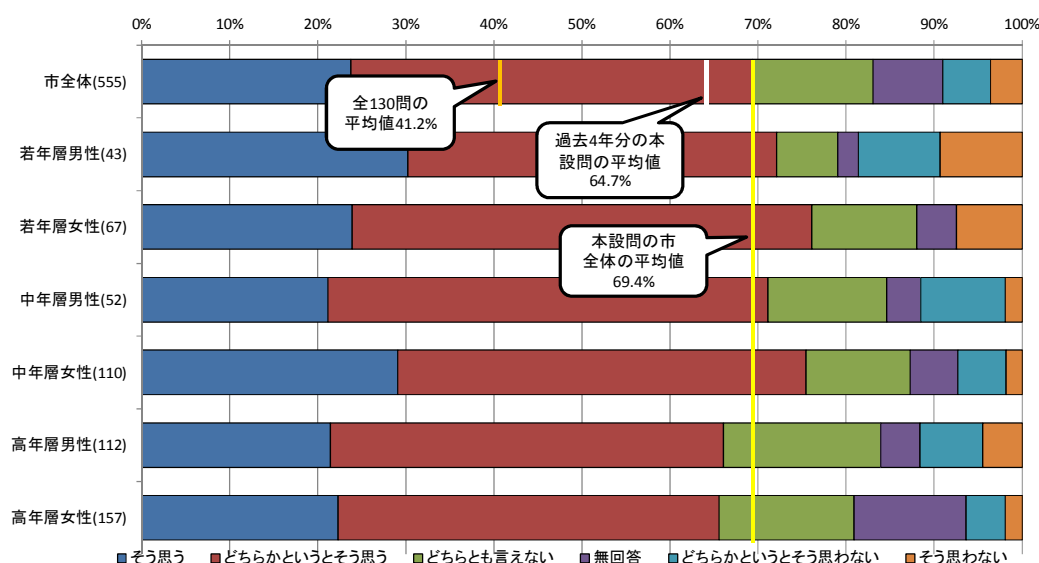
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	53.7%	49.9%	53.1%	54.3%	54.6%		75.7%	77.2%	77.3%

【考察】

- ・生活実感は順位が高かった（５位）が、政策重要度は低かった（１９位）。
- ・設問１「京都には世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と受入環境がある。」と設問４「京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。」の生活実感は、ともに市全体で過去４年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（６４．７％→６９．４％、４６．２％→４８．９％）。
- ・設問３「国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。」の生活実感は、若年層男性は３０％以上の否定的回答割合であった。
- ・政策重要度は、すべての世代において女性よりも男性のほうが高かった。

1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

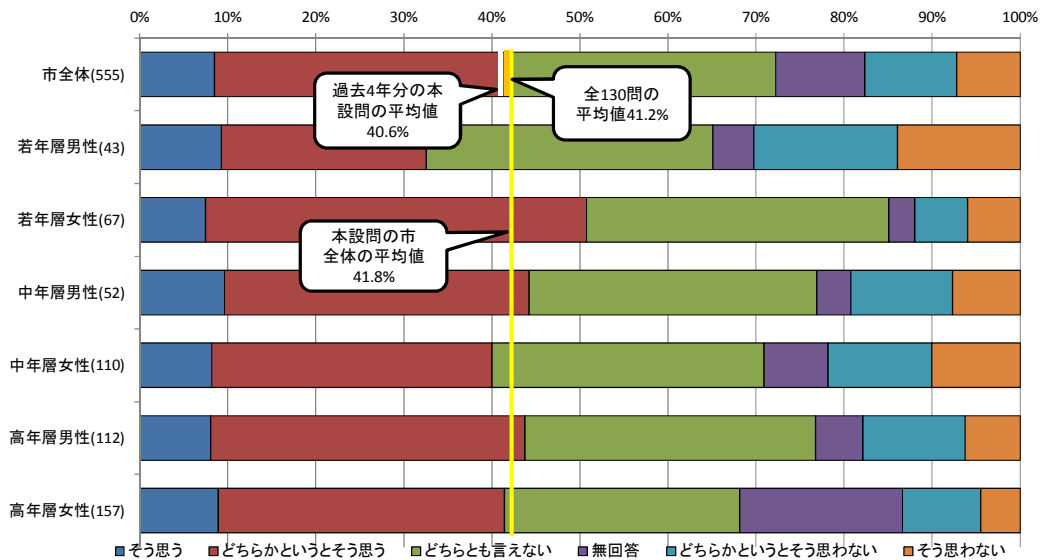
設問１：京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。



- ・設問１の生活実感は、市全体で過去４年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（６４．７％→６９．４％）。

1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

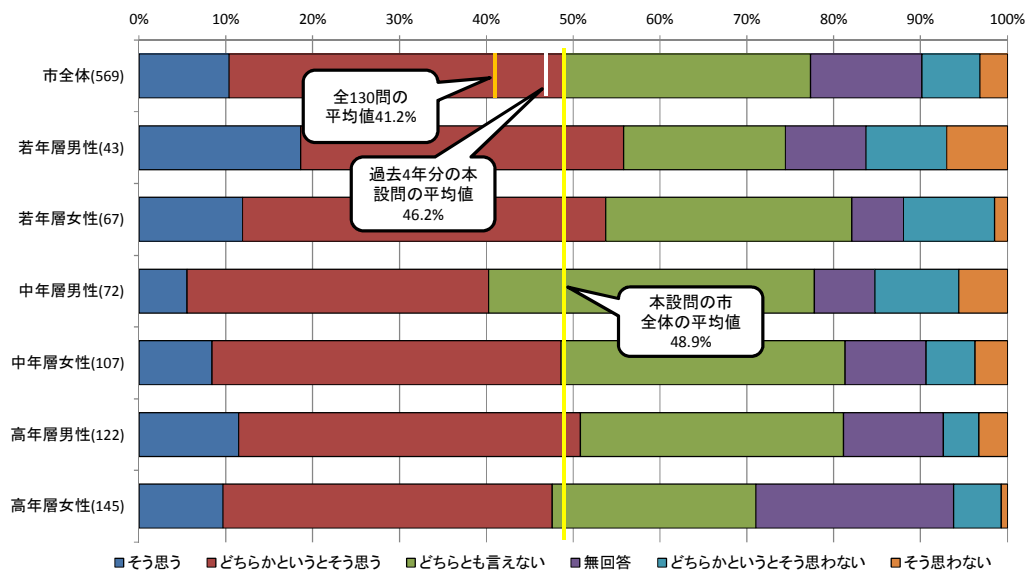
設問3：国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。



・設問3の生活実感は、若年層男性は30%以上の否定的回答割合であった。

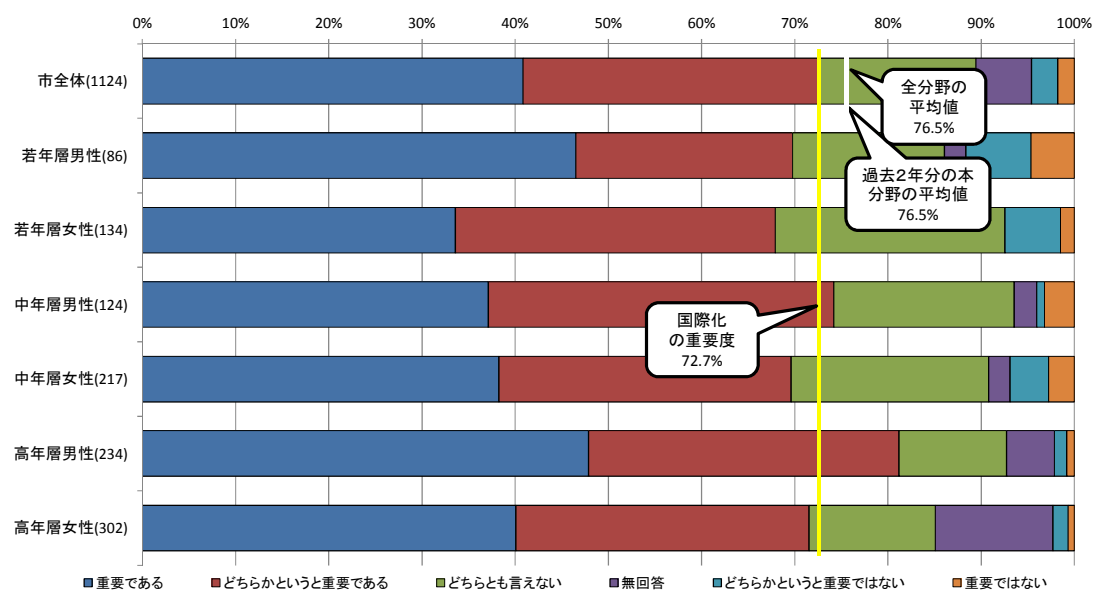
1 2 国際化 生活実感（世代別・性別）

設問4：京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。



・設問4の生活実感は、市全体で過去4年間の平均値と比べて肯定的回答割合が上昇している（46.2%→48.9%）。

12 国際化 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、すべての世代において女性よりも男性のほうが高かった。

13 子育て支援

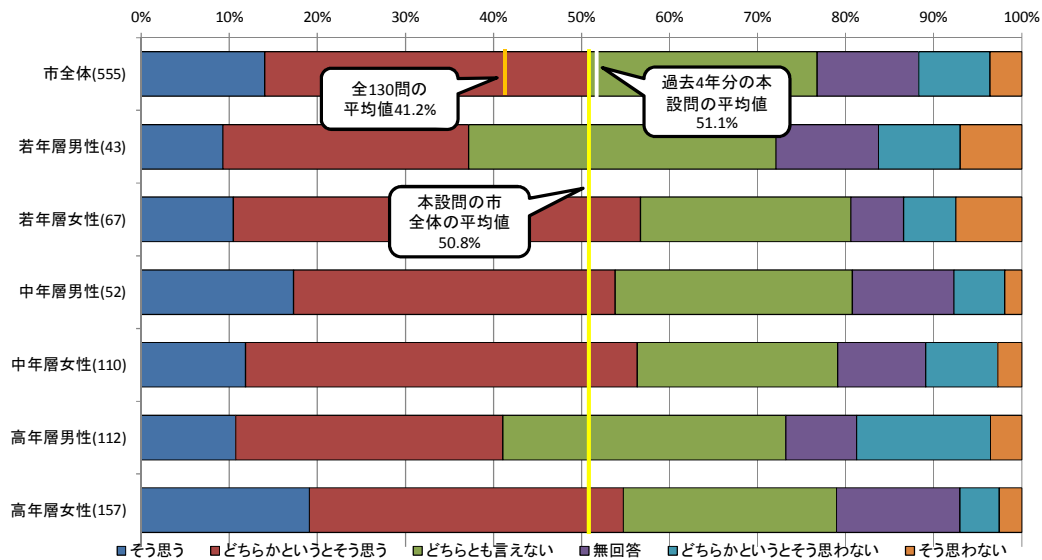
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	39.2%	33.8%	36.4%	37.3%	36.7%		85.4%	84.3%	87.4%

【考察】

- ・政策重要度は順位が高かった（5位）が、生活実感は中位（14位）だった。
- ・設問1「子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。」の生活実感は、子育て中の世帯が多いと思われる中年層男女の肯定的回答割合が50%以上であった。この回答結果は、政策分野19「生涯学習」の設問4「子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。」における中年層男女の肯定的回答割合の低さと対照的である。
- ・設問4「働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている」の生活実感は、若年層女性の否定的回答割合が40%以上だった。またこの設問は「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた回答率が全体的に高かった。市全体でも肯定的回答割合が過去4年間の平均値を2.5%下回り、仕事と子育ての両立の当事者と考えられる中年層男性の肯定的回答割合が著しく低く（9.7%）、また中年層女性も低かった（15.9%）。

13 子育て支援 生活実感（世代別・性別）

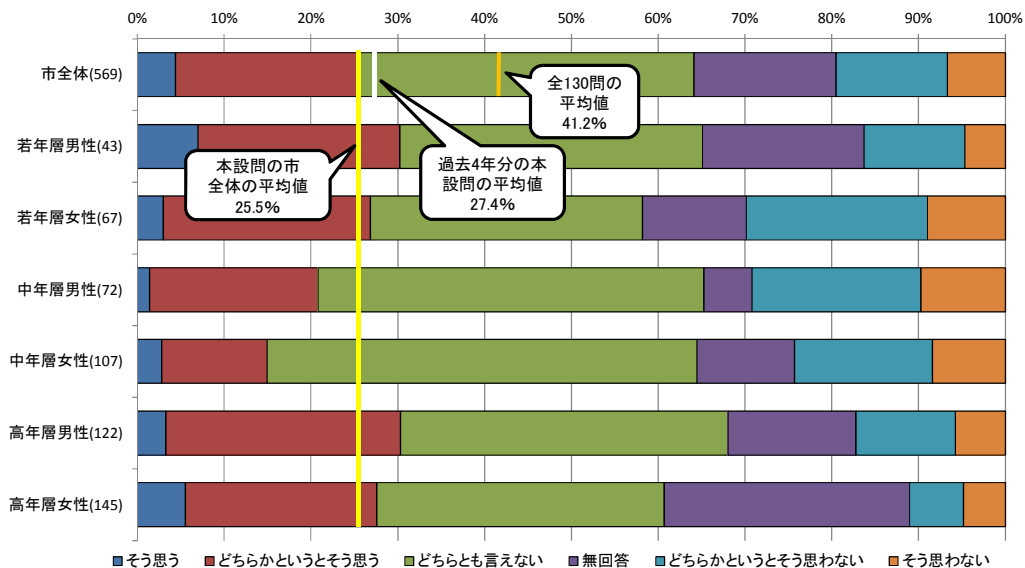
設問1：子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。



・設問1の生活実感は、子育て中の世帯が多いと思われる中年層男女の肯定的回答割合が50%以上であった。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

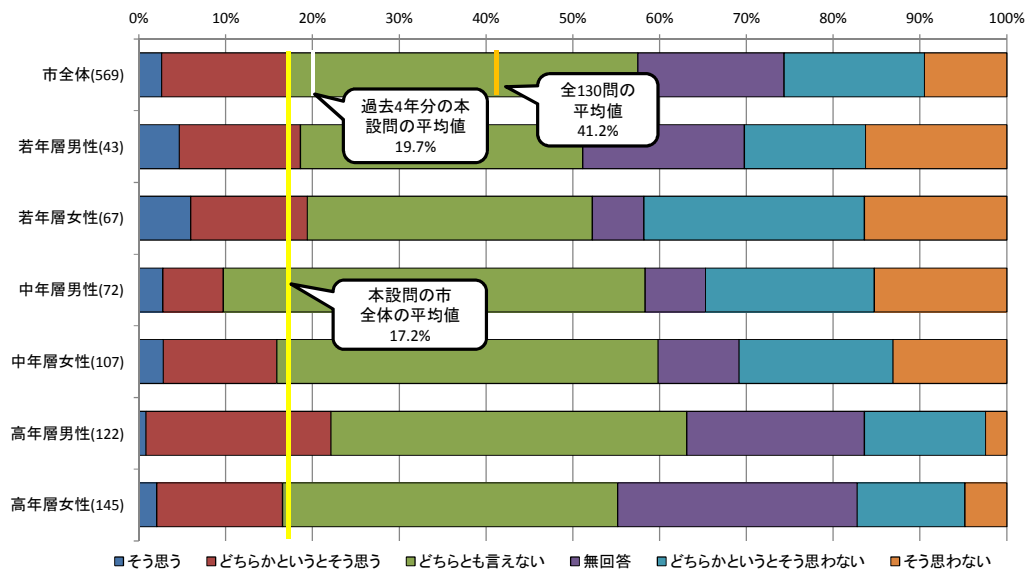
設問4：子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。



・設問1の生活実感とは対照的に、政策分野19「生涯学習」の設問4における生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が低い。

1 3 子育て支援 生活実感（世代別・性別）

設問4：働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。



・設問4の生活実感は、若年層女性の否定的回答割合が40%以上だった。またこの設問は「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた回答率が全体的に高かった。市全体でも肯定的回答割合が過去4年間の平均値を2.5%下回り、仕事と子育ての両立の当事者と考えられる中年層男性の肯定的回答割合が著しく低く（9.7%）、また中年層女性も低かった（15.9%）。

1 4 障害者福祉

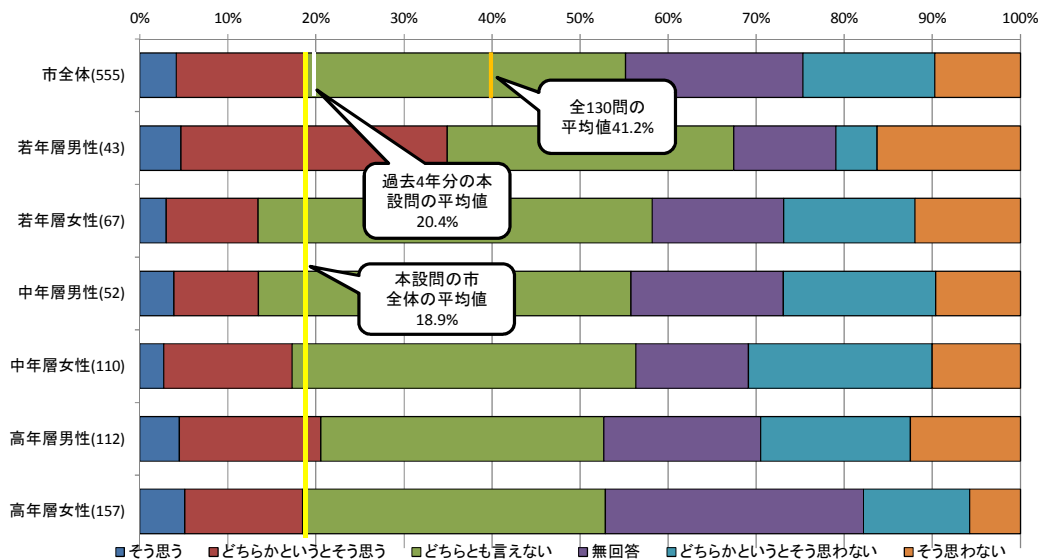
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	28.0%	23.7%	25.7%	26.6%	24.9%		85.1%	84.9%	84.8%

【考察】

- ・政策重要度の順位は比較的高かった（8位）が、生活実感は低かった（23位）。
- ・すべての設問の生活実感の肯定的回答割合は、過去4年間の平均値と比べると低下している。
- ・すべての設問で「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせると50%近い割合であることが本分野の特徴である。
- ・設問3「働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。」と設問4「バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合がいずれも飛び抜けて高い（34.9%。市全体は18.9%、51.2%。市全体は32.2%）。
- ・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

14 障害者福祉 生活実感（世代別・性別）

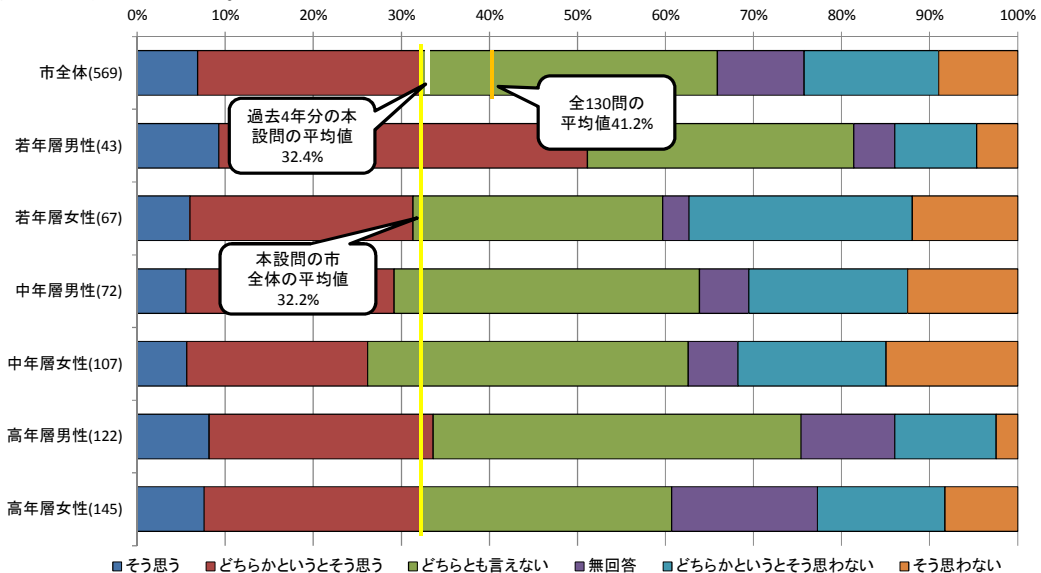
設問3：働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛び抜けて高い（34.9%。市全体は18.9%）。

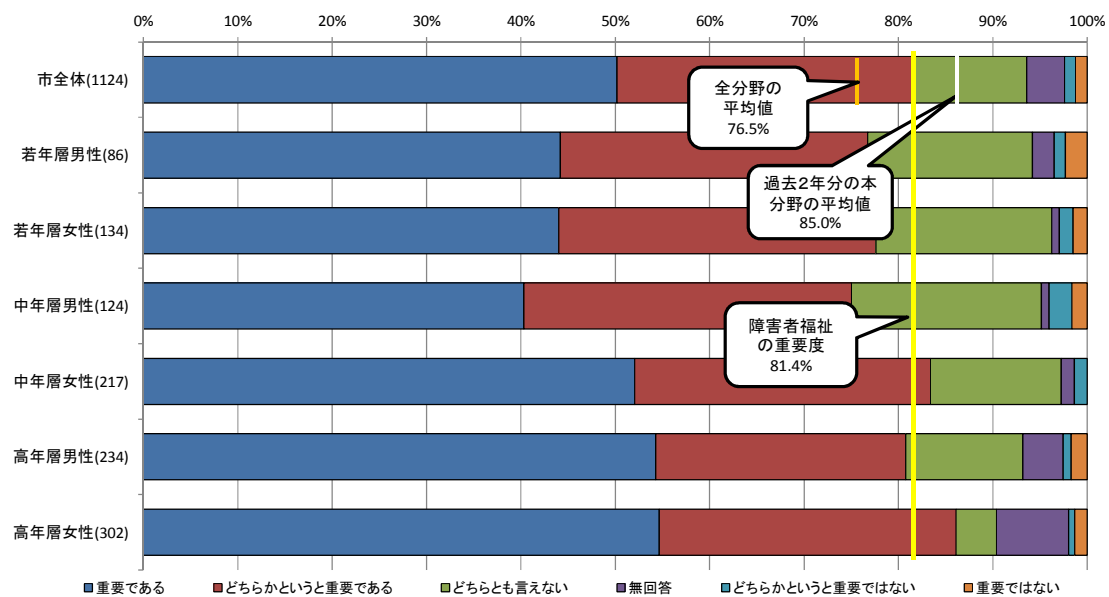
14 障害者福祉 生活実感（世代別・性別）

設問4：バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。



・設問4の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛び抜けて高い（51.2%。市全体は32.2%）。

14 障害者福祉 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

15 地域福祉

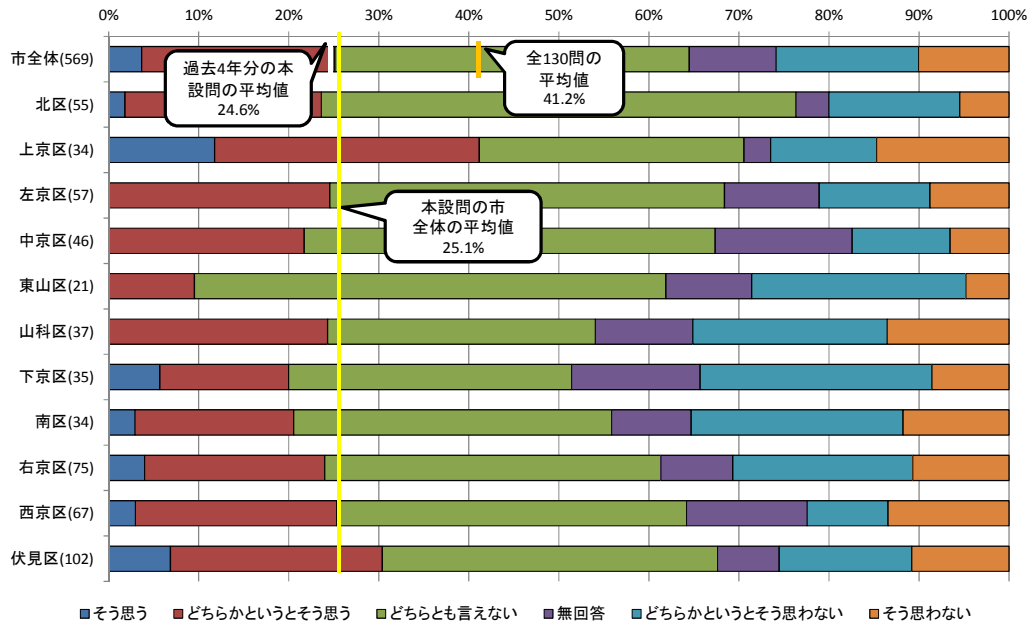
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	29.6%	26.5%	30.4%	30.2%	29.0%		72.6%	72.9%	77.5%

【考察】

- ・生活実感、生活重要度とも例年と同様に低い順位であった（どちらも21位）。
- ・設問2「地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる」の生活実感は、市全体とすべての属性で肯定的回答割合が低く、とりわけ若年層男性は11.6%であり、しかも「そう思う」がゼロだった。そして「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合は、若年層の男女とも50%以上であり、関心の低さがうかがえる。
- ・東山区では設問1「社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。」の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて低い（9.5%）が、設問4「地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。」では飛び抜けて高い（62.6%）という、矛盾するような結果が見られた。
- ・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年分の平均値と比べて低下している。

1 5 地域福祉 生活実感（居住区別）

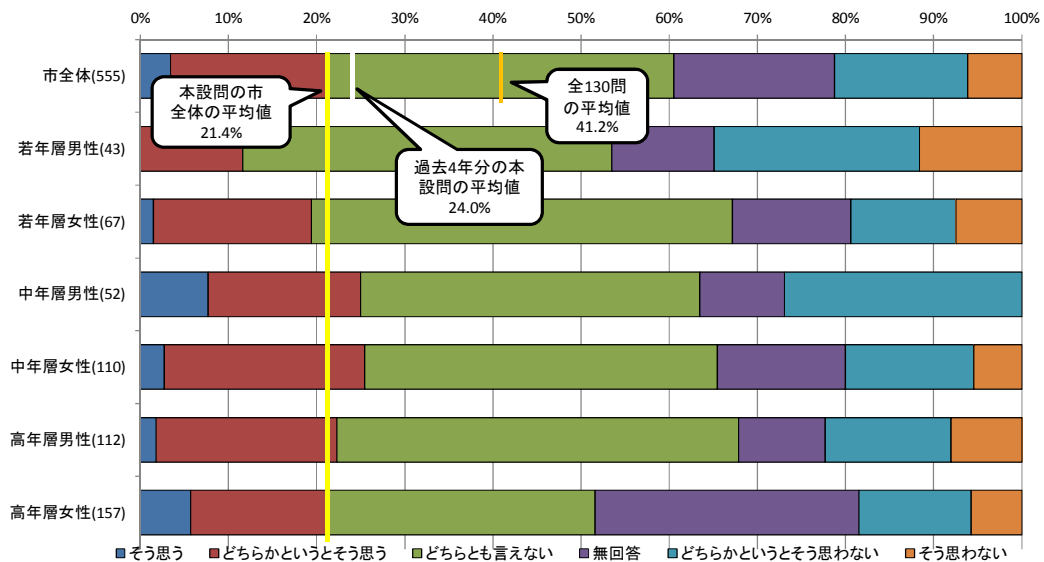
設問1：社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。



・東山区では設問1の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて低く（9.5%）、設問4の結果と対照的である。

1 5 地域福祉 生活実感（世代別・性別）

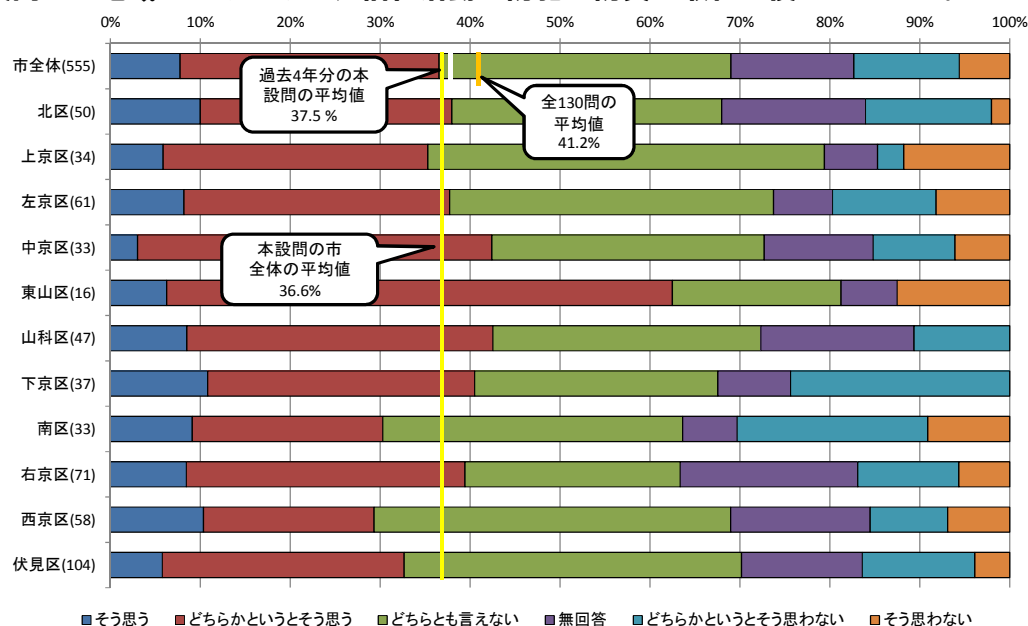
設問2：地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。



・設問2の生活実感、市全体とすべての属性で肯定的回答割合が低く、とりわけ若年層男性は11.6%であり、しかも「そう思う」がゼロだった。そして「どちらとも言えない」と「無回答」を合わせた割合は、若年層の男女とも50%以上であり、関心の低さがうかがえる。

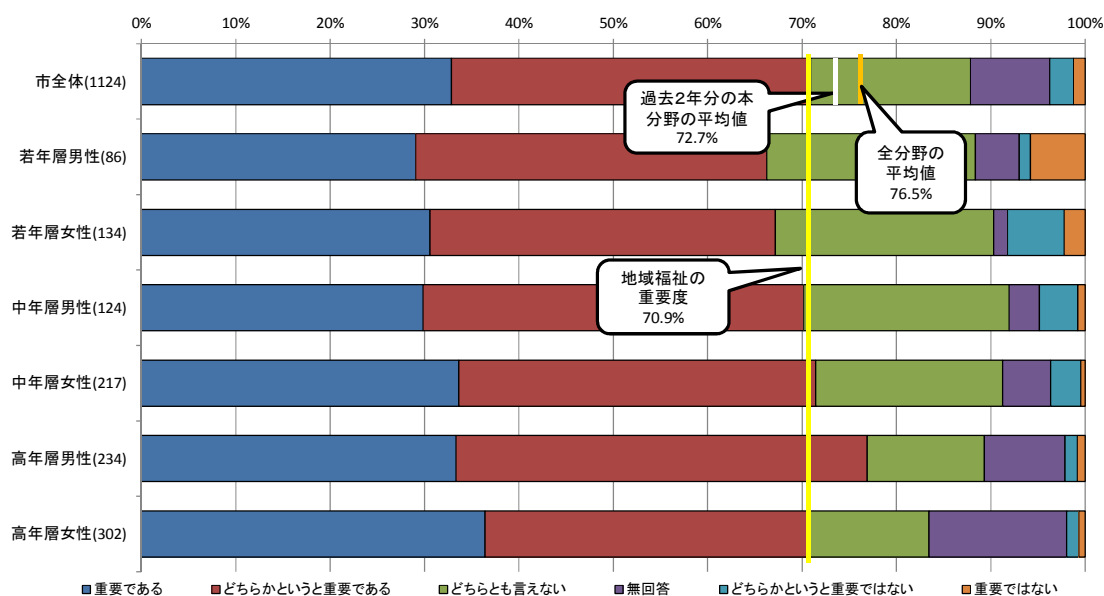
15 地域福祉 生活実感（居住区別）

設問4：地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。



・東山区では設問4の生活実感の肯定的回答割合が飛び抜けて高く（62.6%）、設問1の結果と対照的である。

15 地域福祉 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度の肯定的回答割合は、過去2年間の平均値と比べて低下している。

1 6 高齢者福祉

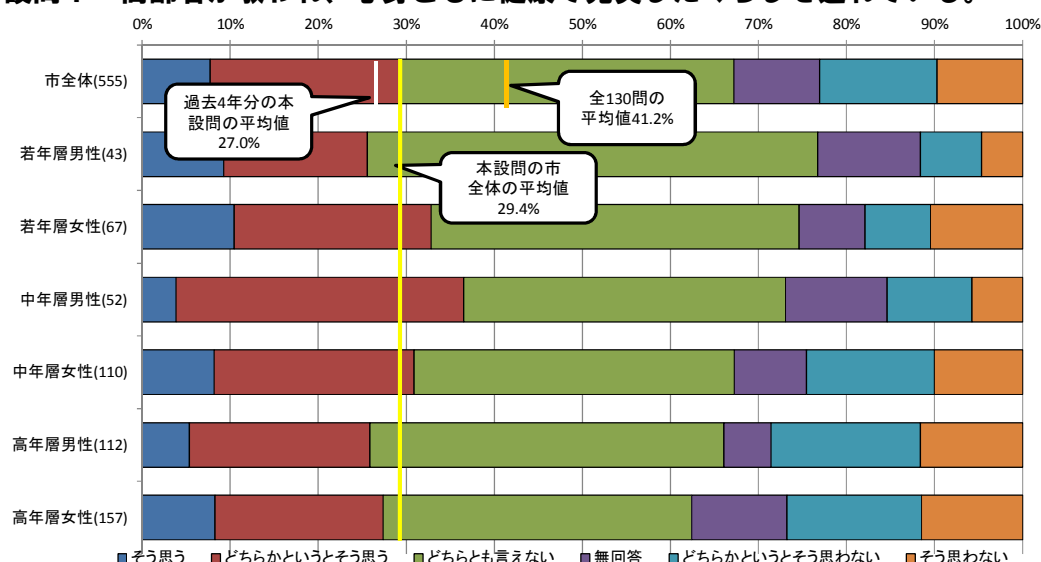
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	35.1%	34.9%	37.4%	36.3%	36.0%		78.6%	80.0%	77.5%

【考察】

- ・設問5「高齢者社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。」の生活実感を除いて、どの設問も肯定的回答割合が全130問の平均値より低かった。
- ・設問1「高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。」の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が低かった（どちらも約26%）。中年層が高く、高年層は男女とも低かったことが特徴的で、意識のずれがみられる。
- ・設問2「高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。」の生活実感は、若年層の男女とも高かった（27.9%、26.9%）一方で、高齢者である高年層、そしてこれから高齢者になる中年層の男女はすべて低い（17.2～19.3%）という差が見られた。高齢者の知恵や経験、技能が社会により生かされることによって、この設問の生活実感が全世代において向上する可能性がある。
- ・設問3「高齢者が地域で見守られ支えられ、安心してらせるまちになっている。」と設問4「介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしい暮らしを送れている。」の生活実感は、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。設問3は高年層男女とも市全体の平均値（25.0%）を上回っているが、設問4は男性（27.7%）が平均値（31.7%）を大きく下回り、男女差が8.6%にもなっている（女性は36.3%）点が気にかかる。

1 6 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

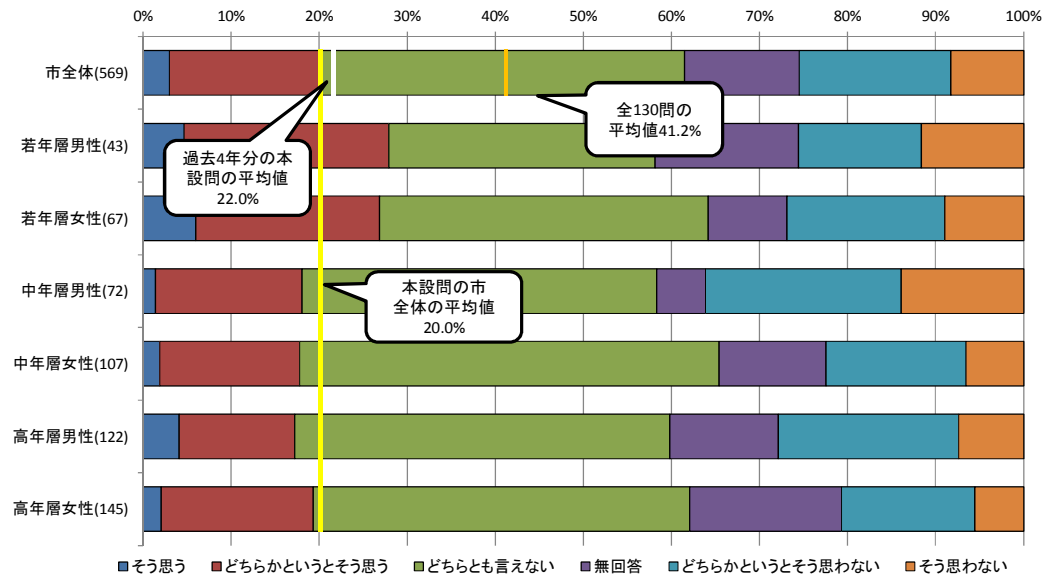
設問1：高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。



- ・設問1の生活実感は、若年層男性と高年層男性の肯定的回答割合が低かった（どちらも約26%）。中年層が高く、高年層は男女とも低かったことが特徴的で、意識のずれがみられる。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

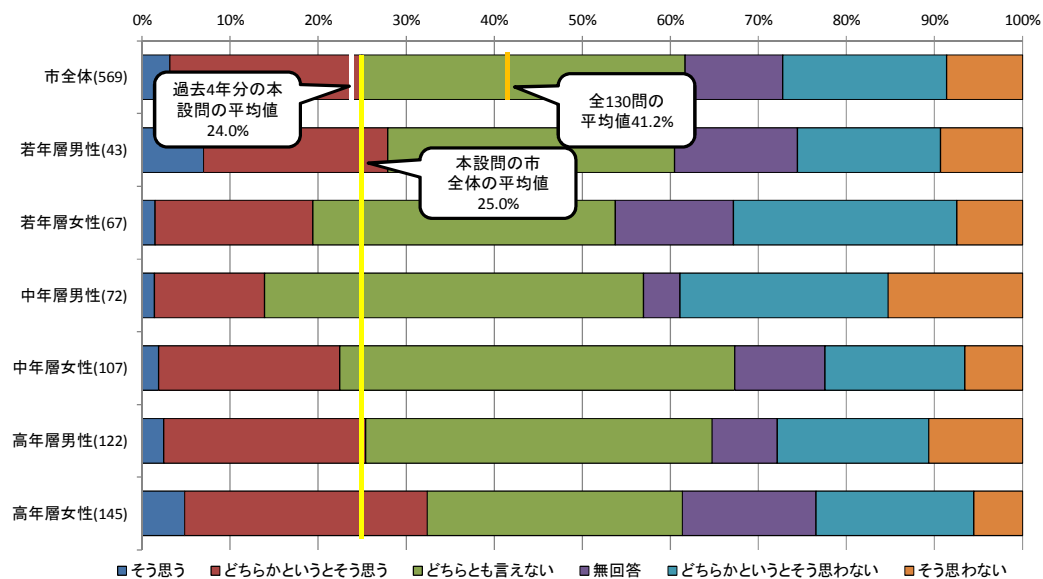
設問2：高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。



・設問2の生活実感は、若年層の男女とも高かった（27.9%、26.9%）一方で、高齢者である高年層、そしてこれから高齢者になる中年層の男女はすべて低い（17.2～19.3%）という差が見られた。高齢者の知恵や経験、技能が社会により生かされることによって、この設問の生活実感が全世代において向上する可能性がある。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

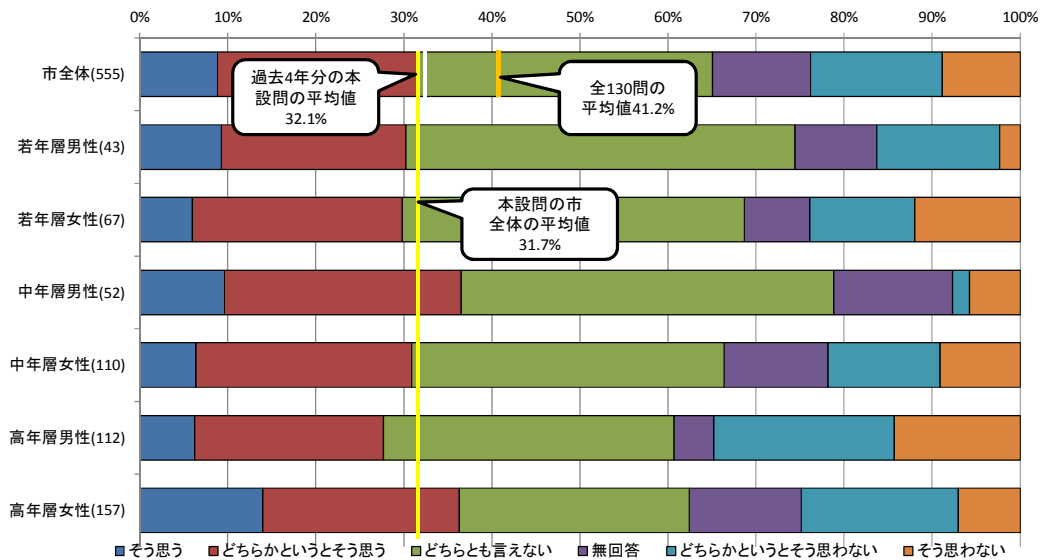
設問3：高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してらせるまちになっている。



・設問3の生活実感は、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。高年層男女とも市全体の平均値（25.0%）を上回っている。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

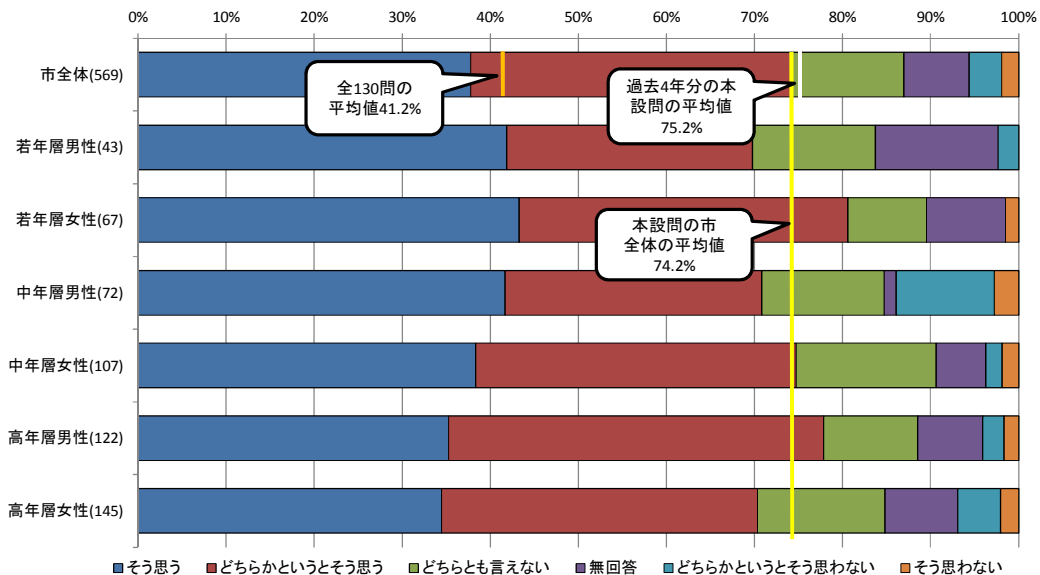
設問4：介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。



・設問4の生活実感は、高年層男性よりも高年層女性の肯定的回答割合が高かった。設問3とは異なり、男性（27.7%）が平均値（31.7%）を大きく下回り、男女差が8.6%にもなっている（女性は36.3%）点が気にかかる。

16 高齢者福祉 生活実感（世代別・性別）

設問5：高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。



・この分野では設問5の生活実感のみが全130問の平均値より高かった。

1 7 保健衛生・医療

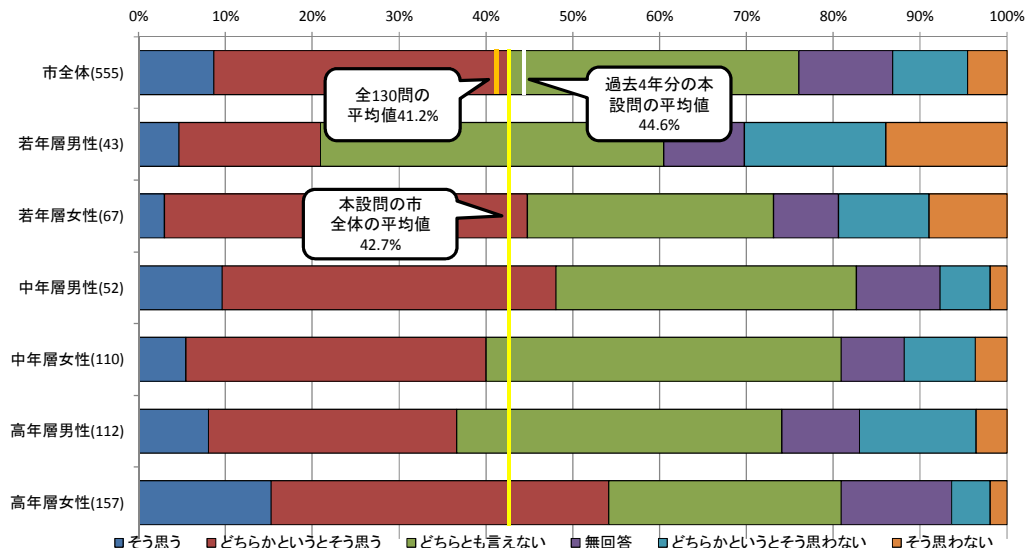
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	57.9%	55.0%	57.7%	62.2%	59.5%		84.8%	85.4%	87.0%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに肯定的回答割合が比較的高い（約60%、86%）分野である。
- ・設問1「正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が著しく低かった（20.9%。市全体は44.6%）。若年層男性の健康への関心の低さが感じられるが、市全体の平均値よりも高かった若年層女性も、否定的回答の割合は19.4%と、若年層男性に次いだことには注意を要する。
- ・設問2「利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。」の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（69.7%。市全体は62.9%）。行政区別でみると、南区の肯定的回答割合が飛びぬけて低い（41.2%）という結果が見られた。
- ・設問3「安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。」と設問5「感染症や食中毒などの健康危機に対し、安全と安心が確保されている。」の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

1 7 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

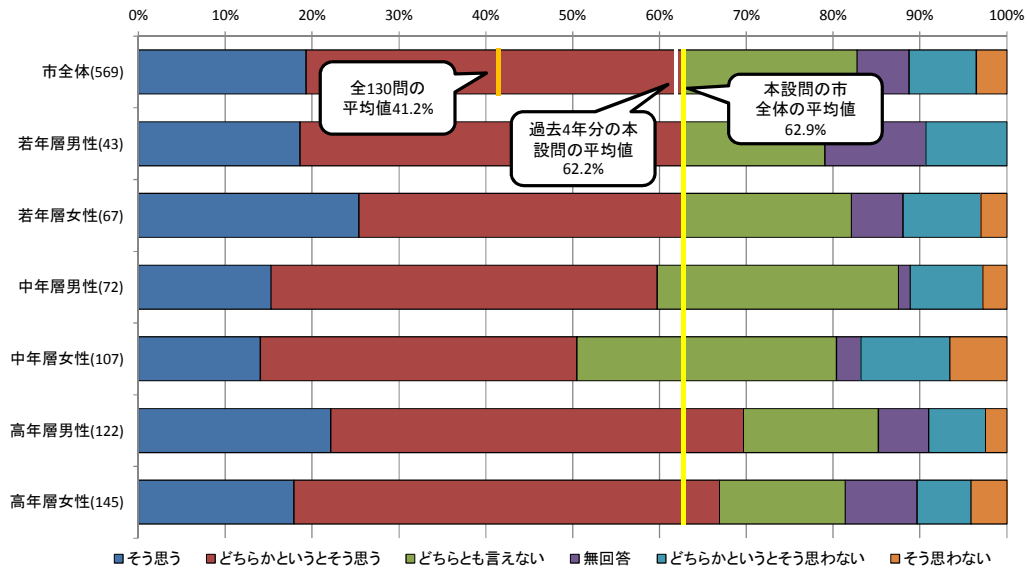
設問1：正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。



- ・設問1の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が著しく低かった（20.9%。市全体は44.6%）。若年層男性の健康への関心の低さが感じられるが、市全体の平均値よりも高かった若年層女性も、否定的回答の割合は19.4%と、若年層男性に次いだことには注意を要する。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

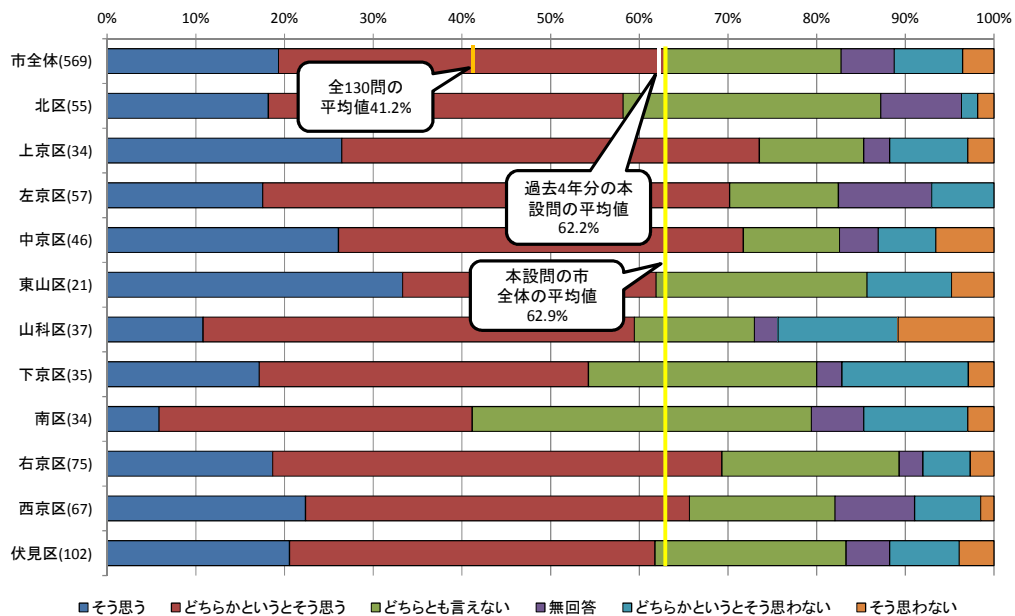
設問2：利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。



・設問2の生活実感は、高年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（69.7%。市全体は62.9%）。

17 保健衛生・医療 生活実感（居住区別）

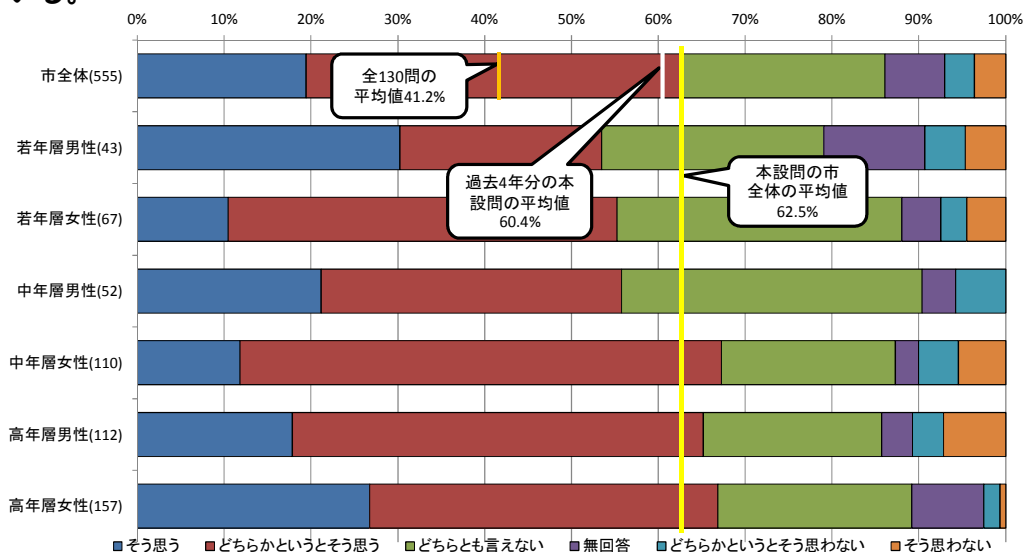
設問2：利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。



・設問2の生活実感は、行政区別でみると、南区の肯定的回答割合が飛びぬけて低い（41.2%）という結果が見られた。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

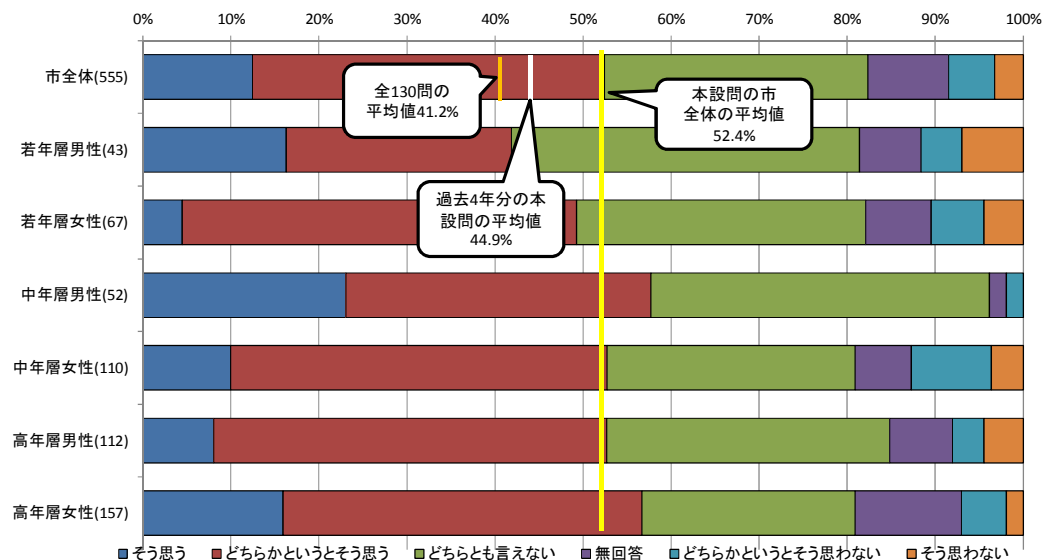
設問3：安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。



・設問3の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

17 保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

設問5：感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。



・設問5の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低いという結果が見られた。

18 学校教育

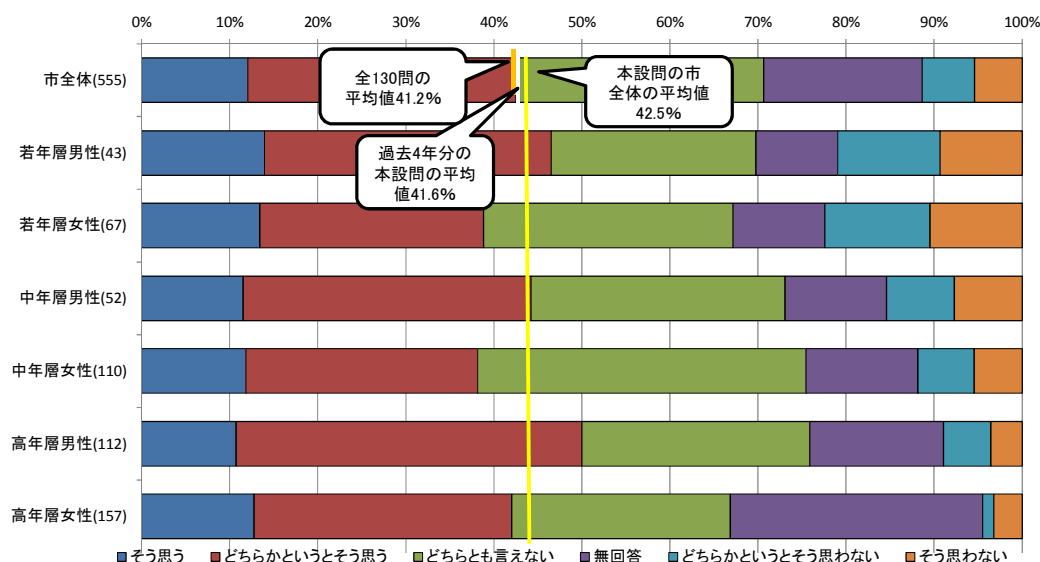
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	38.3%	34.6%	36.0%	38.4%	34.9%		84.7%	82.6%	87.5%

【考察】

- ・政策重要度は順位が比較的高かった（7位）が、生活実感は低かった（19位）。
- ・設問2「安全快適な学校施設や最新の整備など、充実した教育環境が整っている。」の生活実感は、各世代とも女性より男性の肯定的回答割合が高かった。
- ・設問3「学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。」の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（46.5%。市全体は31.0%）。しかし逆に、学校の先生と関わる保護者の中心を占めるとされる中年層女性が最も低い（19.6%）ことには注意を要する。
- ・設問4「子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある」は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（27.9%。市全体は42.7%）。
- ・設問5「京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。」の生活実感の肯定的回答割合は、市全体でも低い（28.6%）が、保護者の中心を占める中年層男女で低かった。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

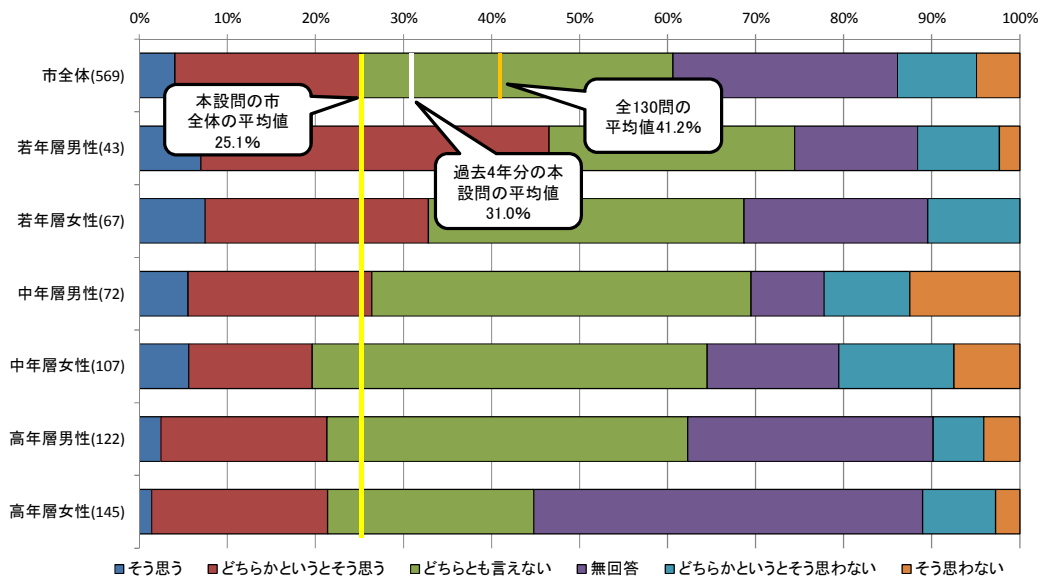
設問2：安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。



- ・設問2の生活実感は、各世代とも女性より男性の肯定的回答割合が高かった。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

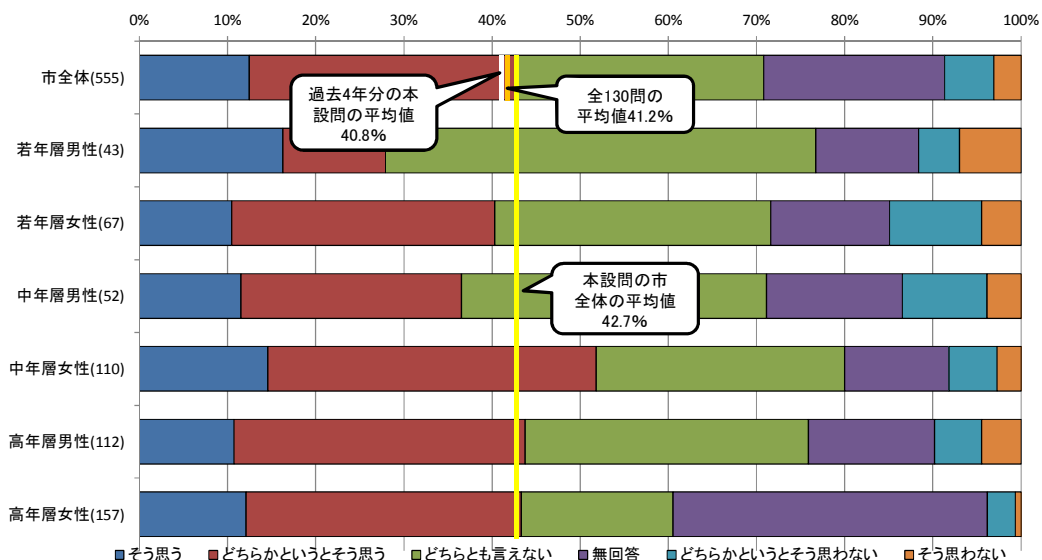
設問3：学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。



・設問3の生活実感は、若年層男性の肯定的回答割合が飛びぬけて高かった（46.5%。市全体は31.0%）。しかし逆に、学校の先生と関わる保護者の中心を占めるとされる中年層女性が最も低い（19.6%）ことには注意を要する。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

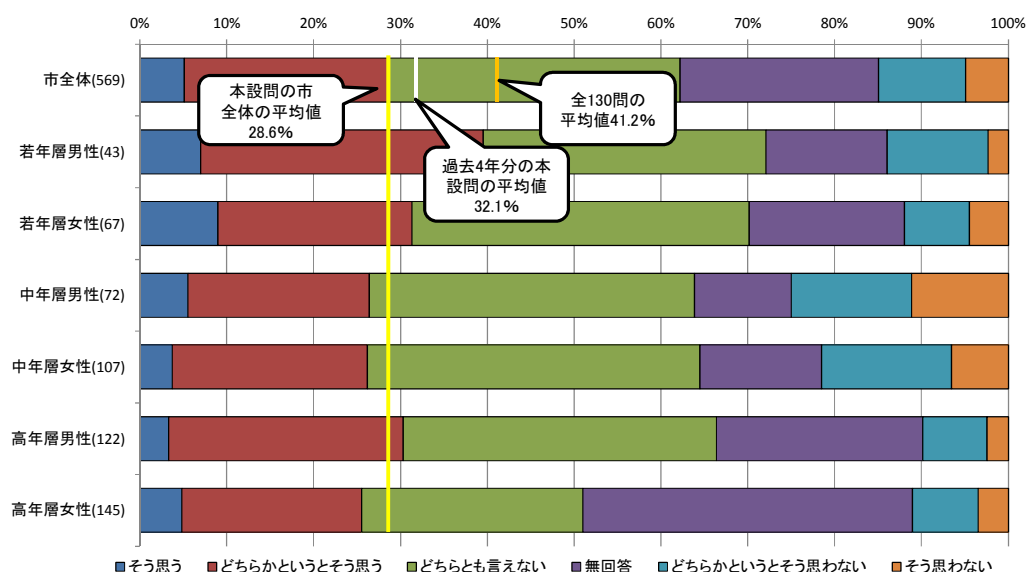
設問4：子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。



・設問4の生活実感は若年層男性の肯定的回答割合が特に低かった（27.9%。市全体は42.7%）。

18 学校教育 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。



・設問5の生活実感の肯定的回答割合は、市全体でも低い（28.6%）が、保護者の中心を占める中年層男女で低かった。

19 生涯学習

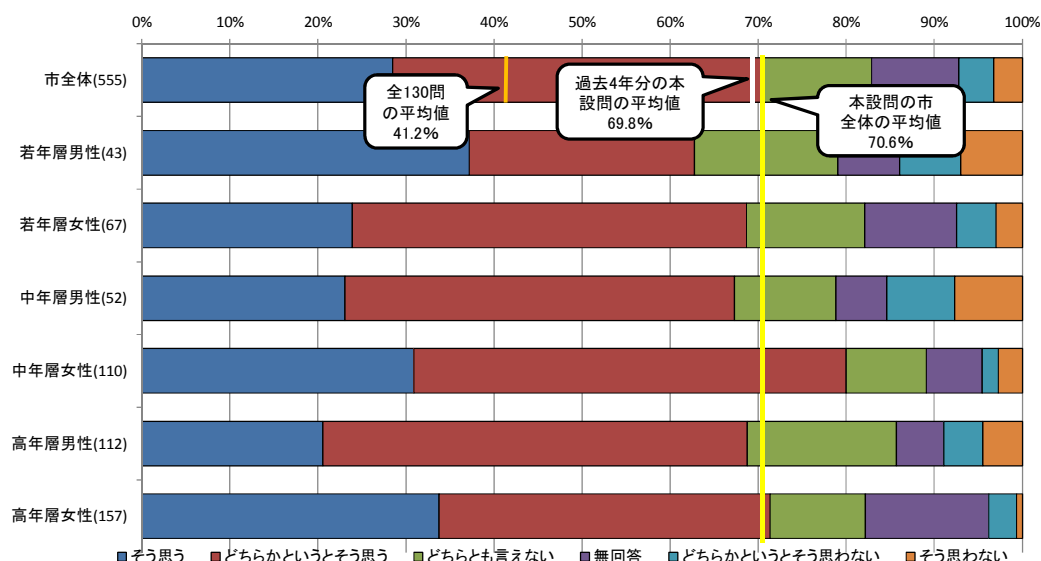
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	40.1%	36.2%	39.2%	41.0%	38.9%		77.0%	76.7%	82.1%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度ともに順位は低かった（どちらも21位）。
- ・設問1「京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。」の生活実感の肯定的回答割合は、全世代別・性別で高かった（約70%）。
- ・設問2「生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。」の生活実感は、中年層女性の肯定的回答割合が特に低かった（20.5%。市全体は26.5%）。
- ・設問3「地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。」の生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が市全体の平均値（32.8%）を大きく上回った。
- ・設問4「子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。」の生活実感は、子育て中の世帯が多い中年層の男女において低い、特に中年層女性の肯定的回答割合が低く（15.0%。市全体は25.5%）、過去4年間の平均値（27.4%）と比べても低下していることは注意を要する。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

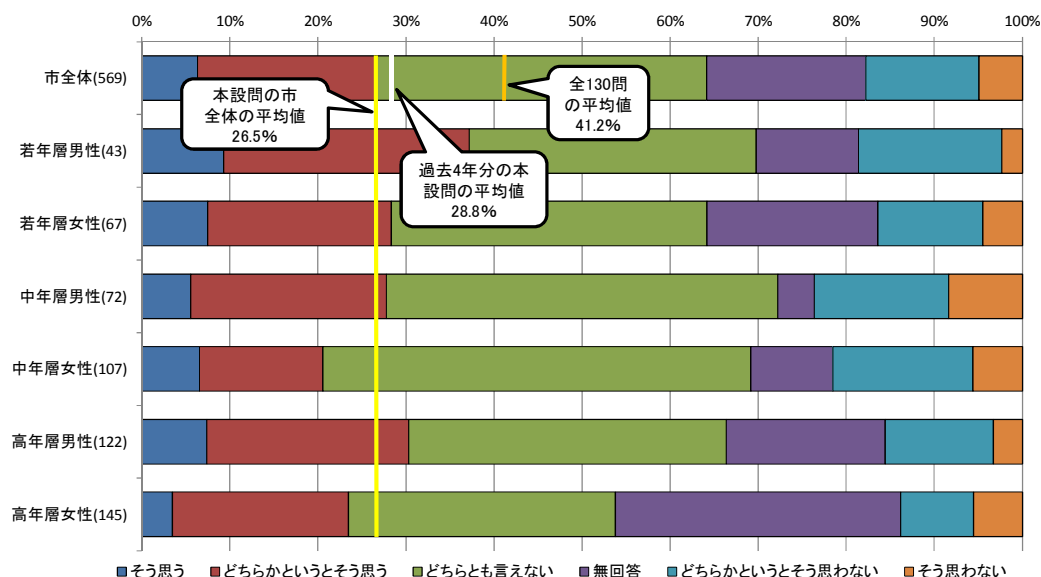
設問1：京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。



・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、全世代別・性別で高かった（約70％）。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

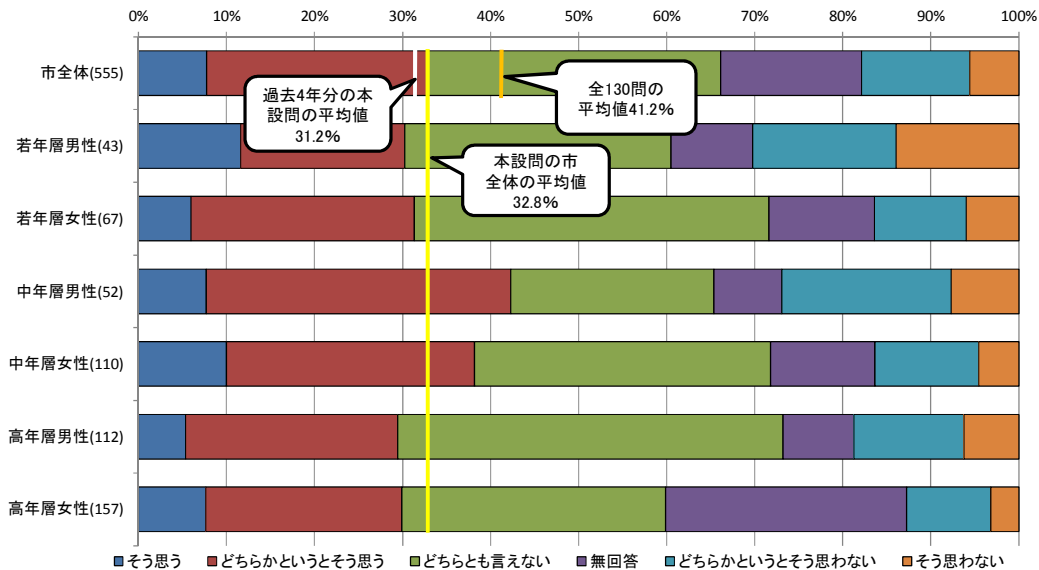
設問2：生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。



・設問2の生活実感、中年層女性の肯定的回答割合が特に低かった（20.5％。市全体は26.5％）。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

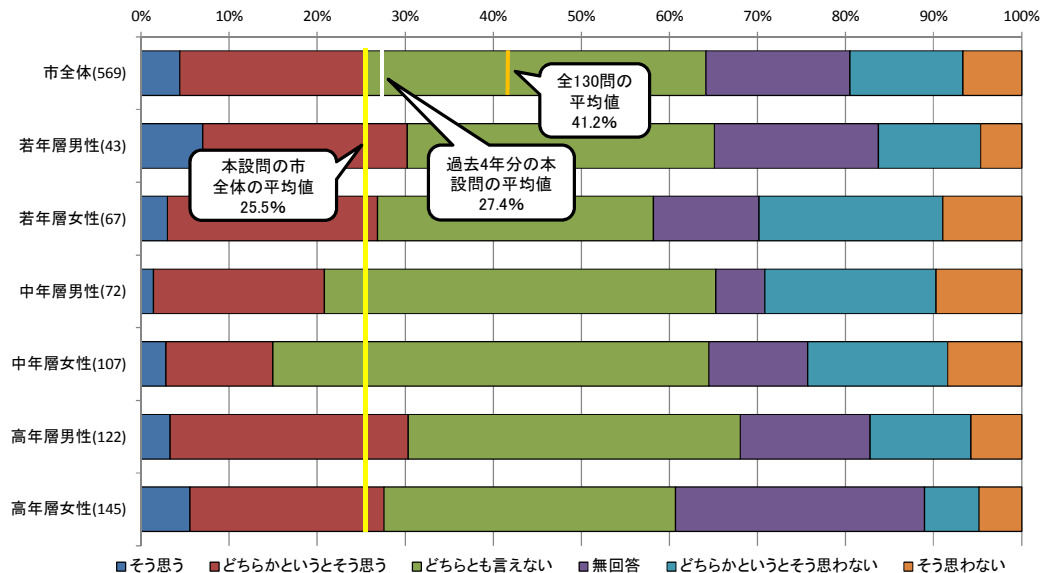
設問3：地域での取組において、幅広い世代がともに学ぶ機会が充実している。



・設問3の生活実感は、中年層男女の肯定的回答割合が市全体の平均値（32.8%）を大きく上回った。

19 生涯学習 生活実感（世代別・性別）

設問4：子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。



・設問4の生活実感は、子育て中の世帯が多い中年層の男女において低いが、特に中年層女性の肯定的回答割合が低く（15.0%。市全体は25.5%）、過去4年間の平均値（27.4%）と比べても低下していることには注意を要する。

20 歩くまち

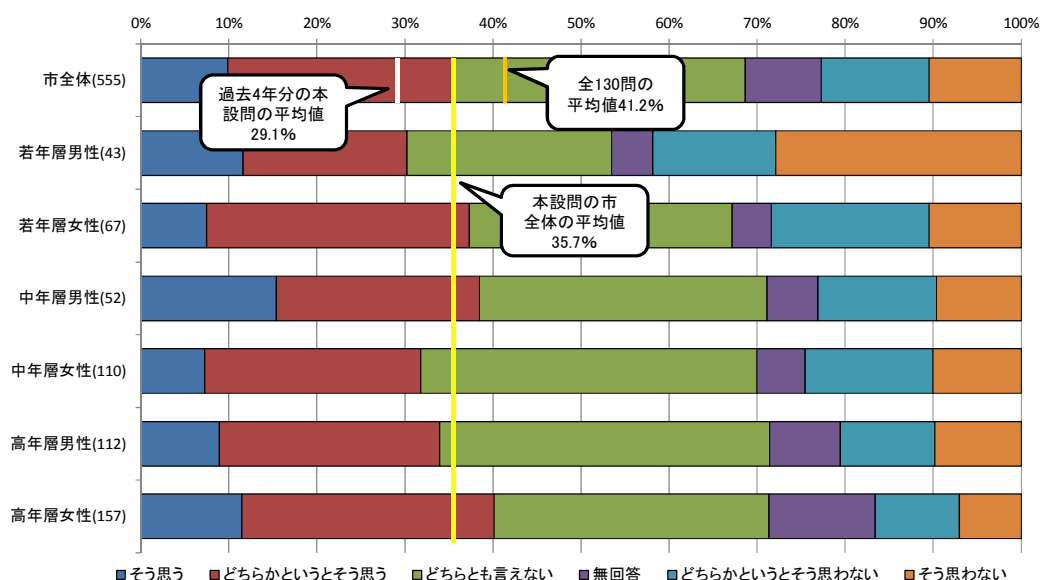
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	42.9%	42.3%	45.3%	46.7%	43.2%		73.3%	75.7%	74.0%

【考察】

- ・生活実感の肯定的回答割合は、市全体で平成26年度にピークとなり、今年度は低下に転じている。政策重要度はもともと低位であるが今年度はさらに順位を一つ落として21位となった。
- ・設問1「京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。」を除き、すべての設問で生活実感の肯定的回答割合が過去4年間の平均値よりも低下した。
- ・その中でも設問4「まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。」の生活実感では、肯定的回答割合が市全体で過去4年間の平均値から4.0%減少し、特に平成26年度よりも5.9%減少（17.6%→11.7%）している。これには四条通歩道拡幅整備事業などの影響が考えられる。
- ・設問2「京都での移動には公共交通が便利である。」の生活実感では、若年層男性の肯定的回答割合の低さ（27.9%。市全体は55.5%）が際立っている。
- ・設問3「歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。」の生活実感では、若年層女性が特に高かった（77.6%。市全体は58.5%）。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

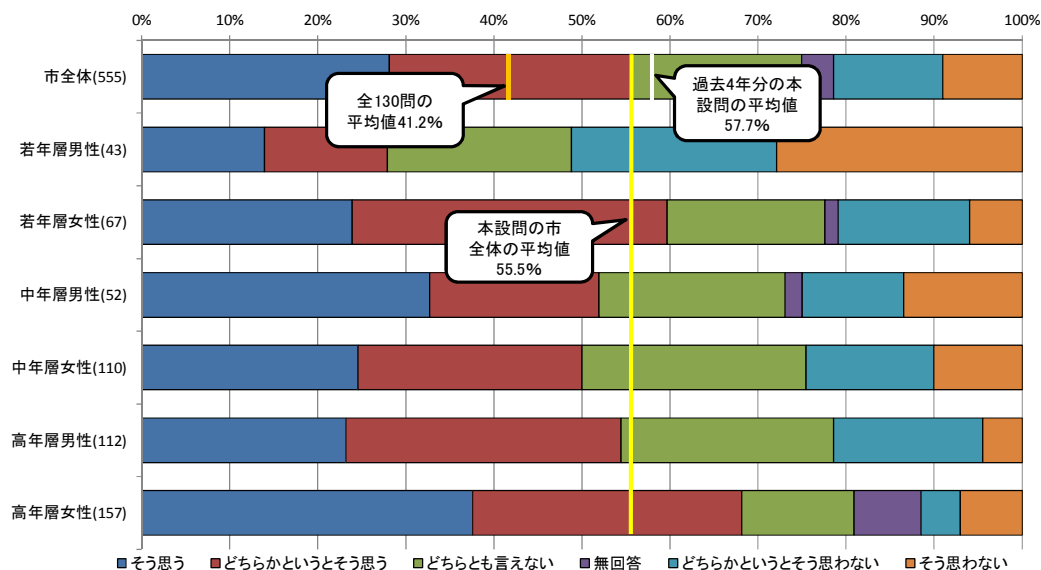
設問1：京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。



- ・設問1は、この分野で唯一、生活実感の肯定的回答割合が過去4年間の平均値より上昇した。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

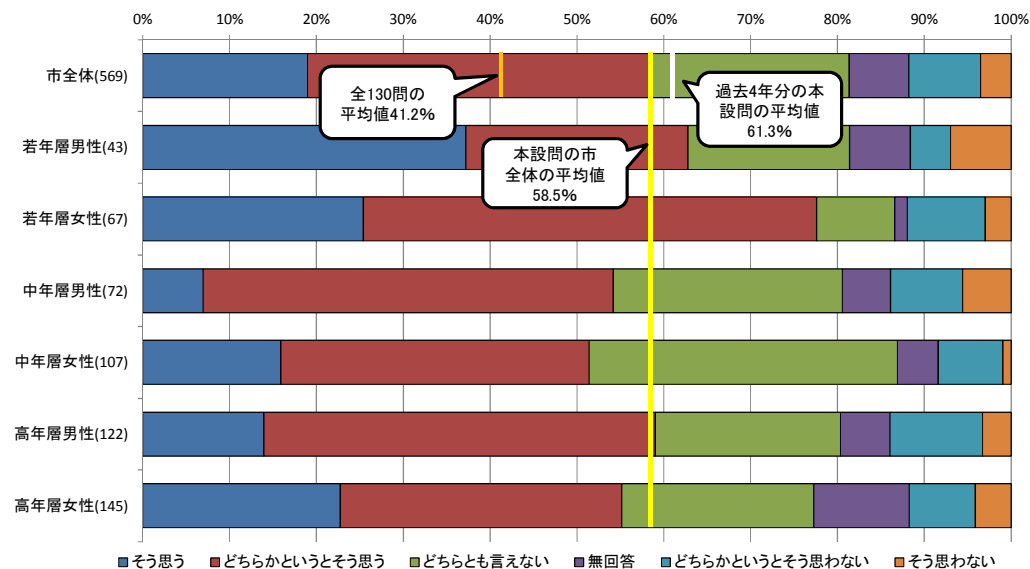
設問2：京都での移動には公共交通が便利である。



・設問2の生活実感では、若年層男性の肯定的回答割合の低さ（27.9%。市全体は55.5%）が際立っている。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

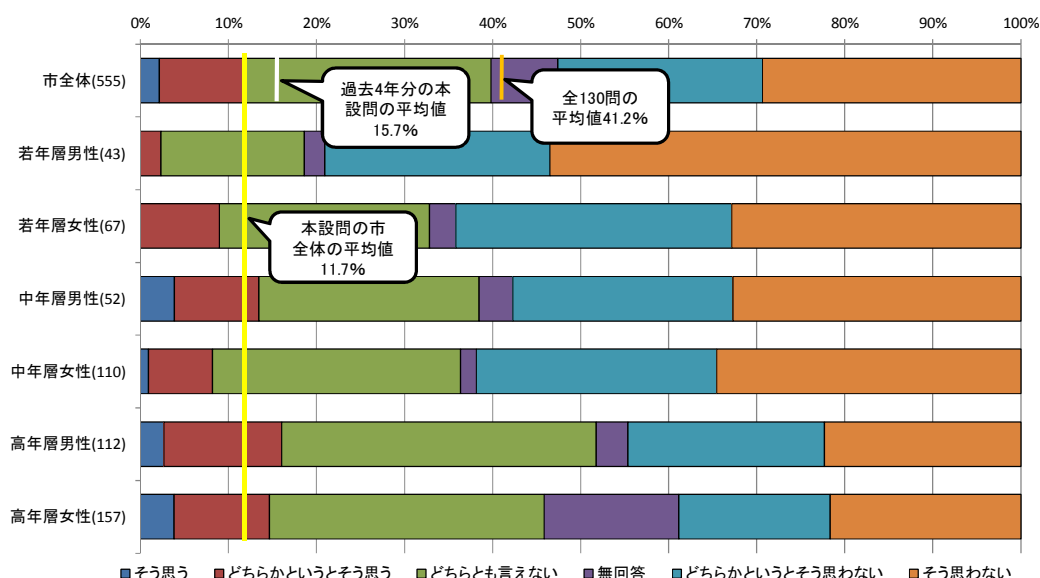
設問3：歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。



・設問3の生活実感は、若年層女性が特に高かった（77.6%。市全体は58.5%）。

20 歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問4：まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。



・設問4の生活実感は、肯定的回答割合が市全体で過去4年間の平均値から4.0%減少し、特に平成26年度よりも5.9%減少（17.6%→11.7%）している。これには四条通歩道拡幅整備事業などの影響が考えられる。

21 土地利用と都市機能配置

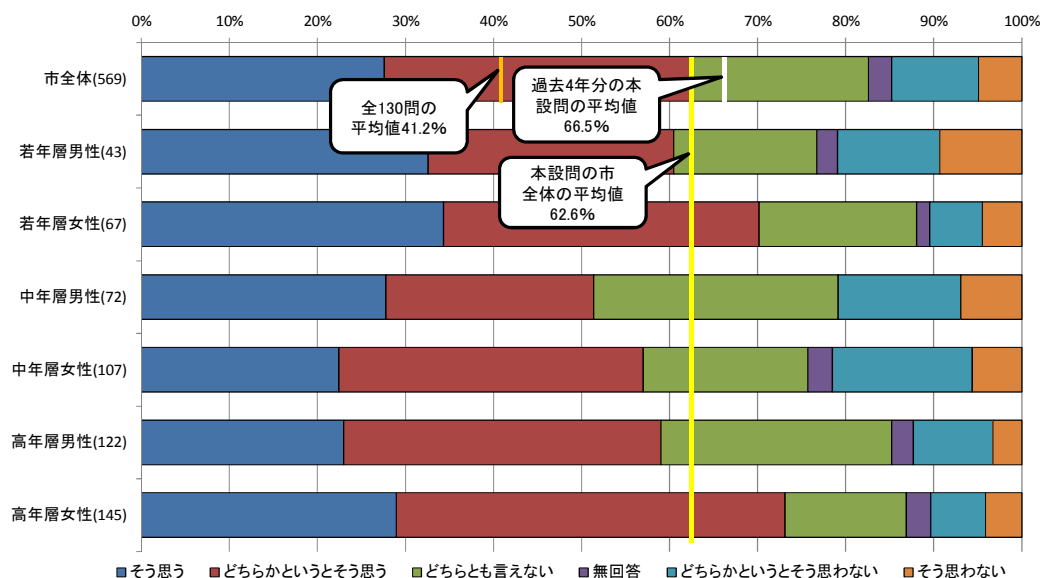
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	47.6%	45.6%	46.6%	47.5%	43.6%		62.5%	63.3%	67.6%

【考察】

- ・設問1「買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。」の生活実感は、男性よりも女性のほうが高い肯定的回答割合だった。
- ・設問2「田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。」の生活実感は、若年層の男女とも高い肯定的回答割合だった（72.1%、73.1%。市全体は60.4%）。
- ・設問3「京都のまちの南部地域が発展してきている。」の生活実感は、肯定的回答割合が過去4年間の平均値と比較して大きく低下している（45.3%→37.1%）。若年層、とりわけ男性の低さが目立つ（18.6%。市全体は37.1%）。また該当地域である伏見区においても市全体の平均値を下回っている（34.7%）点は注意を要する。
- ・設問5「身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。」の生活実感は、勤労世帯の中核をなす中年層の男女の低さ（19.4%、15.9%）が特徴的である。
- ・市民にとって政策分野名から具体的な内容をイメージしづらいことも原因になっていると考えられるが、政策重要度は調査開始から一貫して最下位に位置している。

2 1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

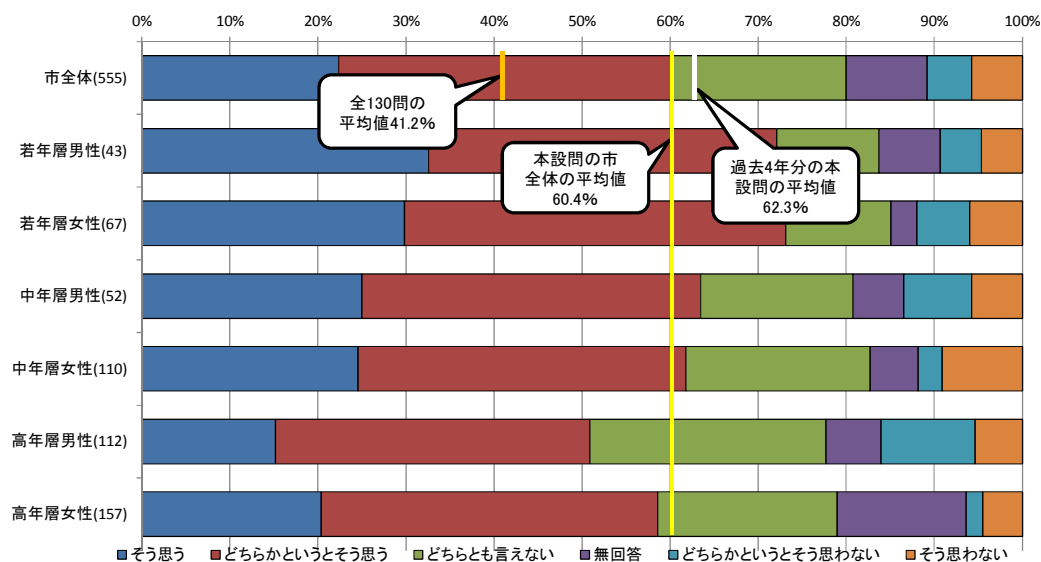
設問1：買物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。



・設問1の生活実感は、男性よりも女性のほうが高い肯定的回答割合だった。

2 1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

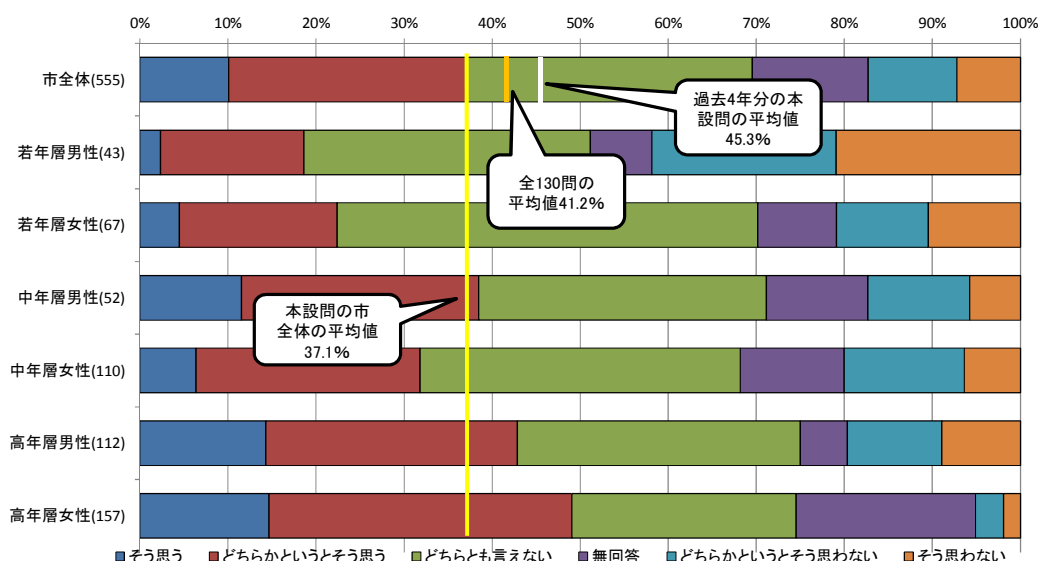
設問2：田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。



・設問2の生活実感は、若年層の男女とも高い肯定的回答割合だった（72.1%、73.1%。市全体は60.4%）。

2 1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

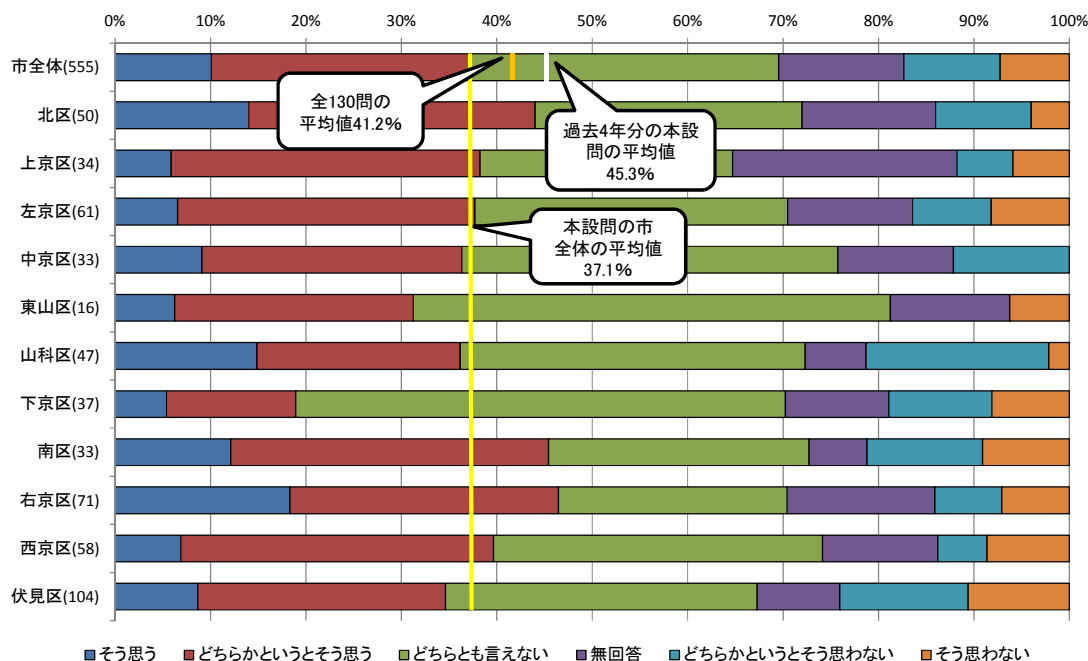
設問3：京都のまちの南部地域が发展してきている。



・設問3の生活実感は、肯定的回答割合が過去4年間の平均値と比較して大きく低下している（45.3%→37.1%）。若年層、とりわけ男性の低さが目立つ（18.6%。市全体は37.1%）。

（1）生活実感（居住区別）

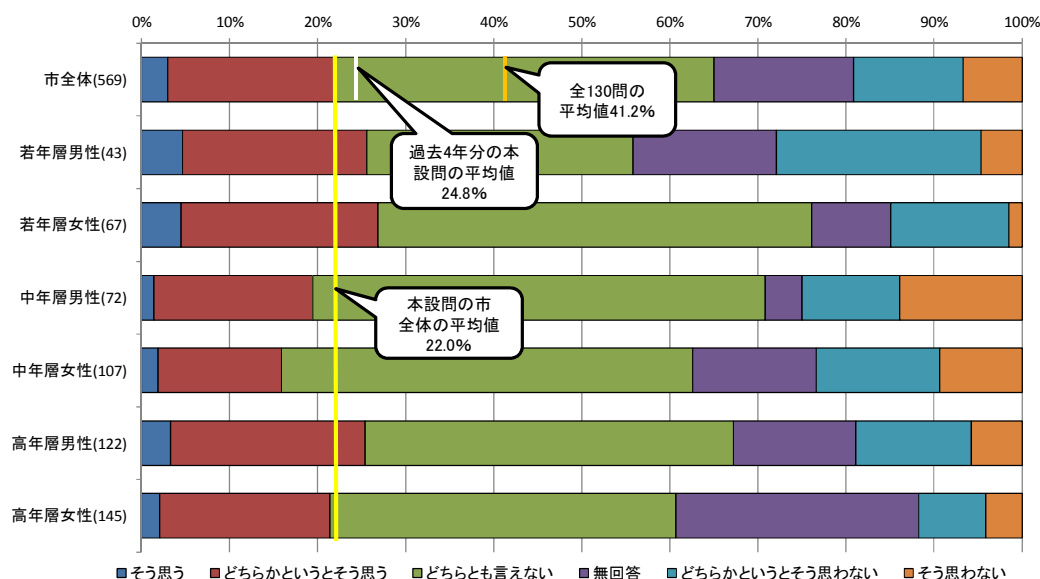
設問3：京都のまちの南部地域が发展してきている。



・設問3の生活実感は、該当地域である伏見区においても市全体の平均値を下回っている（34.7%）点は注意を要する。

2 1 土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問5：身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。



- ・設問5の生活実感は、勤労世帯の中核をなす中年層の男女の低さ（19.4%、15.9%）が特徴的である。

2 2 景観

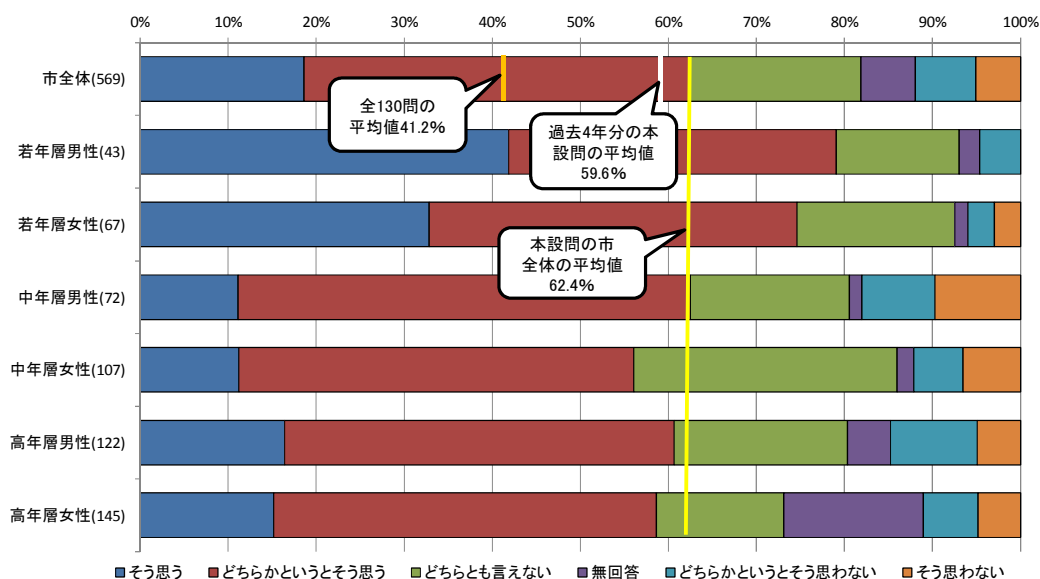
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	60.7%	59.3%	60.1%	60.4%	61.1%		80.6%	81.1%	83.7%

【考察】

- ・設問1「京都の個性的な町並み景観が守られている。」、設問2「身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。」、設問3「京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。」の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（65%～79%）ことが特徴的である。
- ・中年層男性は設問2で生活実感の肯定的回答割合が高かった（71.2%。市全体は61.3%）。
- ・設問4「大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。」の生活実感は、中年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（50.0%）一方、若年層男性の低さ（27.9%）が著しい。行政区別にみると、中京区（48.5%）、東山区（56.3%）、下京区（48.6%）で特に肯定的回答割合が高かった。
- ・政策重要度は、肯定的回答割合が若年層男性で26年度の1位から今年度9位に低下したものの、全世代別・性別で総じて高い政策分野である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

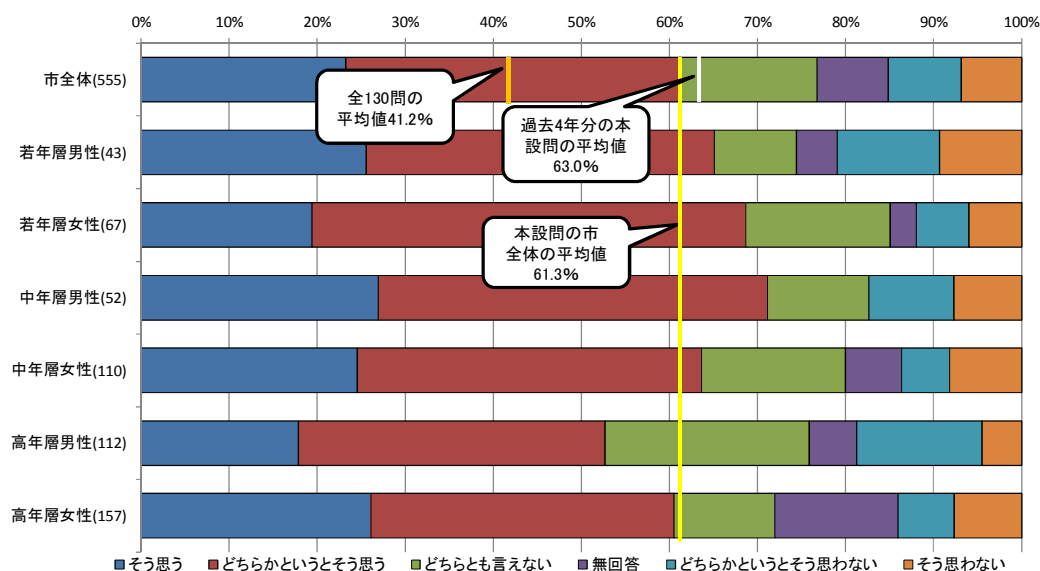
設問1：京都の個性的な町並み景観が守られている。



・設問1の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（79.1%、74.6%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

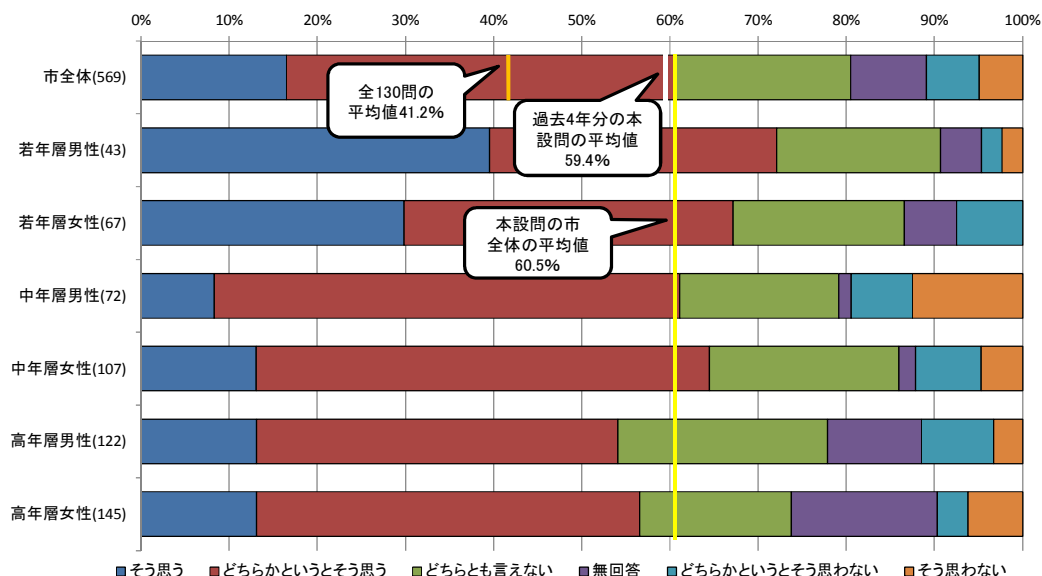
設問2：身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。



・設問2の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（65.1%、68.7%）こと、中年層男性の肯定的回答割合が高かった（71.2%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

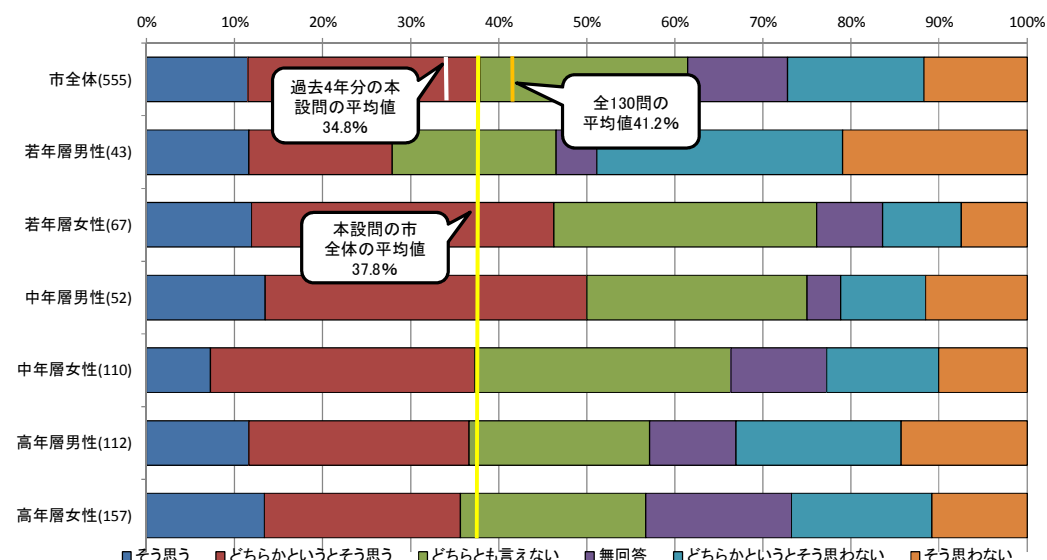
設問3：京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。



・設問3の生活実感は、若年層の男女の肯定的回答割合がいずれも高かった（72.1%、67.2%）ことが特徴的である。

2.2 景観 生活実感（世代別・性別）

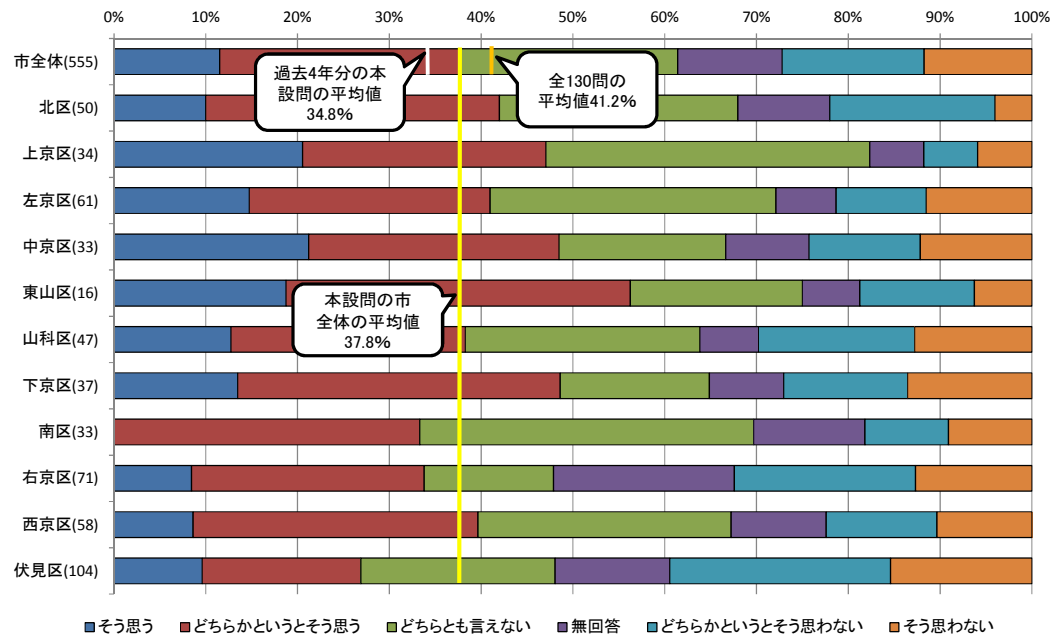
設問4：大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。



・設問4の生活実感は中年層男性の肯定的回答割合が最も高かった（50.0%）一方、若年層男性の低さ（27.9%）が著しい。

2 2 景観 生活実感（居住区別）

設問4：大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。



・設問4の生活実感は、行政区別にみると、中京区（48.5%）、東山区（56.3%）、下京区（48.6%）で特に肯定的回答割合が高かった。

2 3 建築物

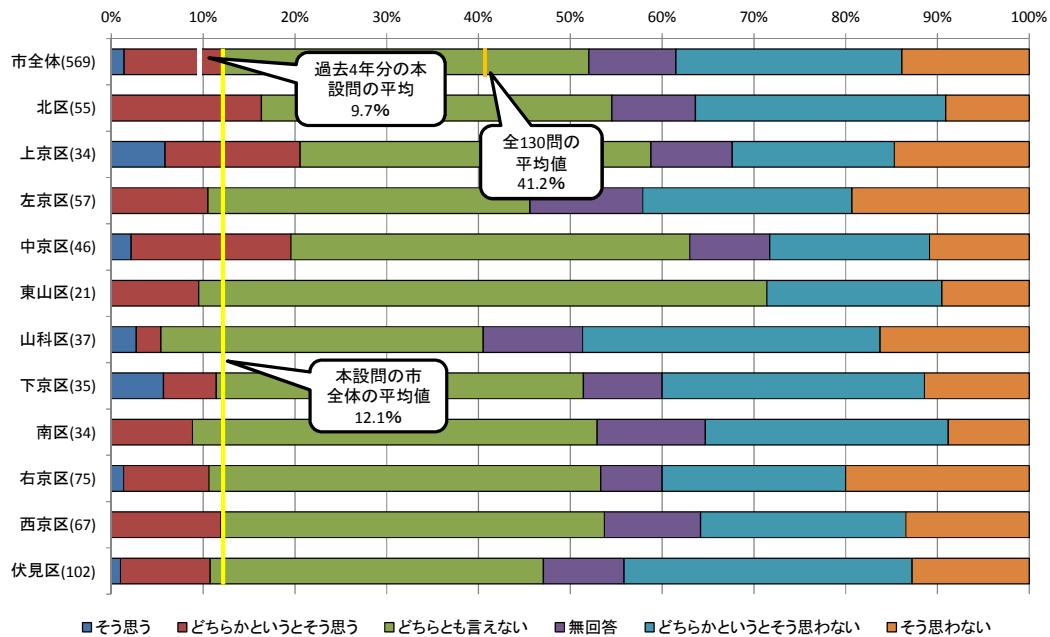
生活実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策重要度	H25	H26	H27
	33.8%	31.8%	33.0%	34.1%	36.8%		80.6%	82.3%	83.5%

【考察】

- 生活実感のすべての設問において、市全体の肯定的な回答割合が過去4年間の平均値よりも高くなった。
- 設問4「身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなりやすいよう改善されている。」の生活実感は、5年間連続して肯定的回答割合が10%程度にとどまっており、とりわけ山科区での低さが際立っている（5.4%。市全体は12.1%）。
- 政策重要度は、どの世代でも男性よりも女性のほうが高く、かつ世代が上がるにつれて肯定的回答割合が増加している。

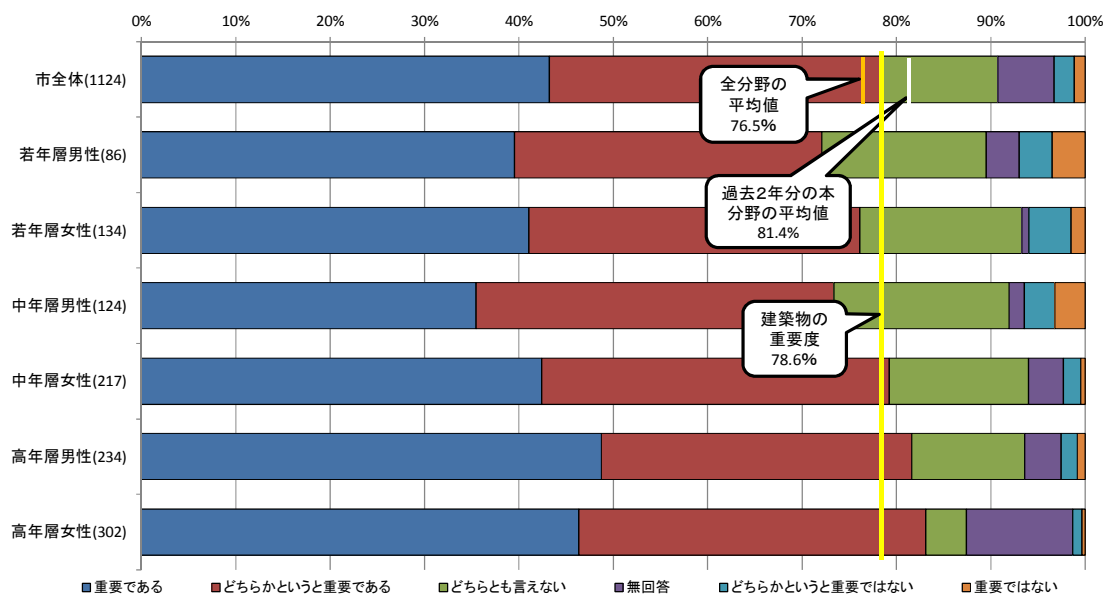
2.3 建築物 生活実感（居住区別）

設問4：身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくならないよう改善されている。



・設問4の生活実感は、5年間連続して肯定的回答割合が10%程度にとどまっており、とりわけ山科区での低さが際立っている（5.4%。市全体は12.1%）。

2.3 建築物 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、どの世代でも男性よりも女性のほうが高く、かつ世代が上がるにつれて肯定的回答割合が増加している。

2 4 住宅

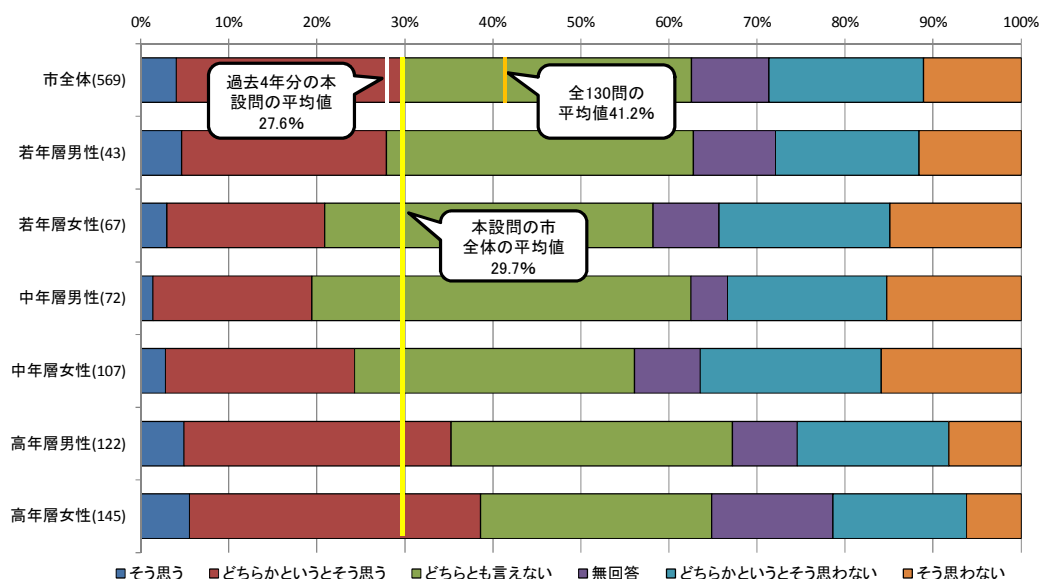
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	23.4%	20.5%	23.1%	24.4%	23.3%		75.5%	77.7%	78.0%

【考察】

- ・設問2「地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層と中年層が低く（20%～28%）、高年層が高かった（35%～39%）。また左京区の低さ（10.5%）が群を抜いていた。
- ・設問3「身近な地域で空き家が減っている。」の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代においても男性より女性のほうが高かった。また住民の高齢化が進み、空き家問題が深刻な東山区では、回答数が少ない（16人）とはいえ、肯定的回答がゼロだったことは注目に値する。
- ・設問4「低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。」の生活実感、5年間を通じてきわめて低い（今年度14.1%、過去4年間平均14.0%）ままであることが特徴的である。

2 4 住宅 生活実感（世代別・性別）

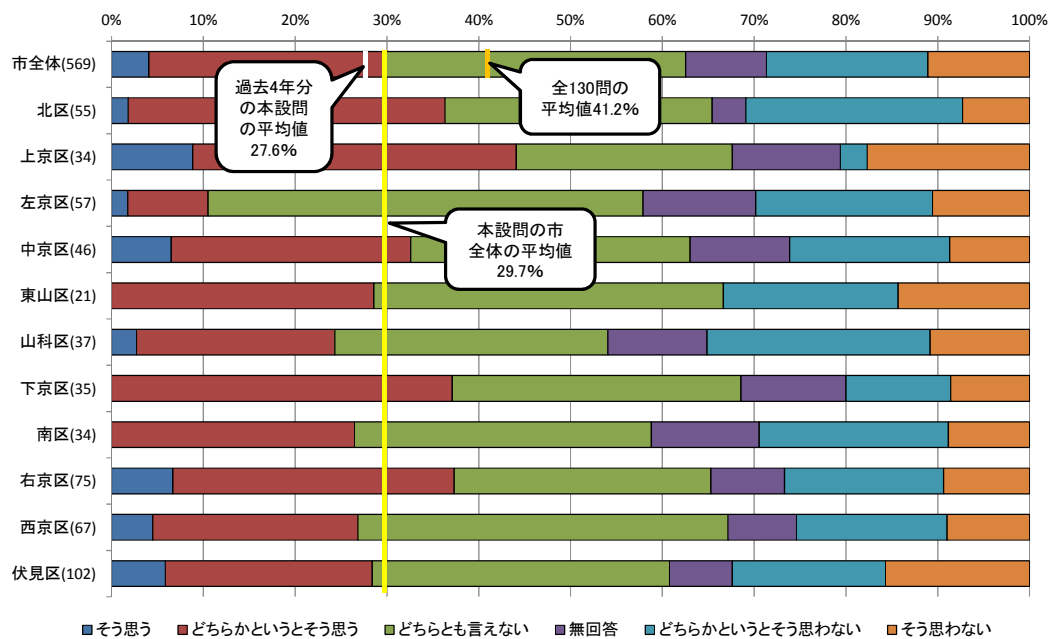
設問2：地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。



- ・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、若年層と中年層が低く（20%～28%）、高年層が高かった（35%～39%）。

2 4 住宅 生活実感（居住区別）

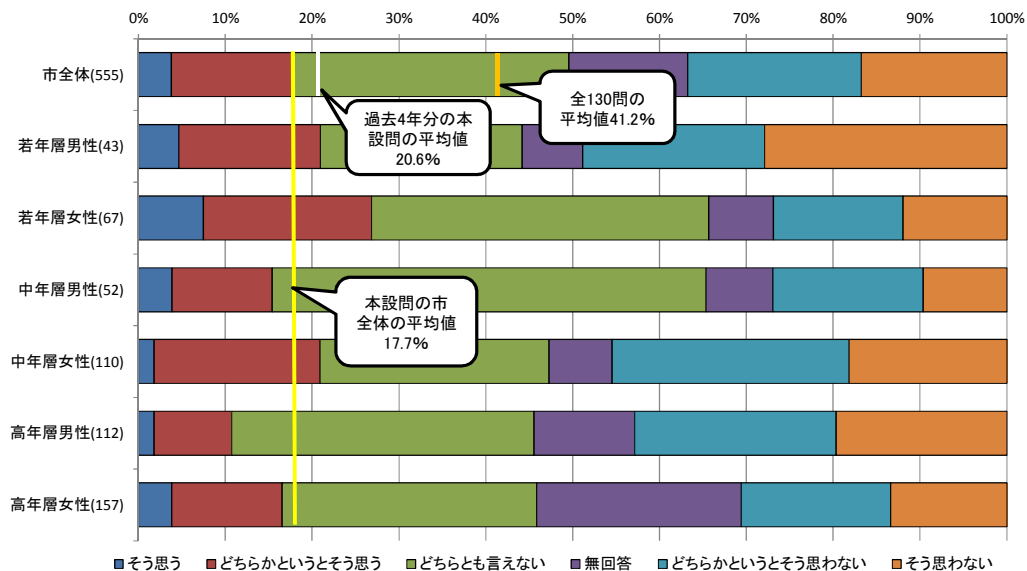
設問2：地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加している。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、左京区の低さ（10.5%）が群を抜いていた。

2 4 住宅 生活実感（世代別・性別）

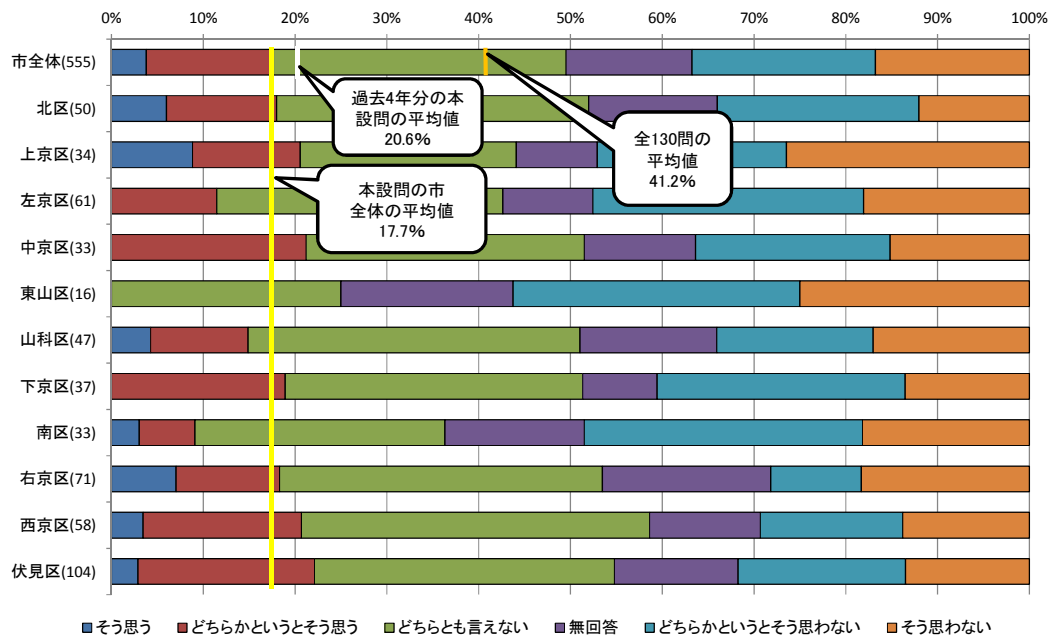
設問3：身近な地域で空き家が減っている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代においても男性より女性のほうが高かった。

24 住宅 生活実感（居住区別）

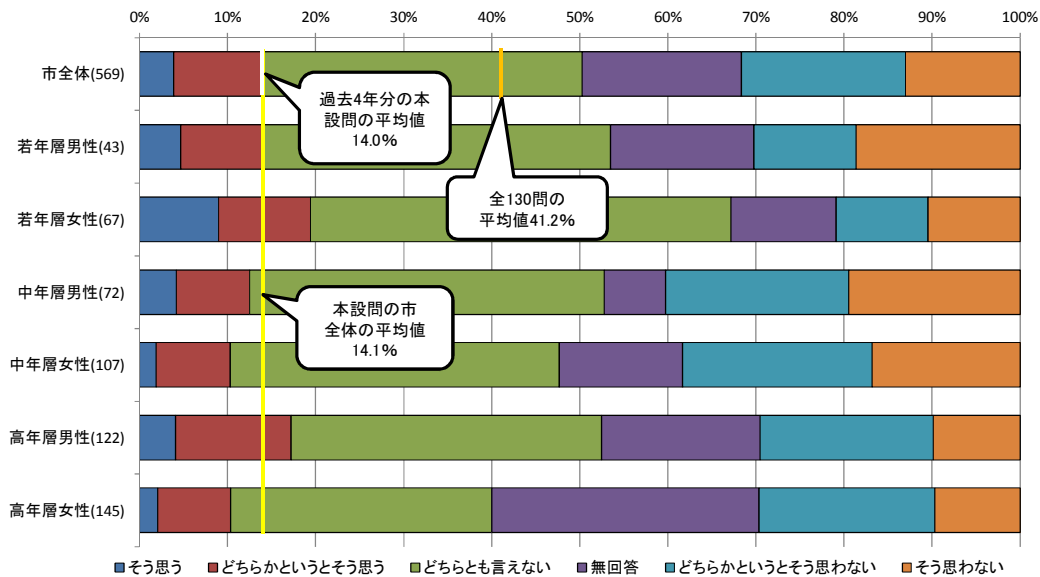
設問3：身近な地域で空き家が減っている。



・設問3の生活実感は、住民の高齢化が進み、空き家問題が深刻な東山区では、回答数が少ない（16人）とはいえ、肯定的回答がゼロだったことは注目に値する。

24 住宅 生活実感（世代別・性別）

設問4：低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。



・設問4の生活実感は、5年間を通じてきわめて低い（今年度14.1%、過去4年間の平均14.0%）ままであることが特徴的である。

2 5 道と緑

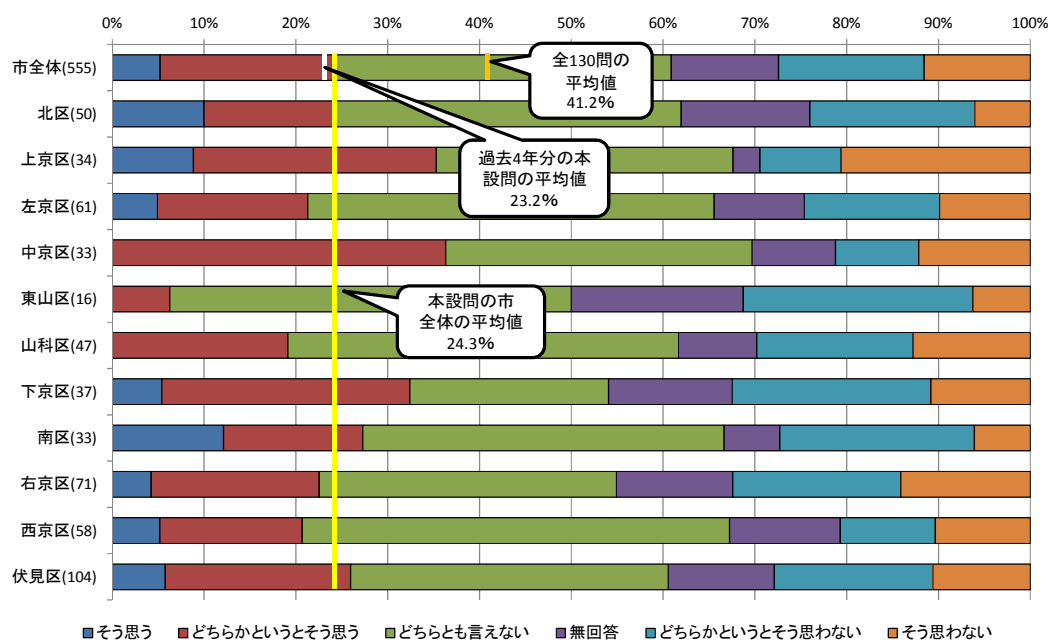
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	44.1%	41.7%	42.9%	44.8%	43.2%		83.6%	83.1%	85.1%

【考察】

- ・設問1「災害時も安全に移動できる道路網ができている。」と設問4「道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（6.3%。市全体は24.3%、23.7%。市全体は42.9%）している。東山区は全設問において市全体を下回っていた。
- ・設問3「市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。」の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代でも女性より男性のほうが高かった。
- ・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、中年層男性の低さが際立っている（27.8%。市全体は42.9%）。

2 5 道と緑 生活実感（居住区別）

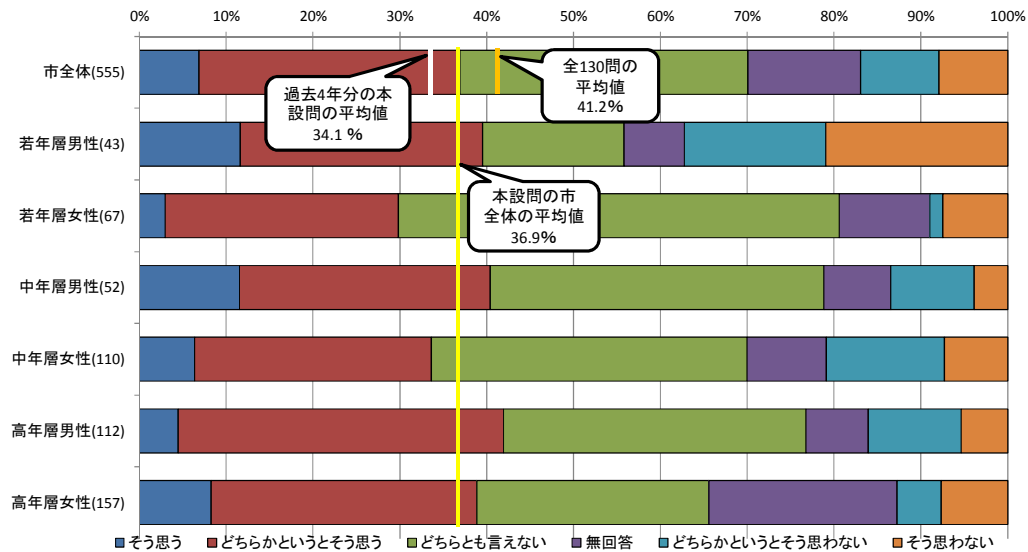
設問1：災害時も安全に移動できる道路網ができている。



- ・設問1の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（6.3%。市全体は24.3%）している。

25 道と緑 生活実感（世代別・性別）

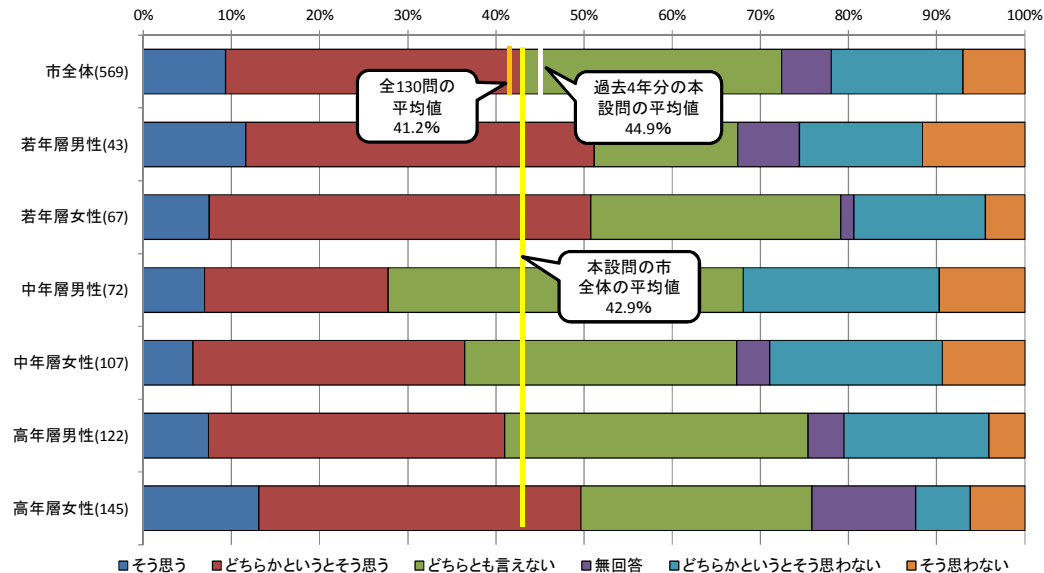
設問3：市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、どの世代でも女性より男性のほうが高かった。

25 道と緑 生活実感（世代別・性別）

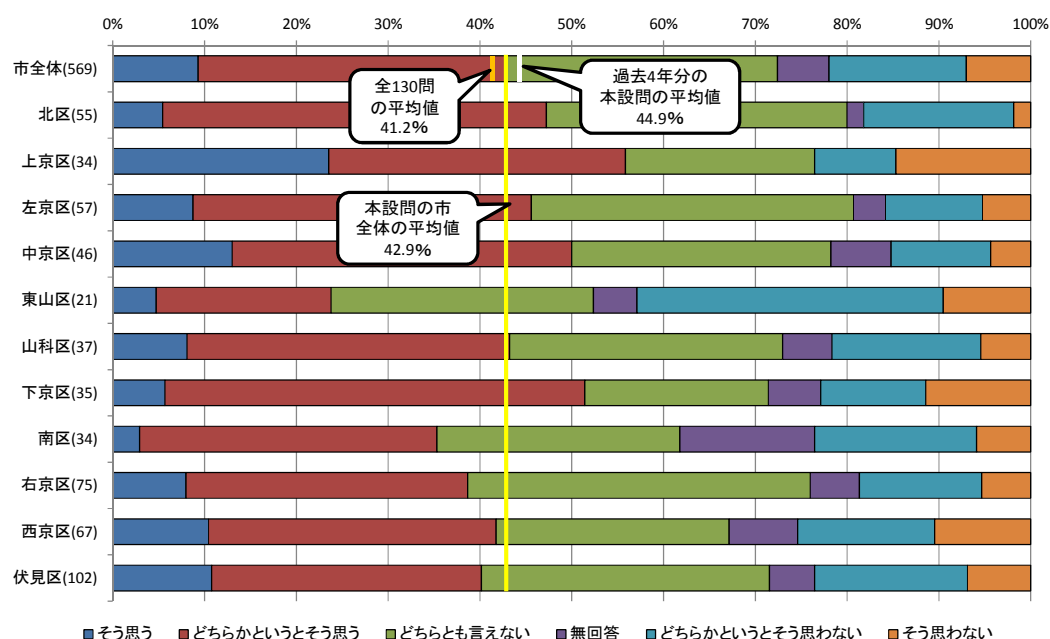
設問4：道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、中年層男性の低さが際立っている（27.8%。市全体は42.9%）。

2 5 道と緑 生活実感（居住区別）

設問4：道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都市空間が増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、東山区での低さが突出（23.7%。市全体は42.9%）している。

2 6 消防・防災

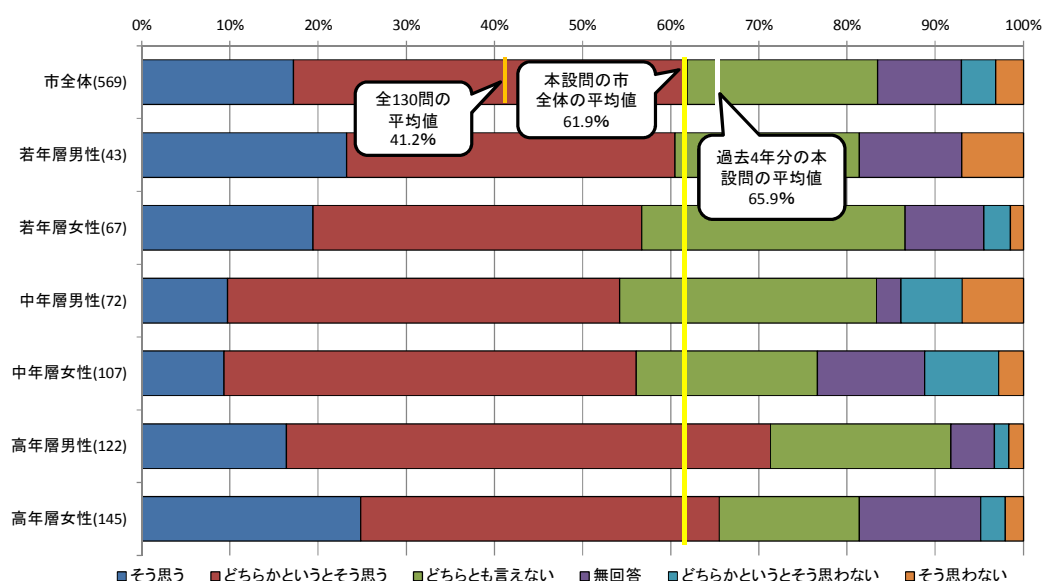
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	50.2%	45.2%	49.1%	49.0%	48.4%		90.9%	90.5%	91.9%

【考察】

- ・政策重要度は過去2年に続いて第1位であり、市民にとって最も関心が高い政策分野といえる。
- ・設問2「京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。」と設問5「防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。」の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。
- ・設問3「消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層男性が低く（51.2%。市全体は70.3%）、逆に中年層男性が高かった（82.7%）。
- ・設問4「応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。」の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の男女とも低さが突出している（約19%。市全体は30%）。
- ・政策重要度は、若い世代ほど肯定的回答割合が低い。若年層男女の約83%、85%に比べて、高年層男女は約92%、91%。

26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

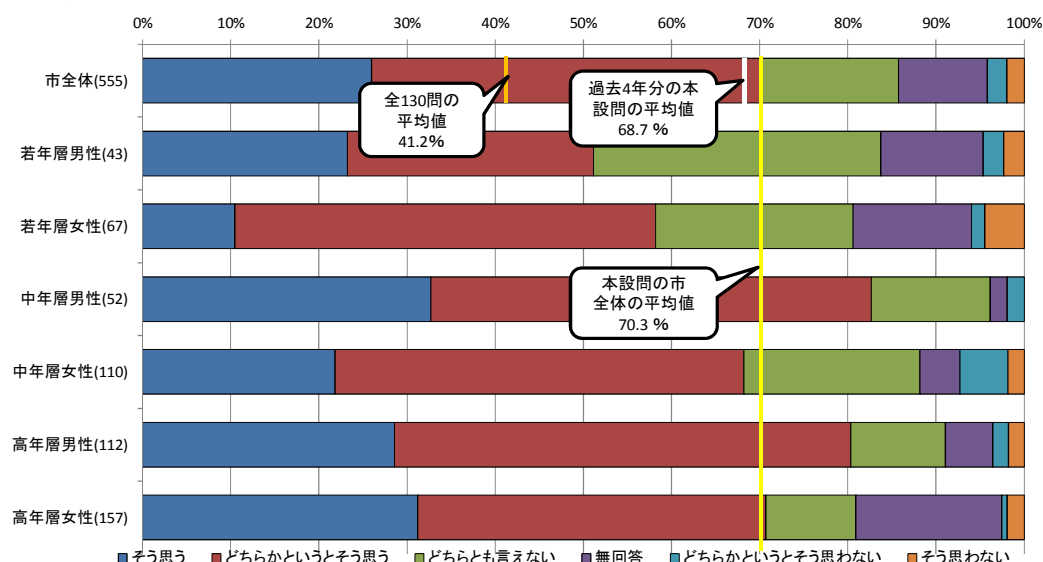
設問2：京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。

26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

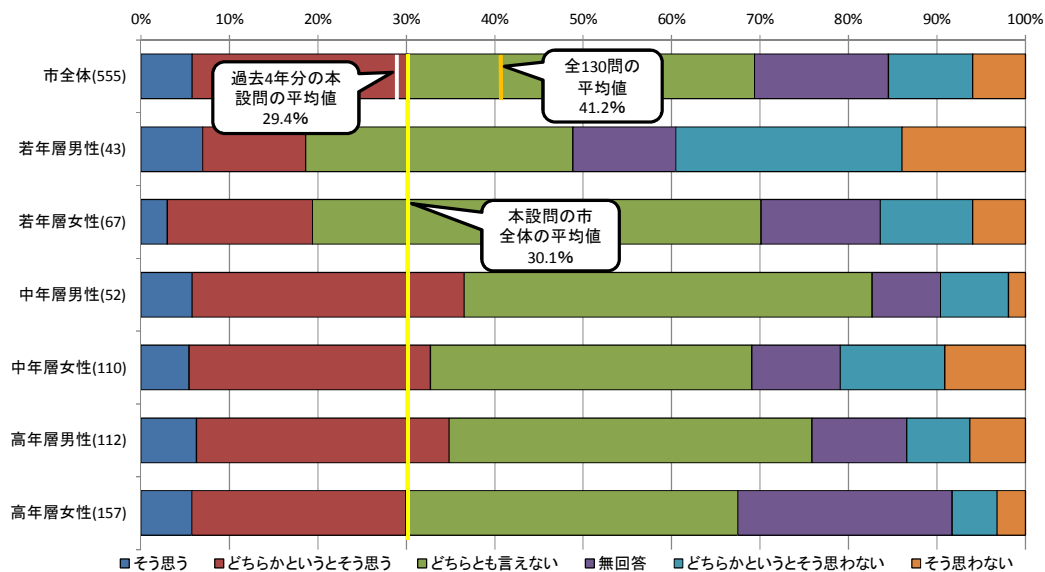
設問3：消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。



・設問3の生活実感の肯定的回答割合は、若年層男性が低く（51.2%。市全体は70.3%）逆に中年層男性が高かった（82.7%）。

26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

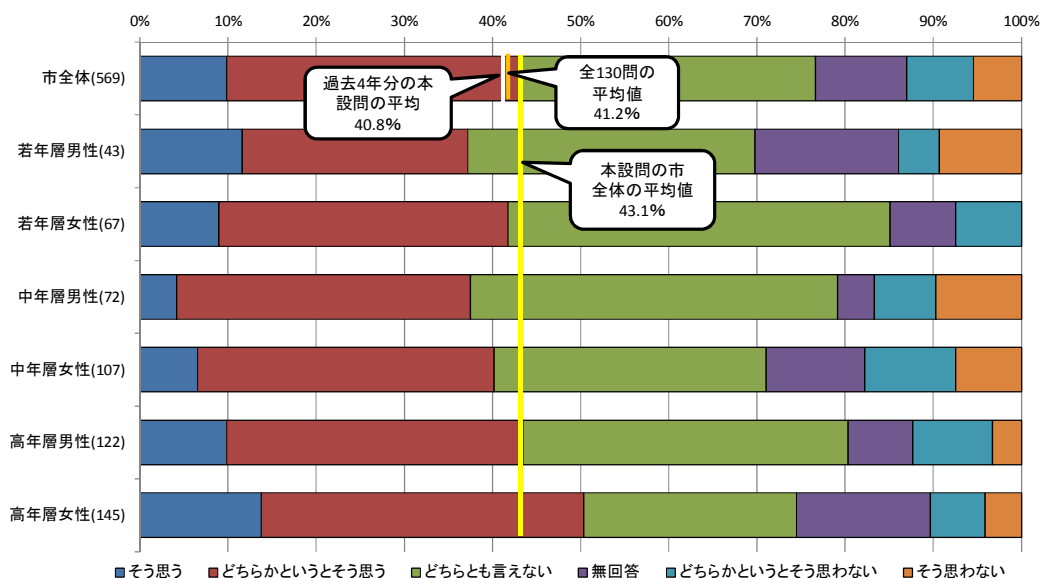
設問4：応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。



・設問4の生活実感の肯定的回答割合は、若年層の男女とも低さが突出している（約19%。市全体は30%）。

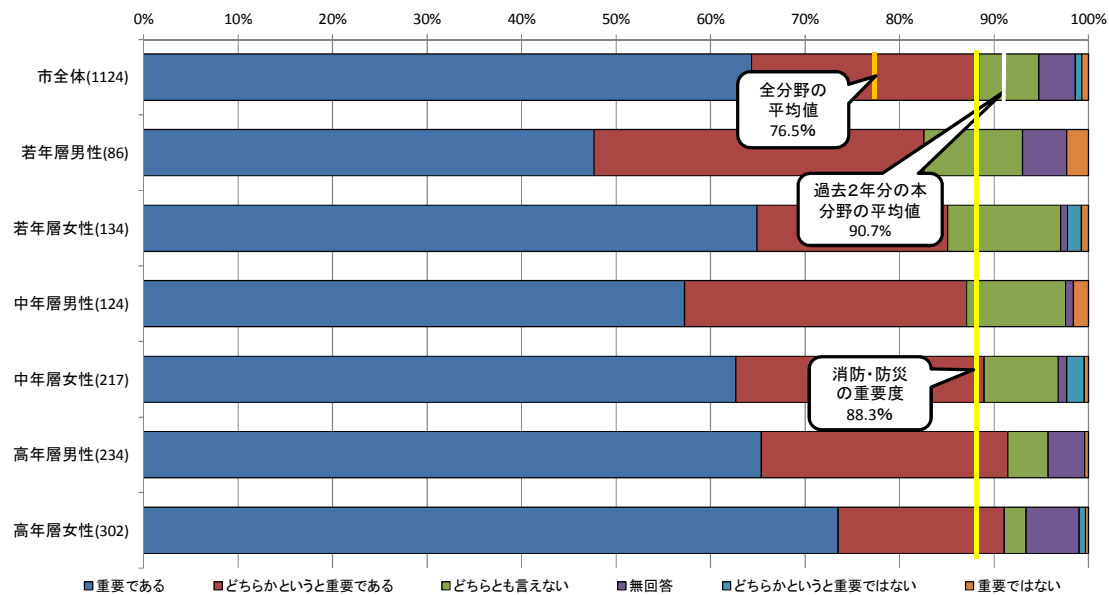
26 消防・防災 生活実感（世代別・性別）

設問5：防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。



・設問5の生活実感の肯定的回答割合は、実際の担い手として期待される若年層・中年層が低かった（いずれも市全体の平均値以下）。

26 消防・防災 政策重要度（世代別・性別）



・政策重要度は、若い世代ほど肯定的回答割合が低い。若年層男女の約83%、85%に比べて、高年層男女は約92%、91%。

27 くらしの水

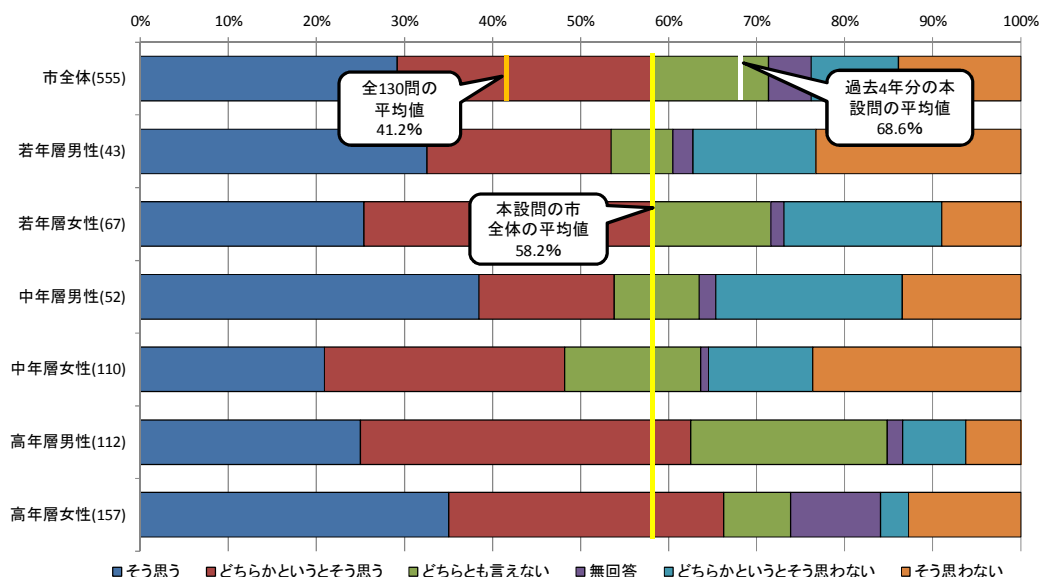
生活 実感	H23	H24	H25	H26	H27	政策 重要度	H25	H26	H27
	63.4%	60.7%	61.9%	60.7%	61.4%		90.1%	89.9%	90.9%

【考察】

- ・生活実感、政策重要度とも、分野全体を通して全体的に高年層の肯定的回答割合が高かった。
- ・設問2「大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。」の生活実感の肯定的回答割合は、顕著に低下した昨年度と比較すると持ち直した（53.1%→58.2%）ものの、過去4年間の平均値（68.6%）を大きく下回っている。行政区別に見ると右京区、西京区及び伏見区が特に低かった（49.3%、43.1%、43.3%）。
- ・設問4「水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。」、設問5「京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。」、設問6「水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。」の生活実感は、いずれも若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 くらしの水 生活実感（世代別・性別）

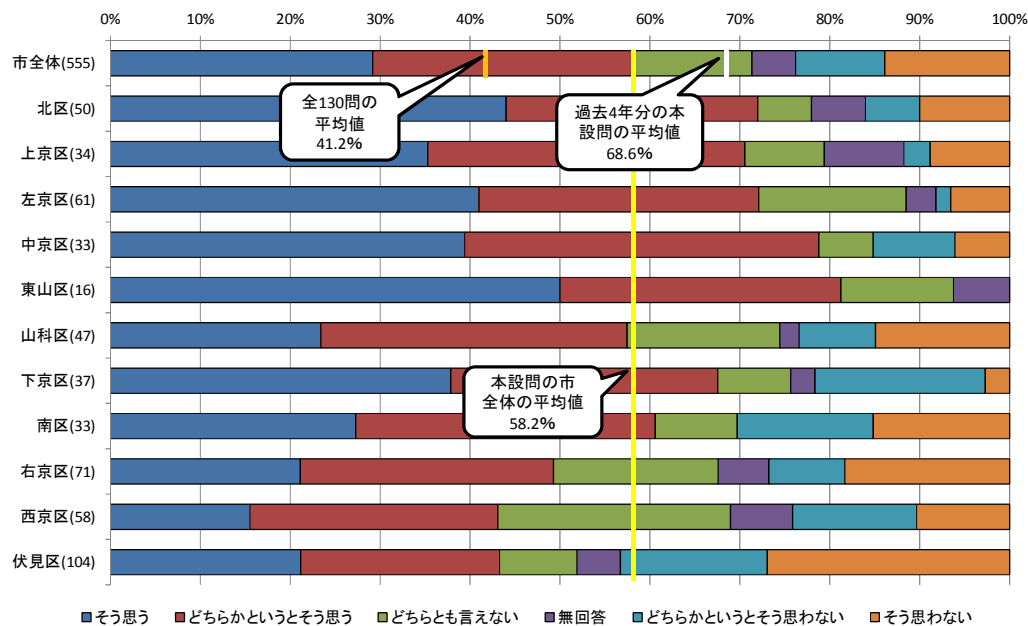
設問2：大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、顕著に低下した昨年度と比較すると持ち直している（53.1%→58.2%）ものの、過去4年間の平均値（68.6%）を大きく下回っている。

27 くらしの水 生活実感（居住区別）

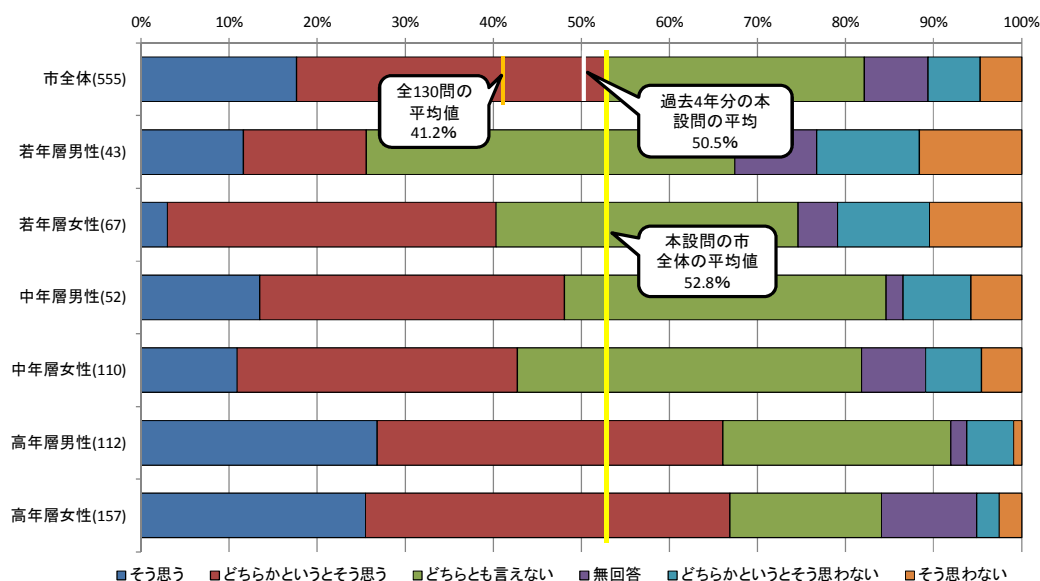
設問2：大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。



・設問2の生活実感の肯定的回答割合は、行政区別に見ると右京区、西京区及び伏見区が特に低かった（49.3%、43.1%、43.3%）。

27 くらしの水 生活実感（世代別・性別）

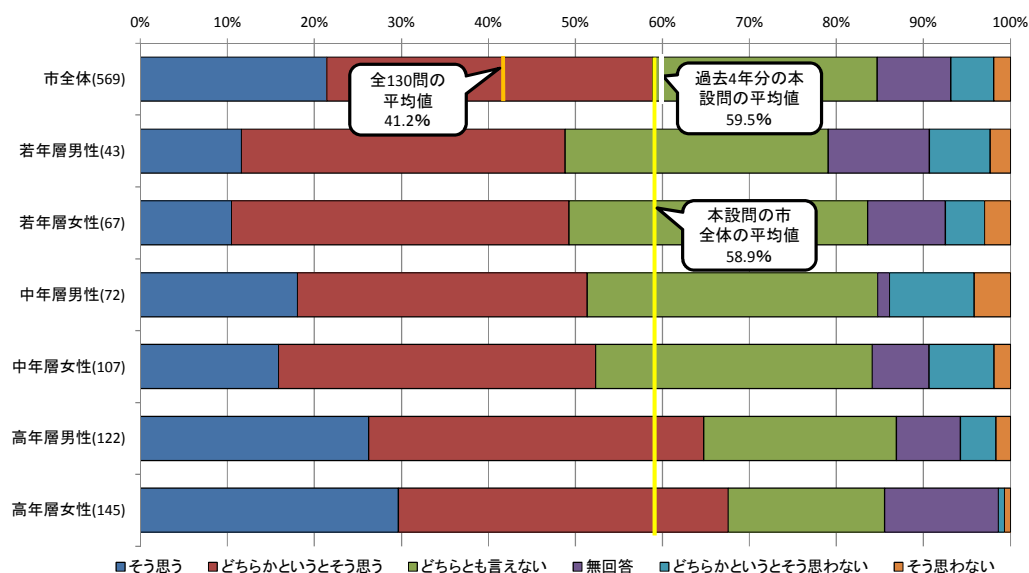
設問4：水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。



・設問4の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 くらしの水 生活実感（世代別・性別）

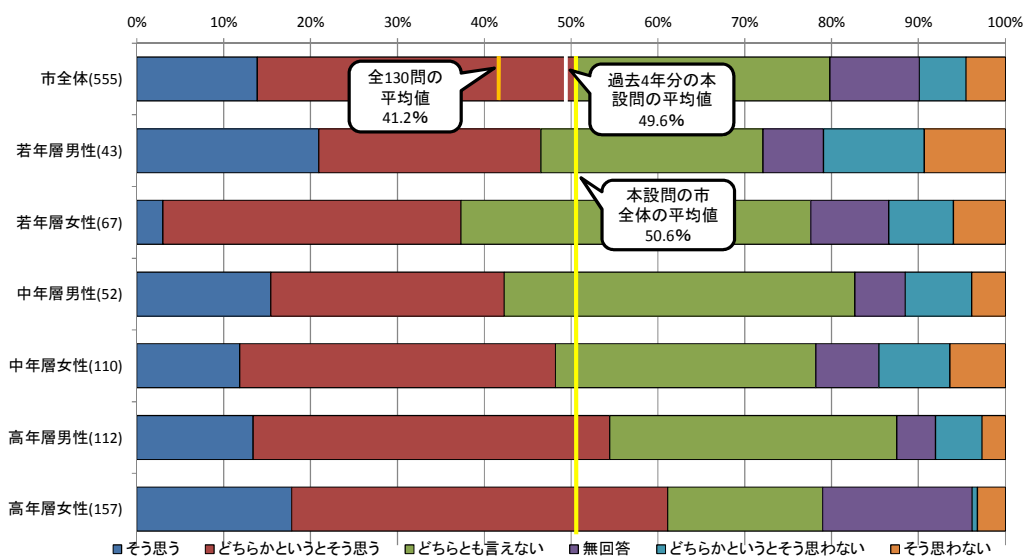
設問5：京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。



・設問5の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

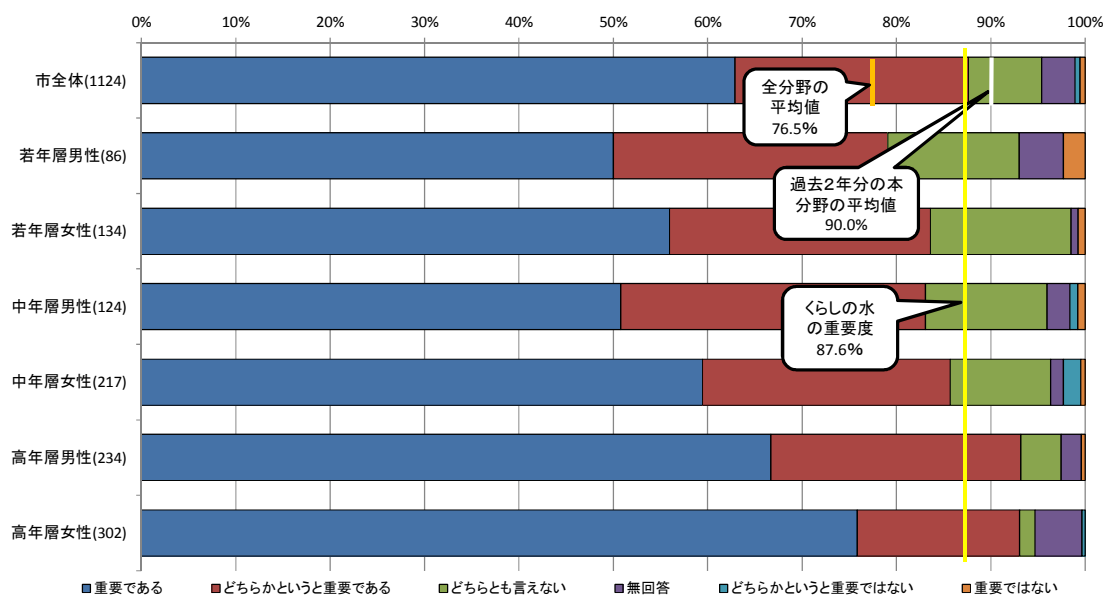
27 くらしの水 生活実感（世代別・性別）

設問6：水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。



・ 設問6の生活実感は、若年層の男女とも肯定的回答割合が低かった。

27 くらしの水 政策重要度（世代別・性別）



・ 政策重要度は、高年層の肯定的回答割合が高かった。